

平成27年度 埼玉県政世論調査結果の概要

県政世論調査は、県政の重要課題に対する県民の関心、意識、要望などを把握し、施策の立案及び推進の資料として活用するため、昭和43年度から毎年度実施しています。

今年度は、課題調査として「人口減少問題」「大地震への備え」「川の再生」の3つのテーマと、定期調査（時系列項目）として「生活意識」「日常生活」「県政への要望」について調査を行いました。

【目次】

○ 調査のあらまし	
調査結果のポイント	1
調査結果（単純集計結果）	7
1 生活意識	8
2 日常生活	25
3 県政への要望	40
4 人口減少問題	46
5 大地震への備え	53
6 川の再生	63
（参考資料）世論調査実施状況	68

< 本調査の内容及び結果についてのお問い合わせ先 >

埼玉県県民生活部広聴広報課 広聴・知事への提言担当

電話 048-830-2850（直通）

○ 調査のあらまし

1 調査の目的

県民の県政に対する要望、意見及び県民の生活意識などを把握し、県政推進のための資料とする。

2 調査の項目

- (1) 生活意識（昨年と比べた暮らし向き、生活程度、生活全体の満足度、定住意向）
- (2) 日常生活
- (3) 県政への要望
- (4) 人口減少問題
- (5) 大地震への備え
- (6) 川の再生

3 調査の設計

- (1) 調査地域 埼玉県全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000
- (4) 抽出方法 住民基本台帳による層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 調査員による個別面接聴取法
- (6) 調査時期 平成27年7月3日～26日
- (7) 調査実施委託機関 株式会社 サーベイリサーチセンター

4 回収結果

- (1) 有効回収数（率） 2,157（71.9%） 対前年比 +1.1ポイント
- (2) 調査不能数（率） 843（28.1%）
〔調査不能の内訳〕
 - 転 居 54（6.4%） 長期不在 68（8.1%）
 - 一時不在 328（38.9%） 住所不明 36（4.3%）
 - 拒 否 273（32.4%） 病気・入院 54（6.4%）
 - そ の 他 30（3.6%）

5 回答者の属性（上段：人、下段：%）

(1) 性 別

全 体	男 性	女 性
2,157	1,092	1,065
100.0	50.6	49.4

(2) 年代別

全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
2,157	181	310	431	365	476	394
100.0	8.4	14.4	20.0	16.9	22.1	18.3

6 調査結果の見方

- (1) 結果は、百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体又はカテゴリーを小計した数値が一致しないことがある。なお、回答者を絞った質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- (2) 1人の対象者に2つ以上の回答を認めた質問では、回答の合計を回答者（n）で割った比率を算出しており、通常その百分率の合計は、100%を超える。また、この回答の合計数を M.T.と表示した。

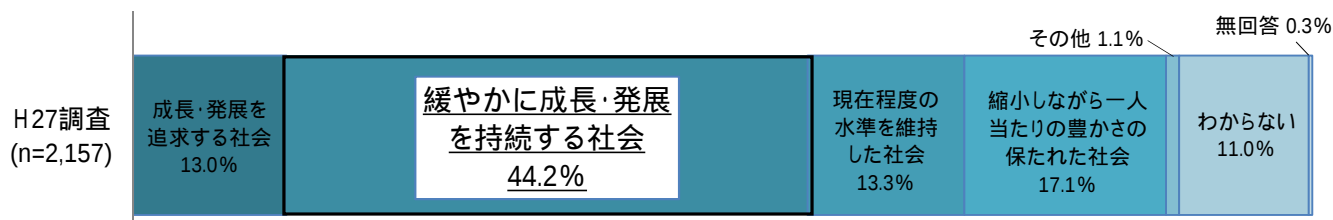
調査結果のポイント

1 課題調査

人口減少問題について

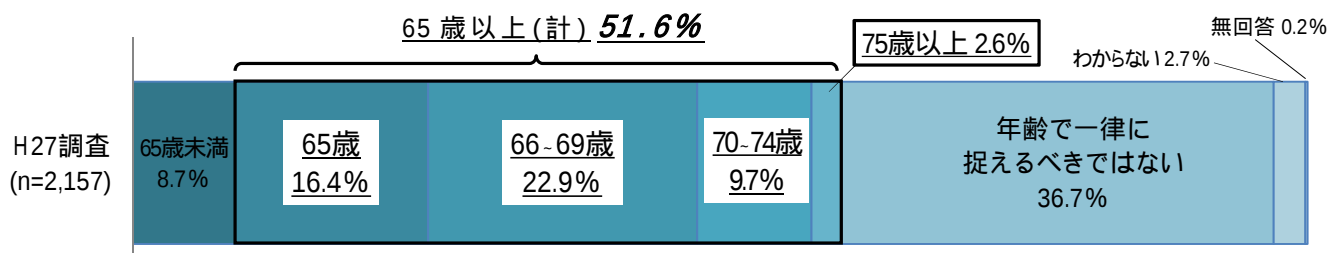
(1) 埼玉県が将来目指すべき社会

・「緩やかに成長・発展を持続する社会」が4割半ば(44.2%)と最も多い

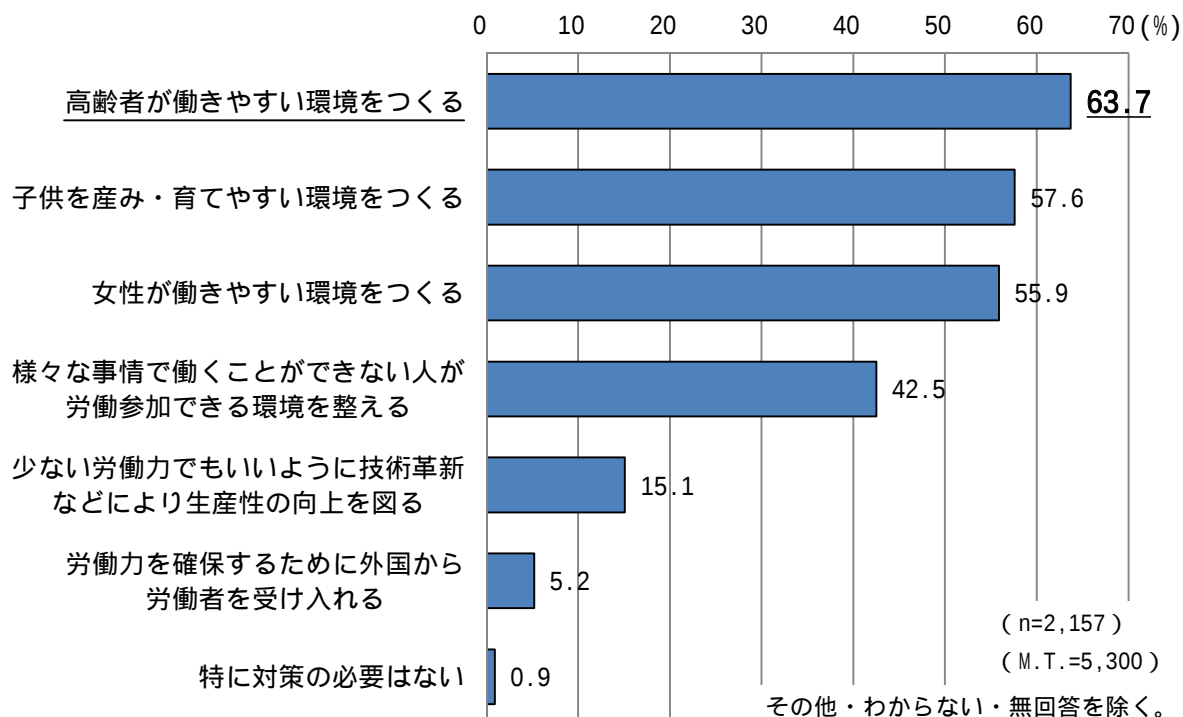


(2) 働くのが望ましい年齢

・「65歳以上(計)」が5割強(51.6%)



(3) 経済の活力を維持するために必要なこと(複数回答)

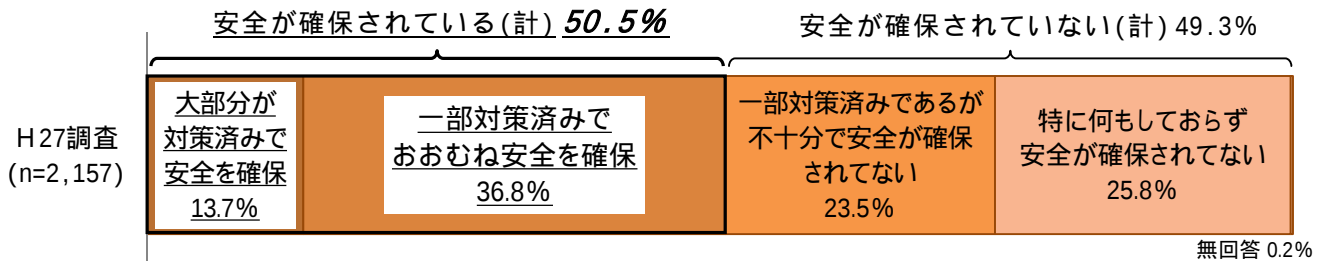


大地震への備えについて

(1)家具類の転倒・落下・移動防止対策()による安全確保の状況

家具類の固定や配置の工夫、据え付け収納家具の活用、家具類がない部屋で就寝するなどの対策をいいます。

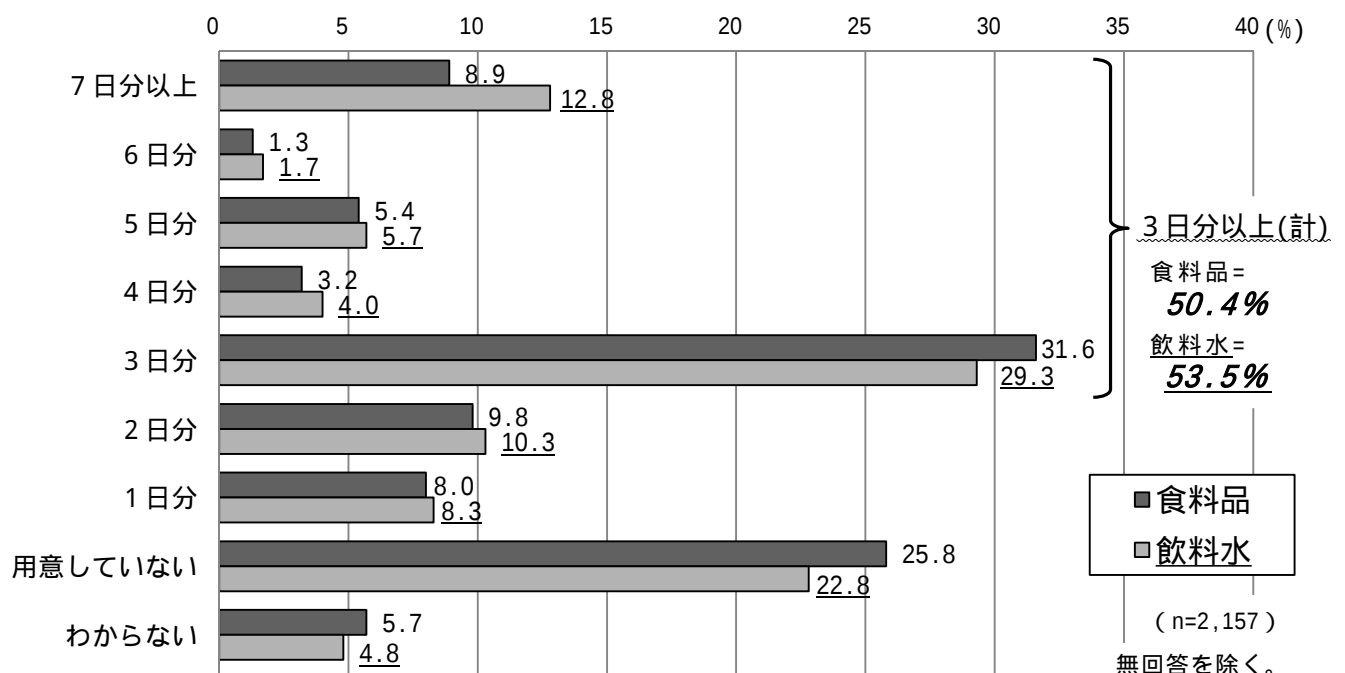
- ・「安全が確保されている(計)」が5割強(50.5%)
- ・一方で、「特に何もしておらず安全が確保されていない」は2割半ば(25.8%)



(2)災害時に備えた備蓄量()

県では、各家庭で災害時に備えて、3日分以上(できれば1週間分)の食料品と飲料水(1日に1人当たり3リットル)の備蓄をお願いしています。

- ・平均日数：食料品 = 2.5 日分、飲料水 = 2.8 日分
- ・「3日分以上(計)」の回答割合：食料品(50.4%)、飲料水(53.5%) とともに5割強
- ・「用意していない」の回答割合：食料品(25.8%)、飲料水(22.8%)



(3)災害用伝言サービスの体験利用経験

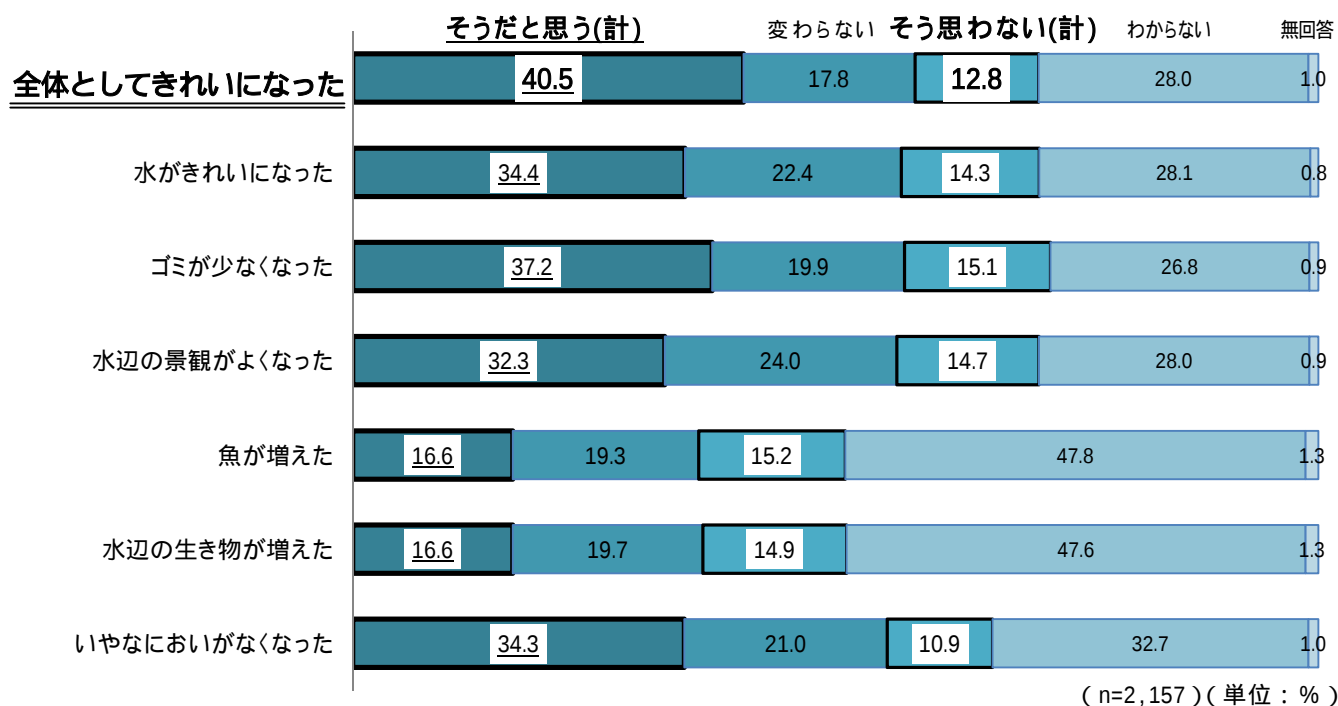
- ・体験利用したことが「ない」が8割半ば超(87.3%)と大半



川の再生について

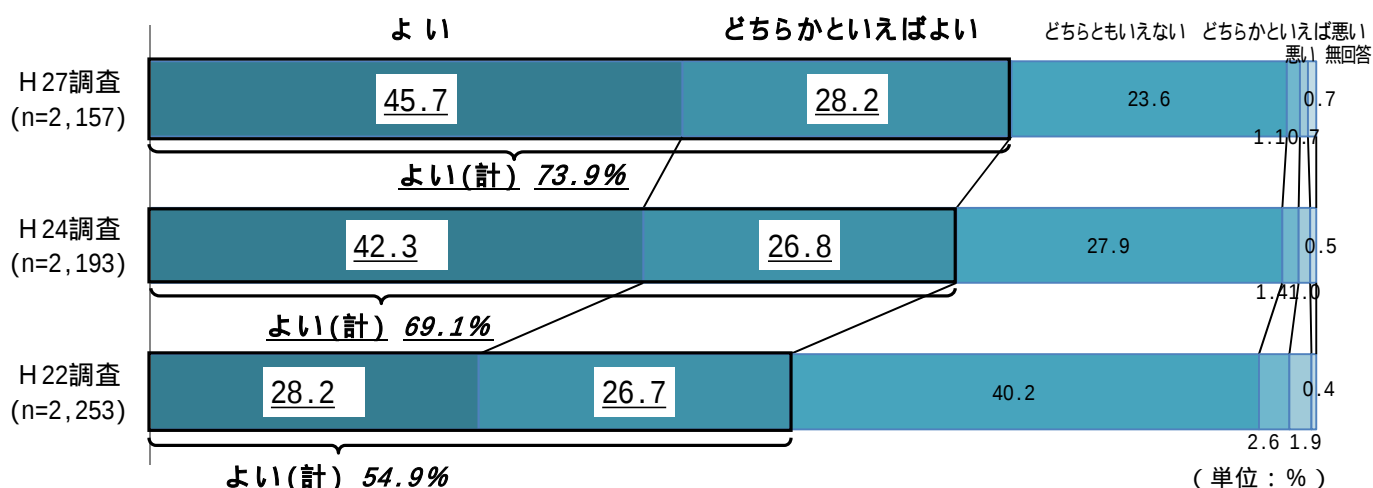
(1) 近くの川の評価（10年前との比較）

- ・すべての項目で「そうだと思う(計)」が「そう思わない(計)」を上回る
- ・10年前より近くの川が「全体としてきれいになった」と思う人が4割強（40.5%）
思わない人は1割強（12.8%）



(2) 県が進める「川の再生」の取組全般への評価

- ・「よい(計)」が7割強（73.9%）と高い評価
- 平成22年調査から +19.0ポイント、24年調査から +4.8ポイント増加

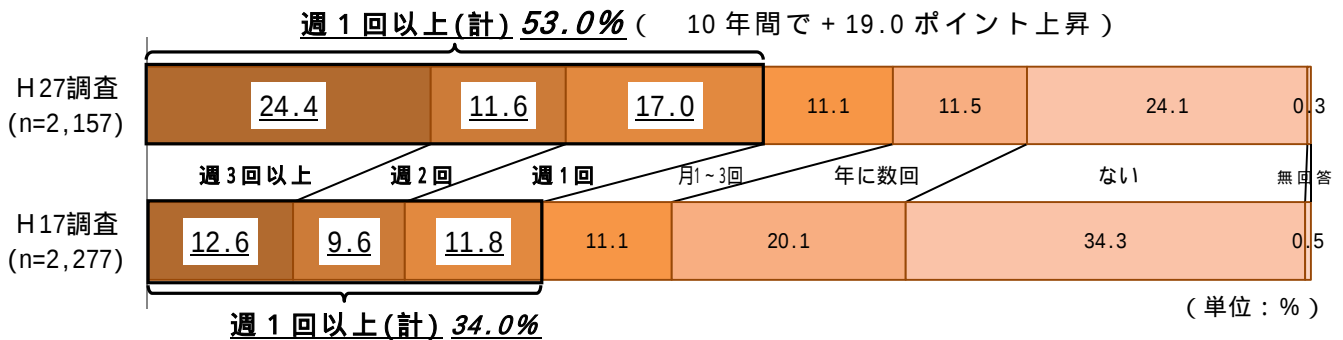


H22 及び H24 調査では、「よい」は「とてもよい」の選択肢になっている。また、「どちらともいえない」は「どちらともいえない」と「わからない」の選択肢を合わせた数値で表示した。

2 定期調査「日常生活」

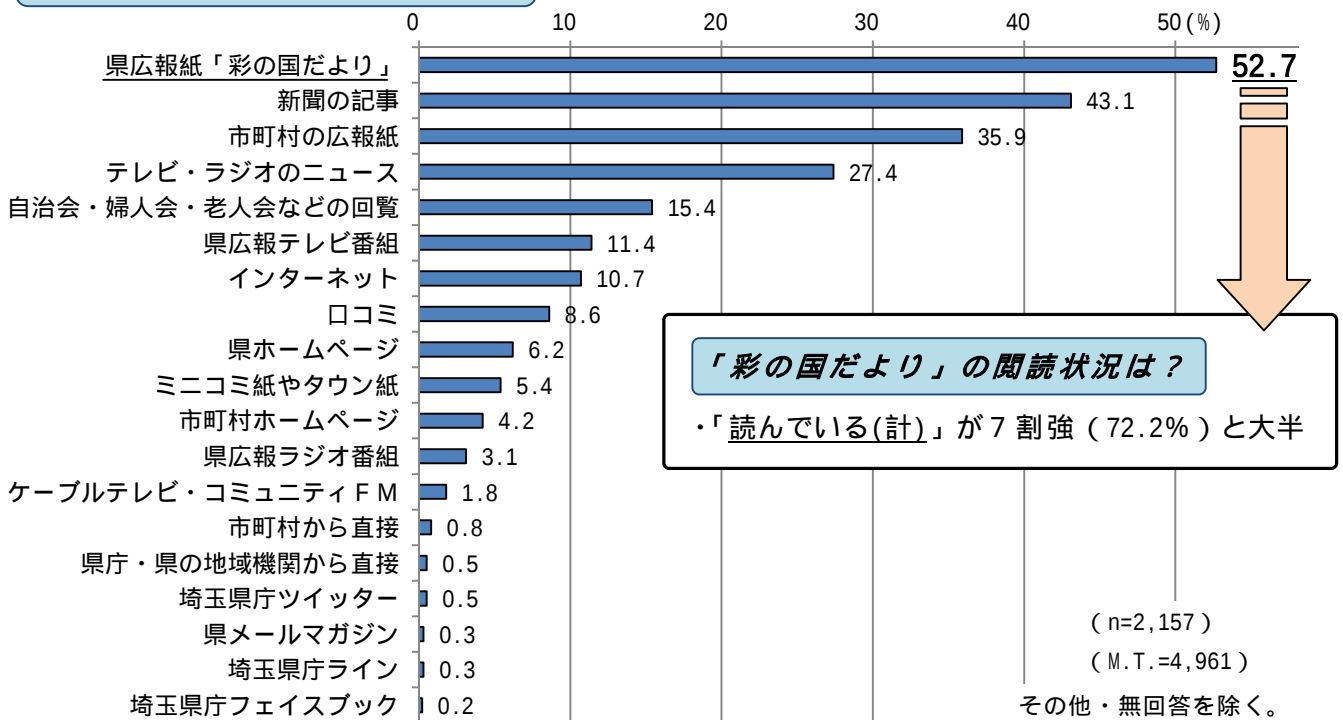
スポーツをする機会

- ・「週1回以上(計)」は5割強(53.0%)
- 平成17年の調査開始以来、初の5割超え(過去最高)



埼玉県に関する情報の入手先 (複数回答・3つまで)

- ・「彩の国だより」が1位で5割強(52.7%)

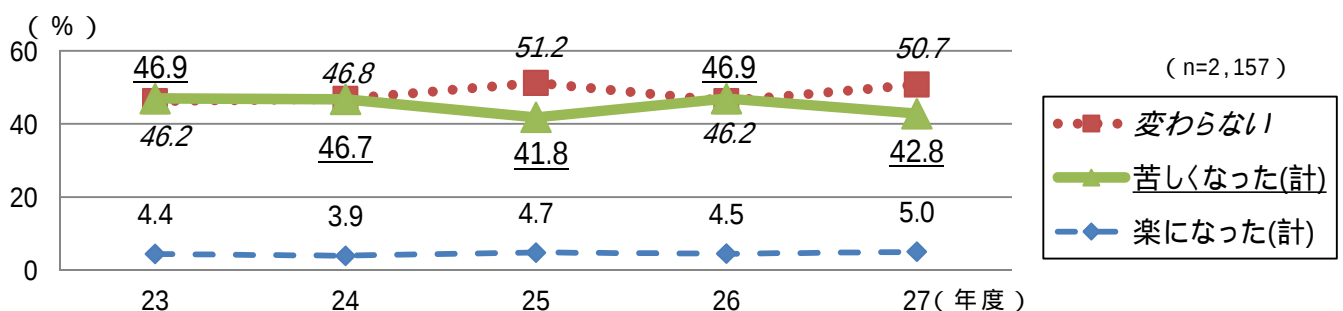


3 定期調査「生活意識」

県民の生活意識は改善傾向を示す

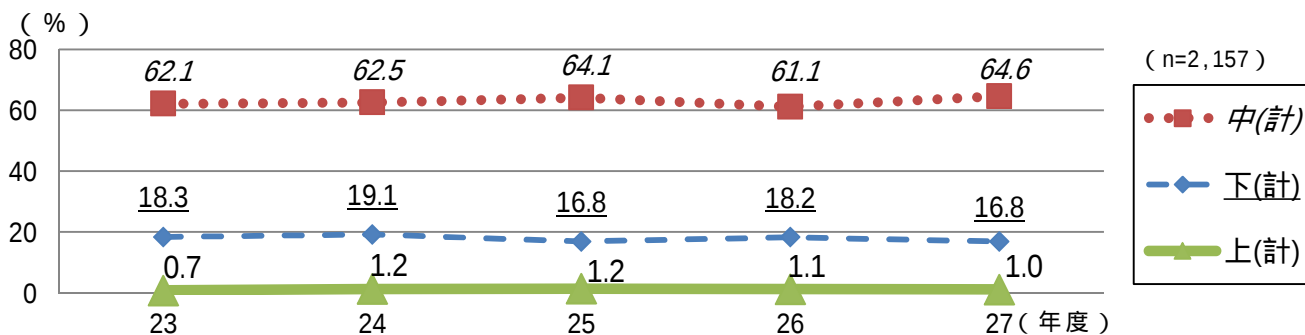
昨年と比べた暮らし向き

- ・「変わらない」が「苦しくなった(計)」を+7.9ポイント上回る
- ・「苦しくなった(計)」が4.1ポイント減少



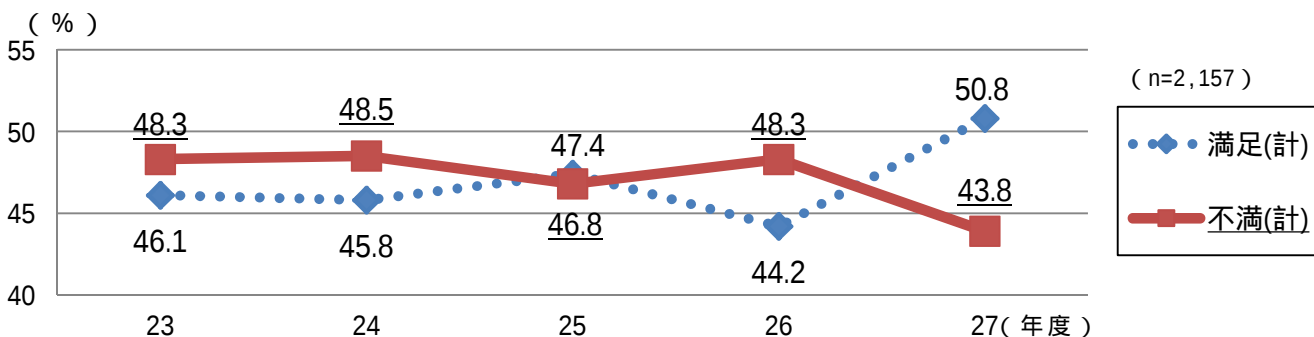
生活の程度

- ・「上クラス」=1%、「中クラス」=65%、「下クラス」=17%
- ・「中クラス」が+3.5ポイント増加、「下クラス」が1.4ポイント減少



生活全体の満足度

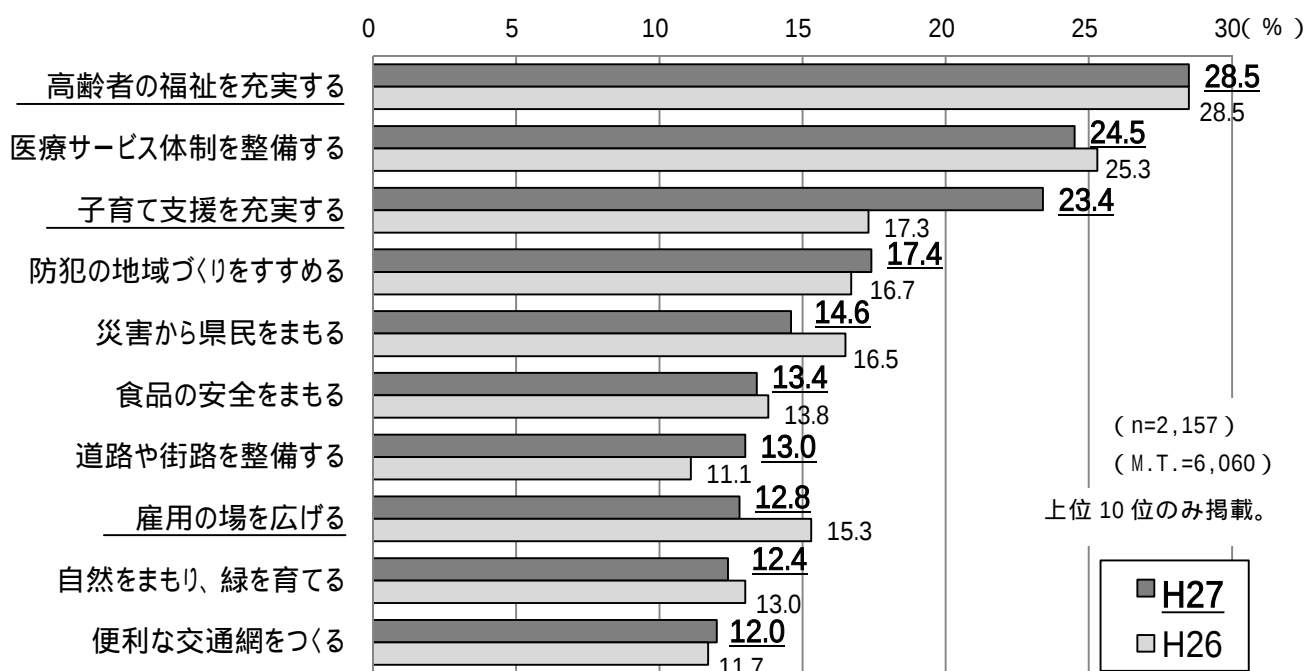
- ・「満足(計)」が「不満(計)」を+7.0ポイント上回る
- ・「満足(計)」が+6.6ポイント増加、「不満(計)」が4.5ポイント減少



4 定期調査「県政への要望(上位10位)」

県政への要望 (複数回答・3つまで)

- ・1~5位は順位変動なし(「高齢者福祉の充実」は10年連続1位)
- ・「子育て支援を充実する」は+6.1ポイント増加(男性30歳代で最も高い増加率)
- ・「雇用の場を広げる」は2.5ポイント減少(前年度6位→8位に下落)



調査結果（単純集計）

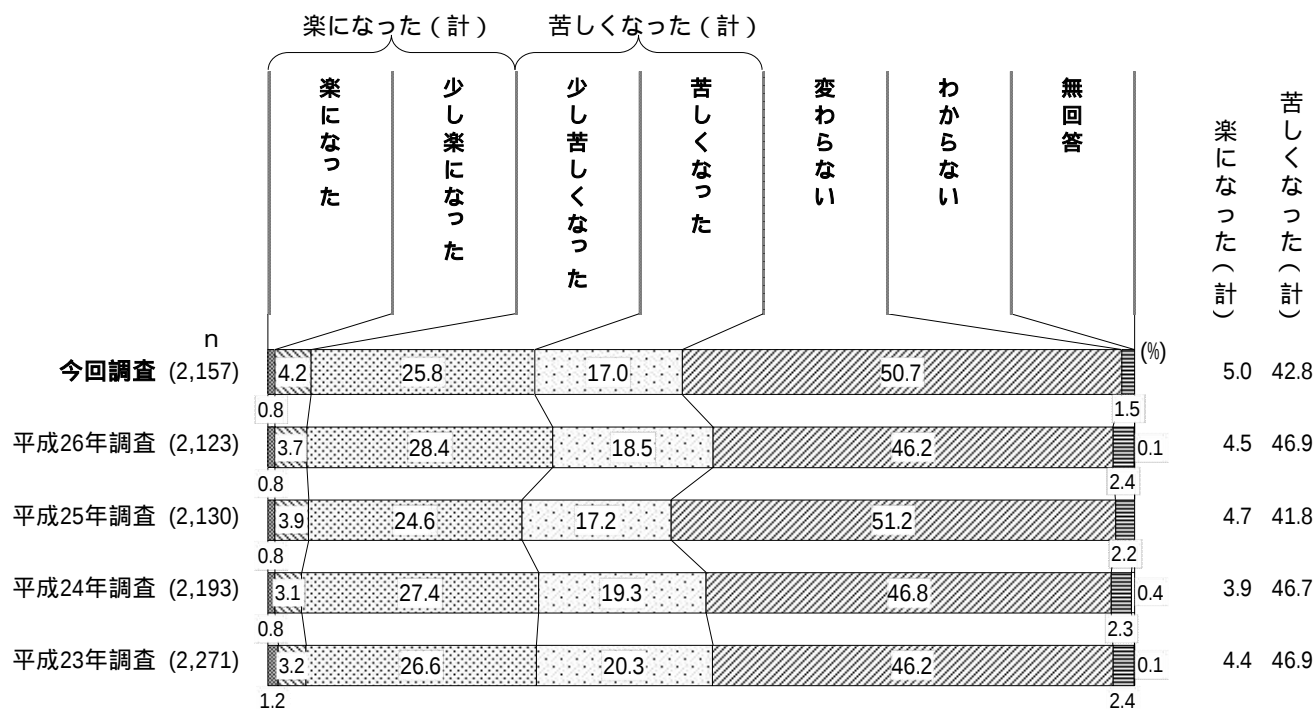
1 生活意識

(1) 昨年と比べた暮らし向き

『苦しくなった(計)』が42.8%と前年より4.1ポイント減少

問1 最初に、あなたの生活意識についておたずねいたします。

お宅の暮らし向きは、昨年の今ごろと比べて楽になりましたか、それとも、苦しくなりましたか。



暮らし向きが「楽になった」(0.8%)と「少し楽になった」(4.2%)を合わせた『楽になった(計)』は5.0%となっている。一方で、「苦しくなった」(17.0%)と「少し苦しくなった」(25.8%)を合わせた『苦しくなった(計)』(42.8%)は4割強となっている。「変わらない」(50.7%)は5割強となり、『苦しくなった(計)』を7.9ポイント上回った。

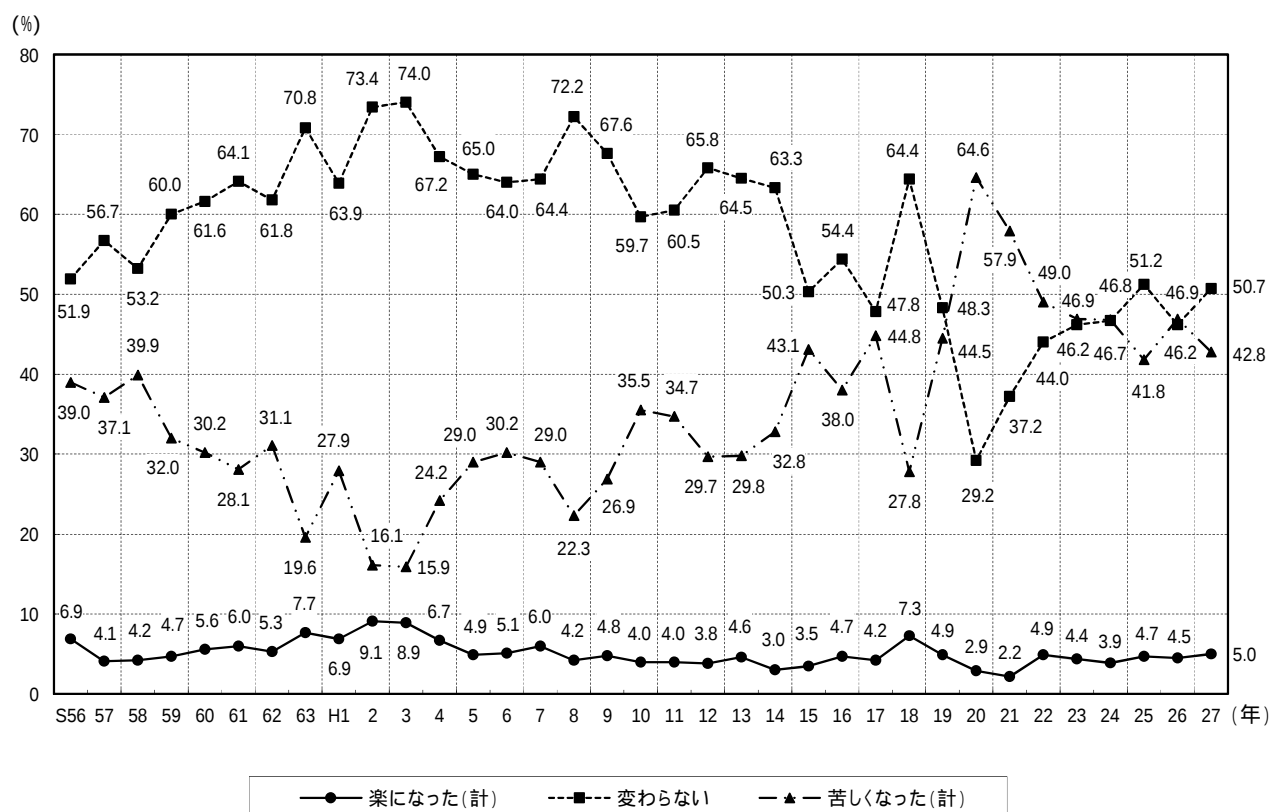
【過去調査との比較】

平成26年調査と比べて、『苦しくなった(計)』が4.1ポイント減少している一方で、「変わらない」が4.5ポイント増加している。

【経年比較】

この調査を開始した昭和56年以降の推移をみると、『苦しくなった（計）』は最も高かった平成20年（64.6%）からの減少傾向に対し、平成26年調査では46.9%と増加に転じたものの、今回調査では4.1ポイント減少しており、平成25年調査と同等の水準に戻っている。

○昨年と比べた暮らし向き・昭和56年以降の推移

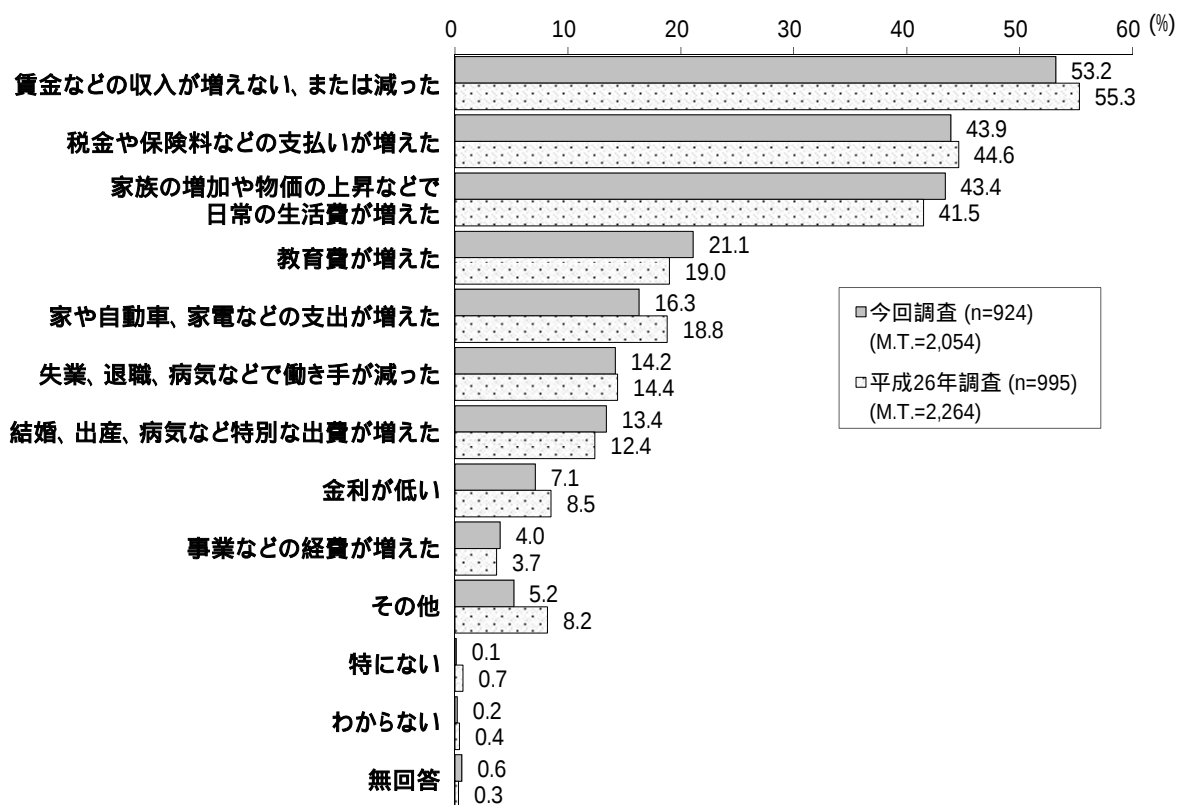


(1 - 1) 暮らし向きが苦しくなった理由

「賃金などの収入が増えない、または減った」が53.2%と最も高いが、前年より2.1ポイント減少

(問 1 で「少し苦しくなった」、「苦しくなった」のいずれかを答えた方に)

問 1 - 1 その理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



暮らし向きが苦しくなった理由は、「賃金などの収入が増えない、または減った」(53.2%) が 5 割強と最も高く、次いで、「税金や保険料などの支払いが増えた」(43.9%)、「家族の増加や物価の上昇などで日常の生活費が増えた」(43.4%)、「教育費が増えた」(21.1%)、「家や自動車、家電などの支出が増えた」(16.3%) などとなっている。

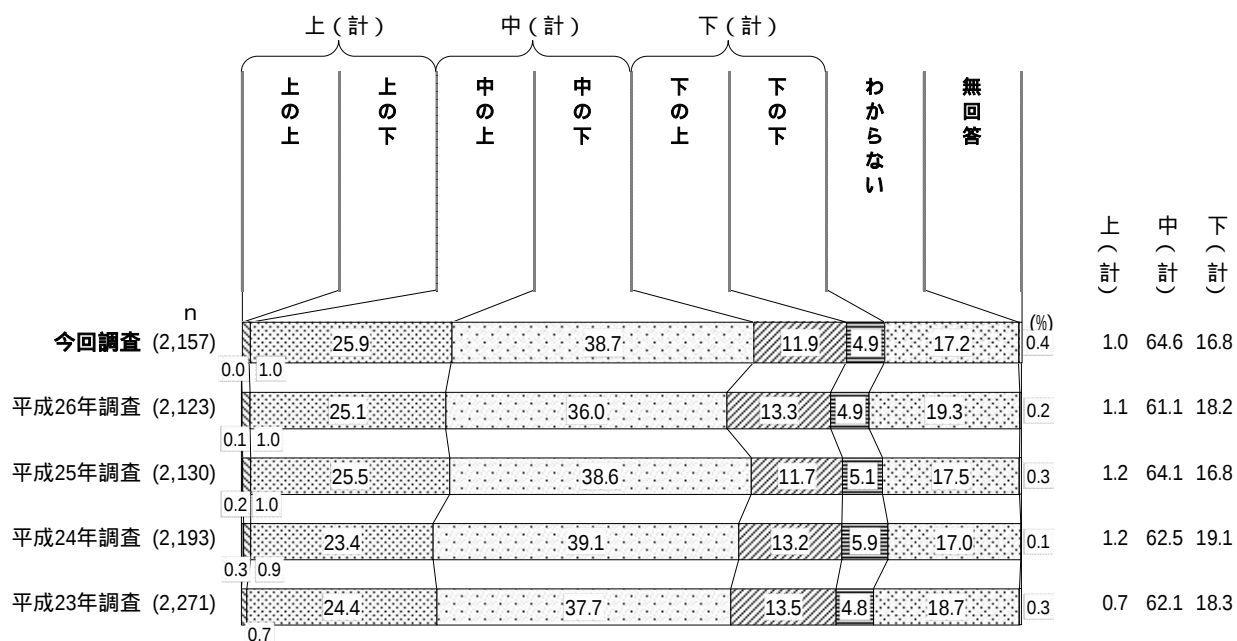
【過去調査との比較】

平成26年調査と比べて、「教育費が増えた」(2.1ポイント増)、「家族の増加や物価の上昇などで日常の生活費が増えた」(1.9ポイント増) などが増加し、「家や自動車、家電などの支出が増えた」(2.5ポイント減)、「賃金などの収入が増えない、または減った」(2.1ポイント減) などが減少している。

(2) 生活程度

『中(計)』が64.6%、『下(計)』は16.8%

問2 お宅の現在の生活程度は、世間一般からみて、この中のどれに属すると思いますか。



世間一般からみた生活程度は、「中の下」(38.7%) が最も高く、次いで、「中の上」(25.9%) となっている。両者を合わせた『中(計)』(64.6%) は6割台半ばとなっている。同様に「下の上」(11.9%) と「下の下」(4.9%) を合わせた『下(計)』(16.8%) は1割台半ばを超え、「上の上」(0.0%) と「上の下」(1.0%) を合わせた『上(計)』は1.0%となっている。

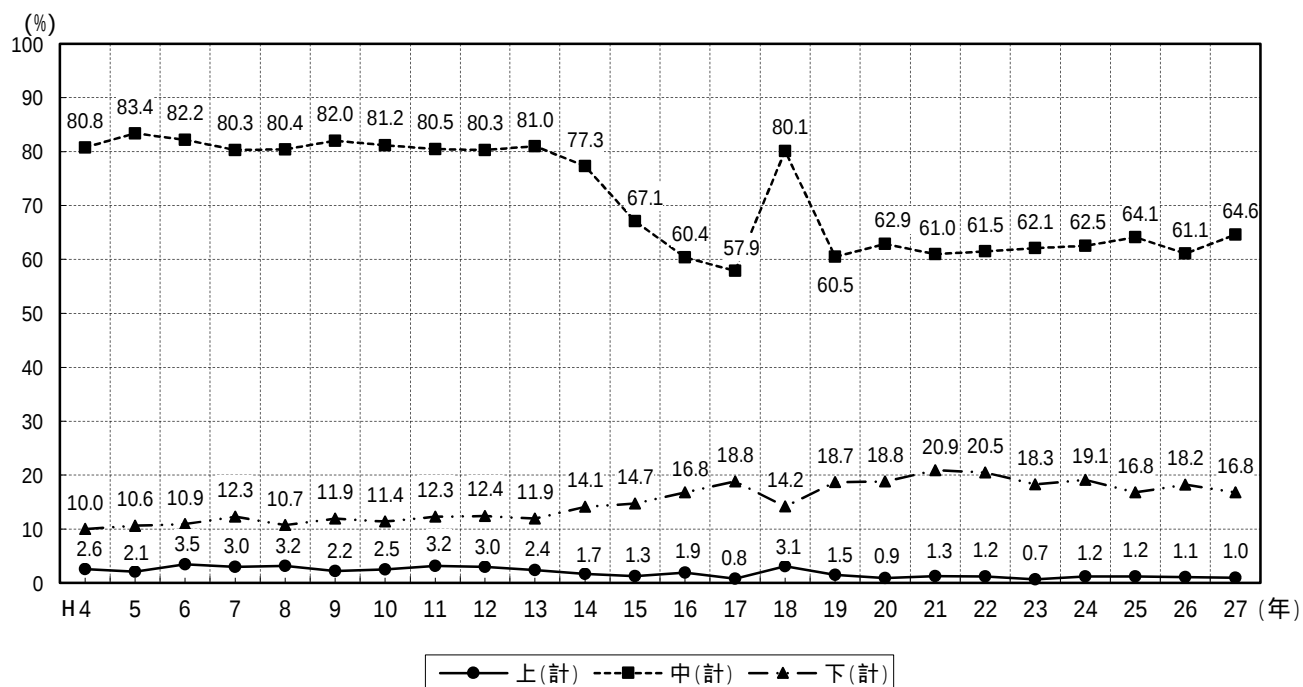
【過去調査との比較】

平成26年調査と比べて、『中(計)』が3.5ポイント増加し、『下(計)』が1.4ポイント減少している。

【経年比較】

平成19年以降、『中(計)』が6割台前半で推移している。

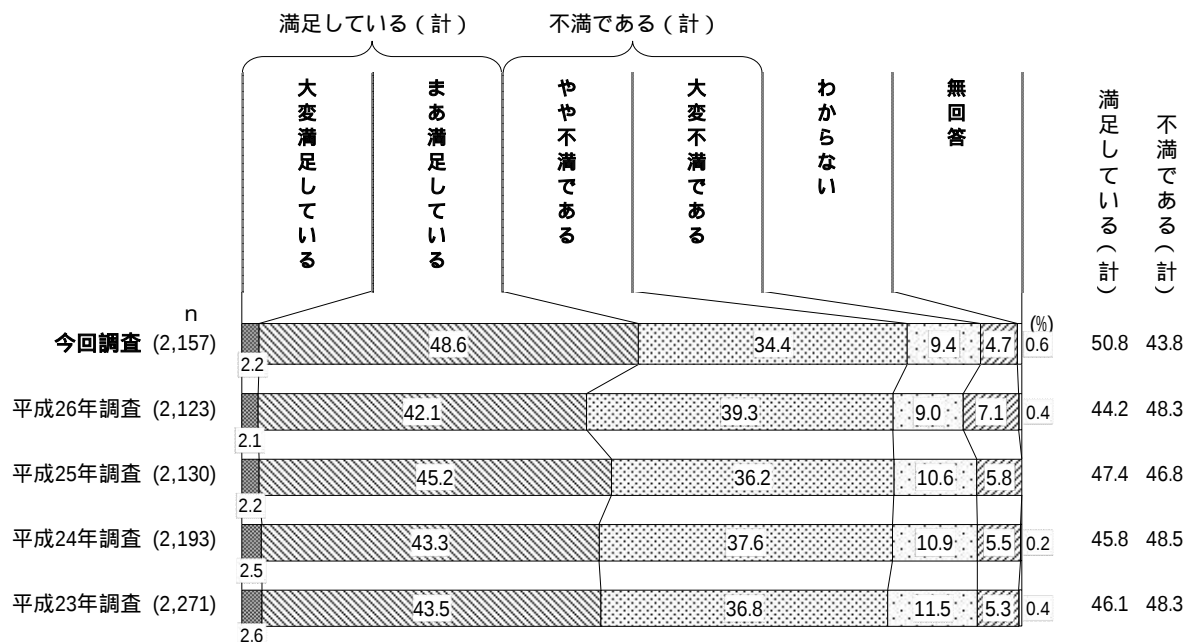
○生活程度・平成4年以降の推移



(3) 生活全体の満足度

『満足している (計)』は50.8%、『不満である (計)』は43.8%

問3 あなたは、現在の生活について、全体としてどの程度満足していますか。



生活全体に対する満足度は、「まあ満足している」が48.6%で最も高く、次いで、「やや不満である」が34.4%となっている。「大変満足している」(2.2%)と「まあ満足している」(48.6%)を合わせた『満足している (計)』(50.8%)は5割強、「大変不満である」(9.4%)と「やや不満である」(34.4%)を合わせた『不満である (計)』(43.8%)は4割強となっている。『満足している (計)』が『不満である (計)』を7.0ポイント上回っている。

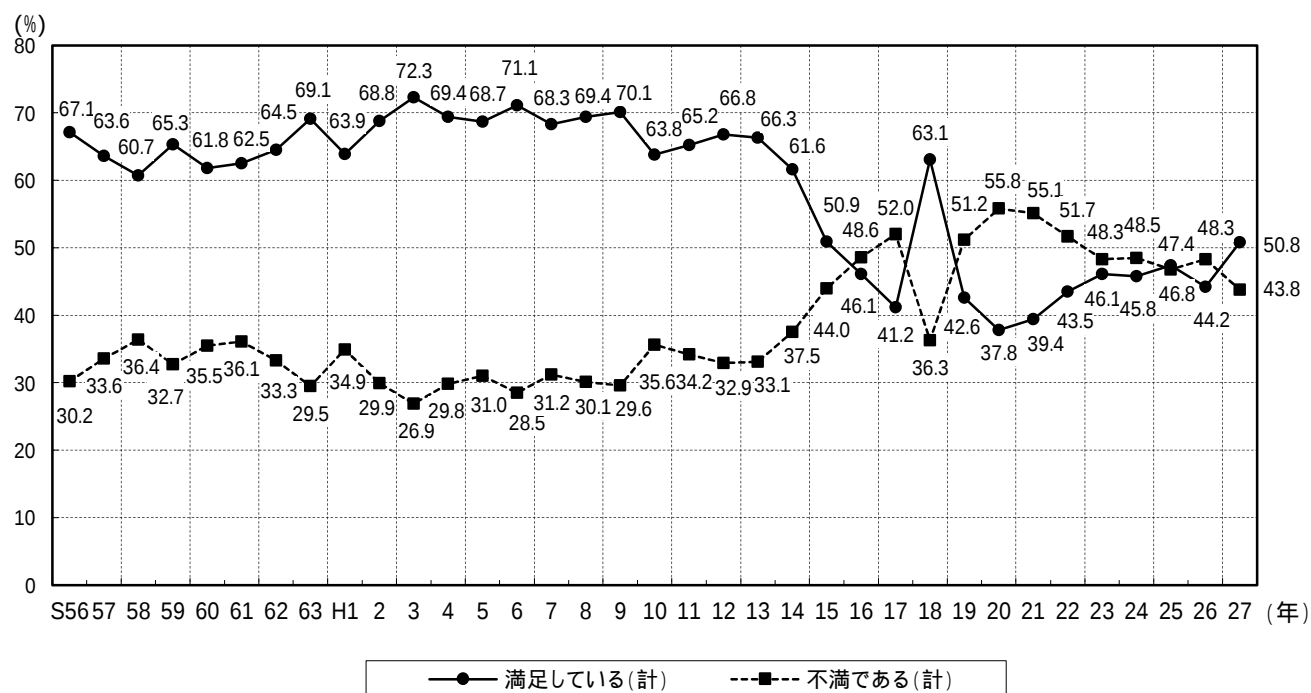
【過去調査との比較】

平成26年調査と比べて『満足している (計)』は6.6ポイント増加し、『不満である (計)』は4.5ポイント減少している。

【経年比較】

昭和56年以降の推移をみると、平成19年以降『満足である（計）』の割合が『満足している（計）』をおおむね上回る傾向にあったが、今回は『満足している（計）』（50.8％）の割合が9年ぶりに5割を超え、『不満である（計）』（43.8％）をはっきりと上回る結果となった。

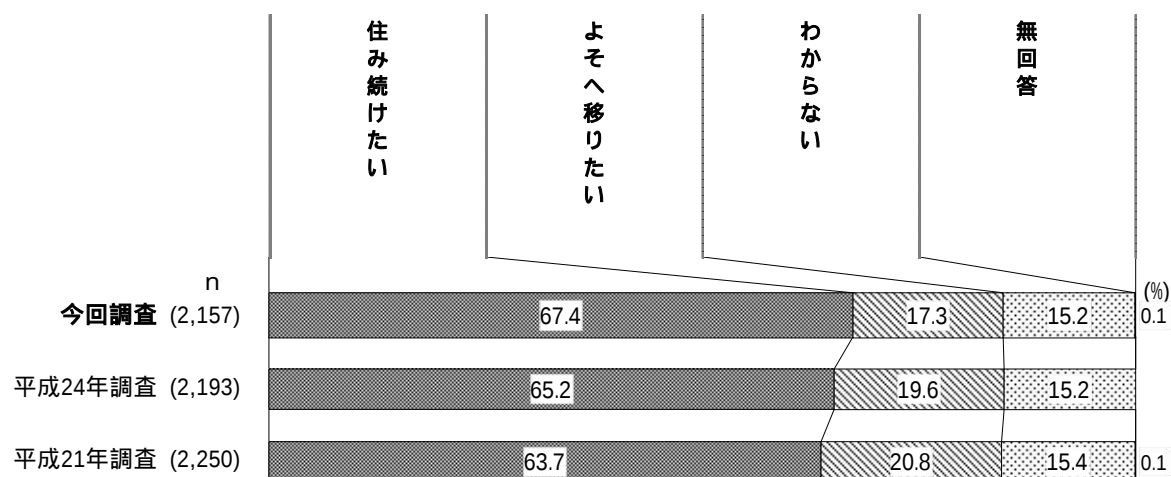
○生活全体の満足度・昭和56年以降の推移



(4) 定住意向

「住み続けたい」は67.4%、「よそへ移りたい」は17.3%

問4 あなたは、今お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思いますか。それとも、できればよそへ移りたいと思いますか。

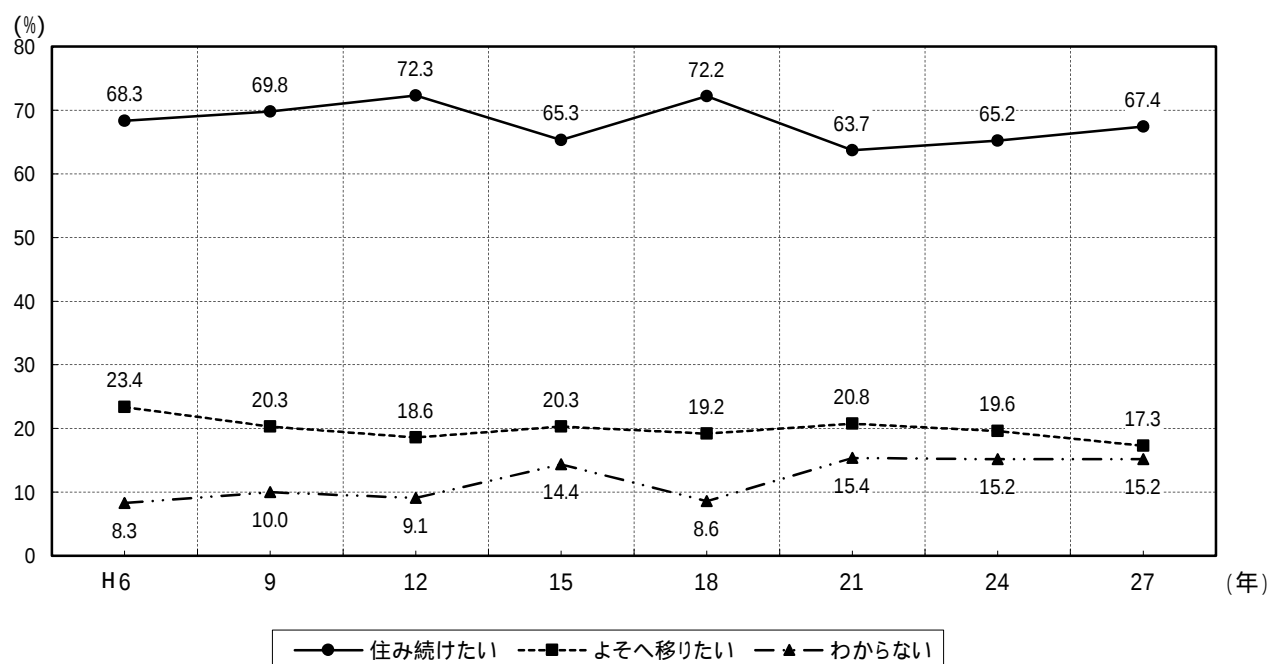


居住地域に住み続ける意向は、「住み続けたい」(67.4%)が6割台半ばを超えている。

【経年比較】

「住み続けたい」が前回と比較して2.2ポイント増加し、一方で、「よそへ移りたい」は前回と比較して2.3ポイント減少した。

○ 定住意向・平成6年以降の推移

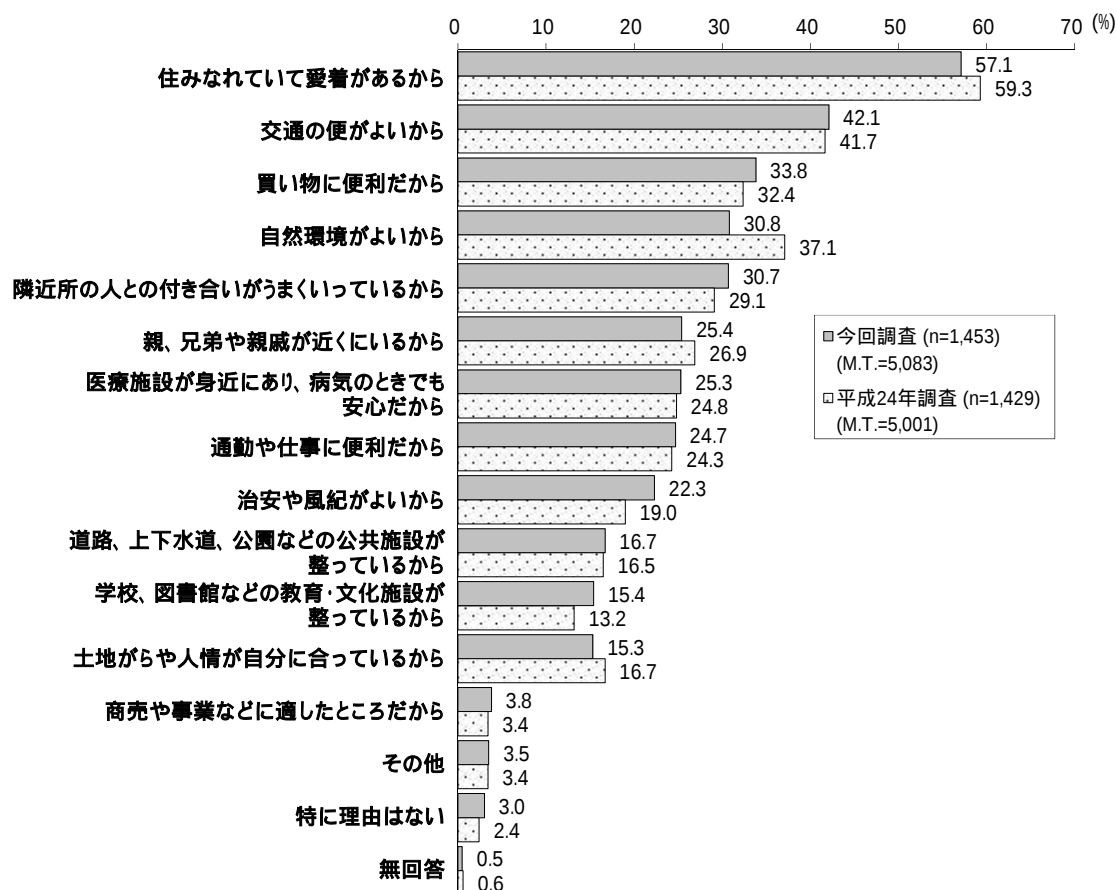


(4 - 1) 定住したい理由

「住みなれていて愛着があるから」が57.1%

(問 4 で「住み続けたい」と答えた方に)

問 4 - 1 今お住まいの地域に住み続けたいと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



定住したい理由は、「住みなれていて愛着があるから」(57.1%) が 5 割台半ばを超えて最も高く、次いで「交通の便がよいから」(42.1%) 「買い物に便利だから」(33.8%) 「自然環境がよいから」(30.8%) 「隣近所の人との付き合いがうまくいっているから」(30.7%) 「親、兄弟や親戚が近くににいるから」(25.4%) 「医療施設が身近にあり、病気のときでも安心だから」(25.3%) 「通勤や仕事に便利だから」(24.7%) 「治安や風紀がよいから」(22.3%) 「道路、上下水道、公園などの公共施設が整っているから」(16.7%) などとなっている。

定住したい理由で高かった回答の上位10位と、前回（平成24年調査）の順位は次のようになっている。

	今 回	前回（平成24年調査）	増減差
1位 住みなれていて愛着があるから	57.1%	59.3%（1位）	2.2
2位 交通の便がよいから	42.1	41.7（2位）	0.4
3位 買い物に便利だから	33.8	32.4（4位）	1.4
4位 自然環境がよいから	30.8	37.1（3位）	6.3
5位 隣近所の人との付き合いがうまく いっているから	30.7	29.1（5位）	1.6
6位 親、兄弟や親戚が近くにいるから	25.4	26.9（6位）	1.5
7位 医療施設が身近にあり、病気のとき でも安心だから	25.3	24.8（7位）	0.5
8位 通勤や仕事に便利だから	24.7	24.3（8位）	0.4
9位 治安や風紀がよいから	22.3	19.0（9位）	3.3
10位 道路、上下水道、公園などの公共施設 が整っているから	16.7	16.5（11位）	0.2

【平成24年調査との比較】

今回の上位10位を前回の平成24年調査と比較すると、「買い物に便利だから」は4位から3位に順位を上げている。また、「道路、上下水道、公園などの公共施設が整っているから」は11位から10位に順位を上げている。

前回との増減をみると、「治安や風紀がよいから」（3.3ポイント増）「隣近所の人との付き合いがうまくいっているから」（1.6ポイント増）「買い物に便利だから」（1.4ポイント増）などが増加している。一方で、「自然環境がよいから」（6.3ポイント減）「住みなれていて愛着があるから」（2.2ポイント減）「親、兄弟や親戚が近くにいるから」（1.5ポイント減）が減少している。

【平成15年以降の上位10位の推移】

平成15年以降の5回の調査の上位10位の推移をみると、今回1位の「住みなれていて愛着があるから」は5回連続1位である。2位の「交通の便がよいから」も順位の上下はあるが5回とも2位、3位を維持している。3位の「買い物に便利だから」は前回の4位から1つ順位を上げて過去最高となった。4位の「自然環境がよいから」は3位以内を前回まで維持していたが、1つ順位を下げて初めての4位となった。5位～8位は平成21年から続けて順位に変動がない。9位の「治安や風紀がよいから」は前回1つ順位を上げたまま9位を維持している。

順位	15年	18年	21年	24年	27年
1	住みなれていて愛着があるから 59.0%	住みなれていて愛着があるから 65.5%	住みなれていて愛着があるから 58.8%	住みなれていて愛着があるから 59.3%	住みなれていて愛着があるから 57.1%
2	交通の便がよいから 41.4%	自然環境がよいから 42.1%	交通の便がよいから 41.5%	交通の便がよいから 41.7%	交通の便がよいから 42.1%
3	自然環境がよいから 33.5%	交通の便がよいから 39.3%	自然環境がよいから 34.5%	自然環境がよいから 37.1%	買い物に便利だから 33.8%
4	隣近所の人との付き合いがうまく いっているから 28.5%	隣近所の人との付き合いがうまく いっているから 35.0%	買い物に便利だから 32.9%	買い物に便利だから 32.4%	自然環境がよいから 30.8%
5	買い物に便利だから 26.7%	買い物に便利だから 29.6%	隣近所の人との付き合いがうまく いっているから 28.7%	隣近所の人との付き合いがうまく いっているから 29.1%	隣近所の人との付き合いがうまく いっているから 30.7%
6	親、兄弟や親戚が 近くにいるから 25.7%	親、兄弟や親戚が 近くにいるから 28.7%	親、兄弟や親戚が 近くにいるから 24.6%	親、兄弟や親戚が 近くにいるから 26.9%	親、兄弟や親戚が 近くにいるから 25.4%
7	通勤や仕事に便利 だから 25.0%	通勤や仕事に便利 だから 24.6%	医療施設が身近に あり、病気のとき でも安心だから 24.2%	医療施設が身近に あり、病気のとき でも安心だから 24.8%	医療施設が身近に あり、病気のとき でも安心だから 25.3%
8	医療施設が身近に あり、病気のとき でも安心だから 20.6%	医療施設が身近に あり、病気のとき でも安心だから 22.8%	通勤や仕事に便利 だから 22.7%	通勤や仕事に便利 だから 24.3%	通勤や仕事に便利 だから 24.7%
9	道路、上下水道、 公園などの公共施 設が整っているか ら 16.9%	土地がらや人情が 自分に合っている から 22.3%	道路、上下水道、 公園などの公共施 設が整っているか ら 16.3%	治安や風紀がよい から 19.0%	治安や風紀がよい から 22.3%
10	土地がらや人情が 自分に合っている から 15.8%	治安や風紀がよい から 20.3%	治安や風紀がよい から 15.9%	土地がらや人情が 自分に合っている から 16.7%	道路、上下水道、 公園などの公共施 設が整っているか ら 16.7%

【上位5位の推移】

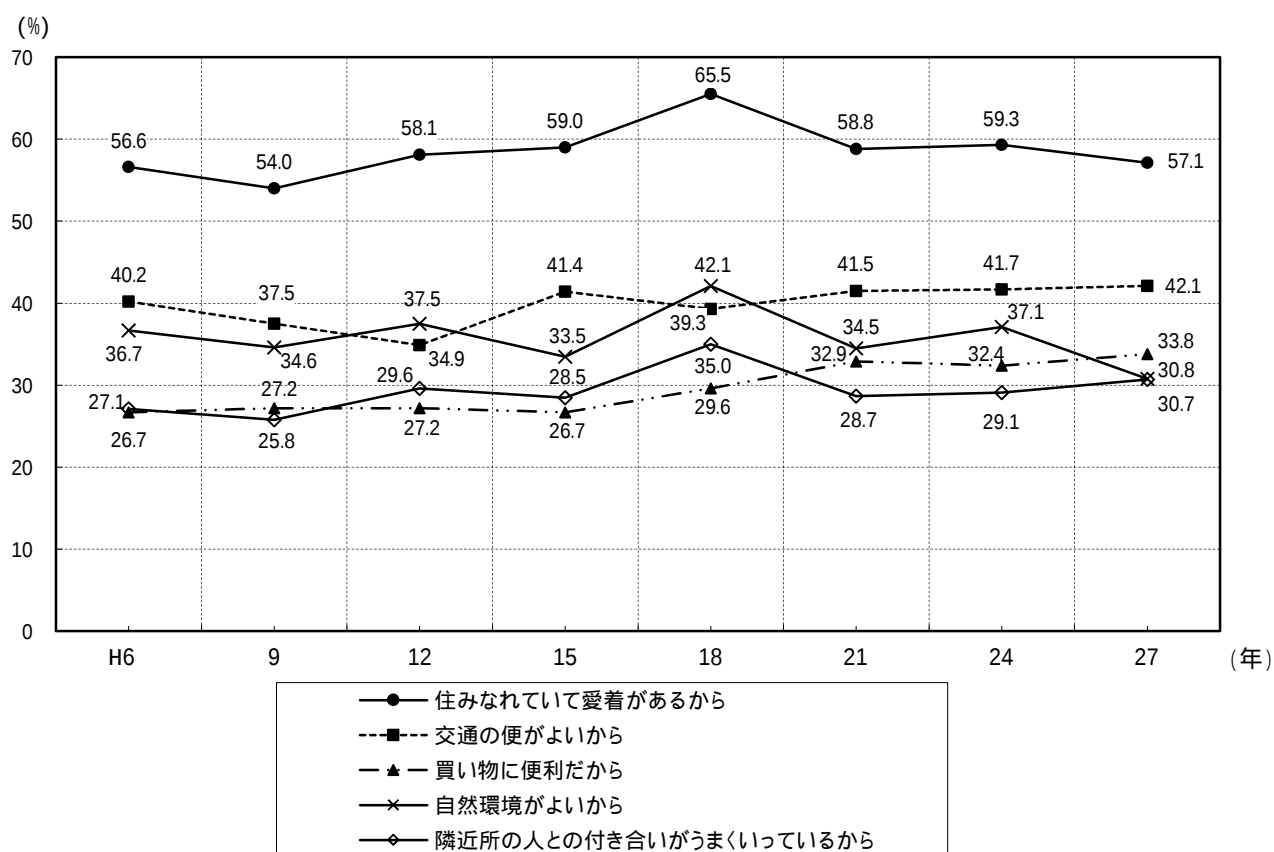
1位の「住みなれていて愛着があるから」は平成15年までは5割台で、平成18年に65.5%と大きく増加したが、再び5割台が続いている。

2位の「交通の便がよいから」は平成6年の40.2%から減少が続き、平成12年に34.9%と過去最低となったが、それ以降は4割前後を維持し、今回は42.1%と過去最高の数値である。

3位の「買い物に便利だから」は平成18年までは2割台であったが、平成21年に32.9%と初めて3割を超え、今回は33.8%と過去最高の数値である。

4位の「自然環境がよいから」は平成15年までは3割台で、平成18年に42.1%と大きく増加したが、その後3割台に戻ったままとなっており、今回は30.7%と大きく減少した。

5位の「隣近所の人との付き合いがうまくいっているから」は平成15年までは2割台で、平成18年に35.0%と大きく増加したが、前回、前々回は再び2割台となり、今回は30.7%と3割台を回復した。

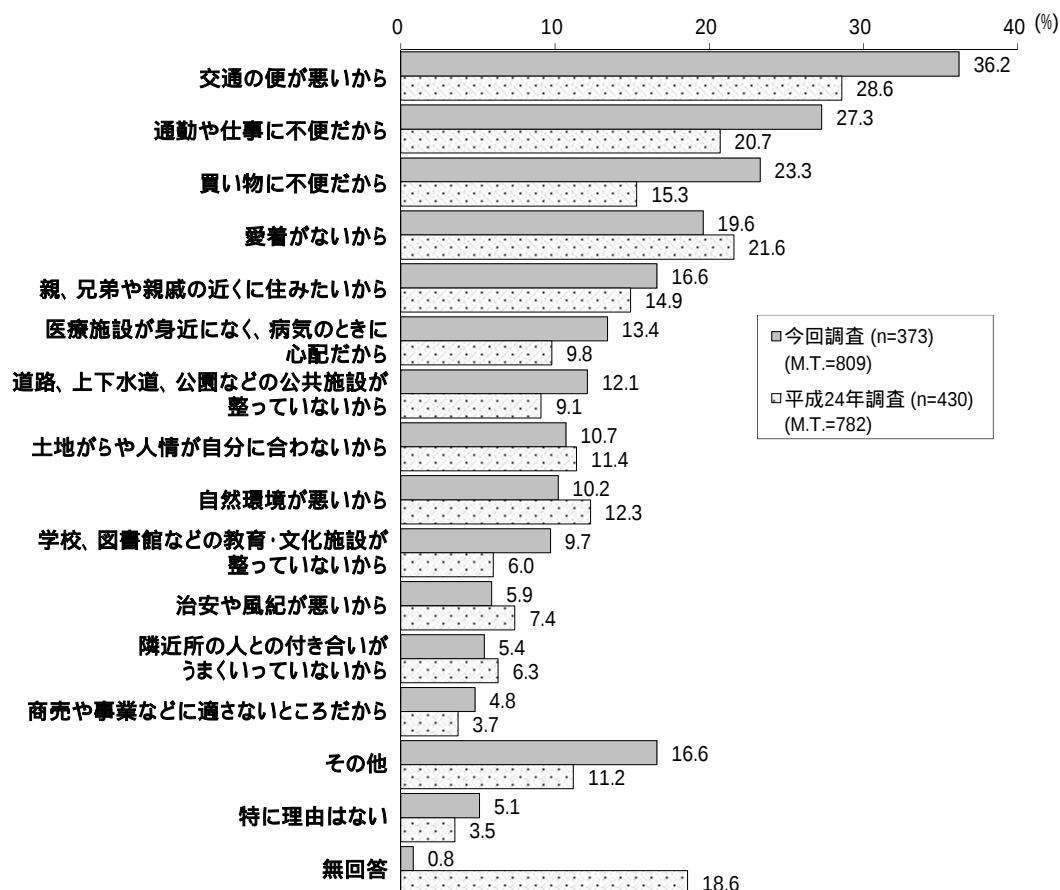


(4 - 2) 転出したい理由

「交通の便が悪いから」が36.2%

(問 4 で「よそへ移りたい」と答えた方に)

問 4 - 2 今お住まいの地域からよそへ移りたいと思う理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



今の地域からよその地域へ移り住みたいと思う理由は、「交通の便が悪いから」(36.2%) が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「通勤や仕事に不便だから」(27.3%) 「買い物に不便だから」(23.3%) 「愛着がないから」(19.6%) 「親、兄弟や親戚の近くに住みたいから」(16.6%) 「医療施設が身近になく、病気のとくに心配だから」(13.4%) 「道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから」(12.1%) 「土地がらや人情が自分に合わないから」(10.7%) 「自然環境が悪いから」(10.2%) 「学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから」(9.7%) などとなっている。

転出したい理由で高かった回答の上位10位と、前回（平成24年調査）の順位は次のようになっている。

	今 回	前回（平成24年調査）	増減差
1位 交通の便が悪いから	36.2%	28.6% （ 1 位 ）	7.6
2位 通勤や仕事に不便だから	27.3	20.7 （ 3 位 ）	6.6
3位 買い物に不便だから	23.3	15.3 （ 4 位 ）	8.0
4位 愛着がないから	19.6	21.6 （ 2 位 ）	2.0
5位 親、兄弟や親戚の近くに住みたいから	16.6	14.9 （ 5 位 ）	1.7
6位 医療施設が身近になく、病気のとくに心配だから	13.4	9.8 （ 8 位 ）	3.6
7位 道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから	12.1	9.1 （ 9 位 ）	3.0
8位 土地がらや人情が自分に合わないから	10.7	11.4 （ 7 位 ）	0.7
9位 自然環境が悪いから	10.2	12.3 （ 6 位 ）	2.1
10位 学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから	9.7	6.0 （ 12位 ）	3.7

【平成24年調査との比較】

今回の上位10位と前回の平成24年調査と比較すると、1位「交通の便が悪いから」の順位は変わらない。「通勤や仕事に不便だから」は3位から2位、「買い物に不便だから」は4位から3位に順位を上げ、「愛着がないから」は順位を2つ下げている。5位「親、兄弟や親戚の近くに住みたいから」の順位は変わらず、6位「医療施設が身近になく、病気のとくに心配だから」と7位「道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから」はそれぞれ順位を2つ上げている。「土地がらや人情が自分に合わないから」は7位から8位に、「自然環境が悪いから」は6位から9位に順位を下げている。「学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから」が10位に入り込んでいる。

前回との増減をみると、「買い物に不便だから」(8.0ポイント増)「交通の便が悪いから」(7.6ポイント増)「通勤や仕事に不便だから」(6.6ポイント増)「学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから」(3.7ポイント増)などが増加しており、減少しているのは「自然環境が悪いから」(2.1ポイント減)「愛着がないから」(2.0ポイント減)などである。

【平成15年以降の上位10位の推移】

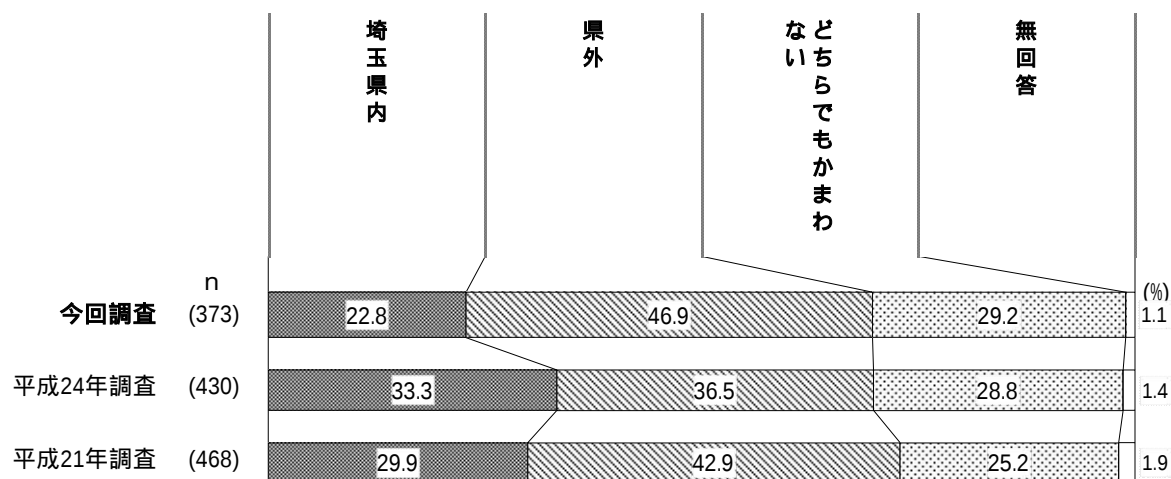
平成15年以降の5回の調査の上位10位の推移をみると、今回1位の「交通の便が悪いから」は5回連続1位となっている。2位～4位については、「通勤や仕事に不便だから」は前回の3位から、「買い物に不便だから」は前回の4位からそれぞれ順位が1つ上昇し、逆に4位の「愛着がないから」は前回の2位から2つ順位を下げたことにより、前々回の平成21年の順位に戻った。5位の「親、兄弟や親戚の近くに住みたいから」は平成15年の7位から平成18年に4位へ3つ順位を上げたが、平成21年以降は3回連続5位となっている。

順位	15年	18年	21年	24年	27年
1	交通の便が悪いから 29.5%	交通の便が悪いから 38.3%	交通の便が悪いから 35.0%	交通の便が悪いから 28.6%	交通の便が悪いから 36.2%
2	通勤や仕事に不便だから 25.6%	通勤や仕事に不便だから 26.9%	通勤や仕事に不便だから 25.9%	愛着がないから 21.6%	通勤や仕事に不便だから 27.3%
3	自然環境が悪いから 24.9%	買い物に不便だから 20.5%	買い物に不便だから 22.2%	通勤や仕事に不便だから 20.7%	買い物に不便だから 23.3%
4	愛着がないから 22.9%	愛着がないから / 19.4%	愛着がないから 19.7%	買い物に不便だから 15.3%	愛着がないから 19.6%
5	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから 18.0%	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから 19.4%	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから 15.6%	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから 14.9%	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから 16.6%
6	買い物に不便だから 17.6%	自然環境が悪いから 18.9%	自然環境が悪いから / 15.0%	自然環境が悪いから 12.3%	医療施設が身近になく、病気のときに心配だから 13.4%
7	親、兄弟や親戚の近くに住みたいから 13.7%	医療施設が身近になく、病気のときに心配だから 15.4%	土地がらや人情が自分に合わないから 15.0%	土地がらや人情が自分に合わないから 11.4%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから 12.1%
8	土地がらや人情が自分に合わないから 12.9%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから 12.2%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから 13.9%	医療施設が身近になく、病気のときに心配だから 9.8%	土地がらや人情が自分に合わないから 10.7%
9	学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから 12.4%	学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから / 10.9%	医療施設が身近になく、病気のときに心配だから 12.8%	道路、上下水道、公園などの公共施設が整っていないから 9.1%	自然環境が悪いから 10.2%
10	医療施設が身近になく、病気のときに心配だから 10.0%	治安や風紀が悪いから 10.9%	隣近所の人との付き合いがうまくいっていないから 9.2%	治安や風紀が悪いから 7.4%	学校、図書館などの教育・文化施設が整っていないから 9.7%

(4 - 3) 転出先

「県外」が46.9%

問 4 - 3 よそへ移るとしたら、埼玉県内ですか。それとも県外ですか。

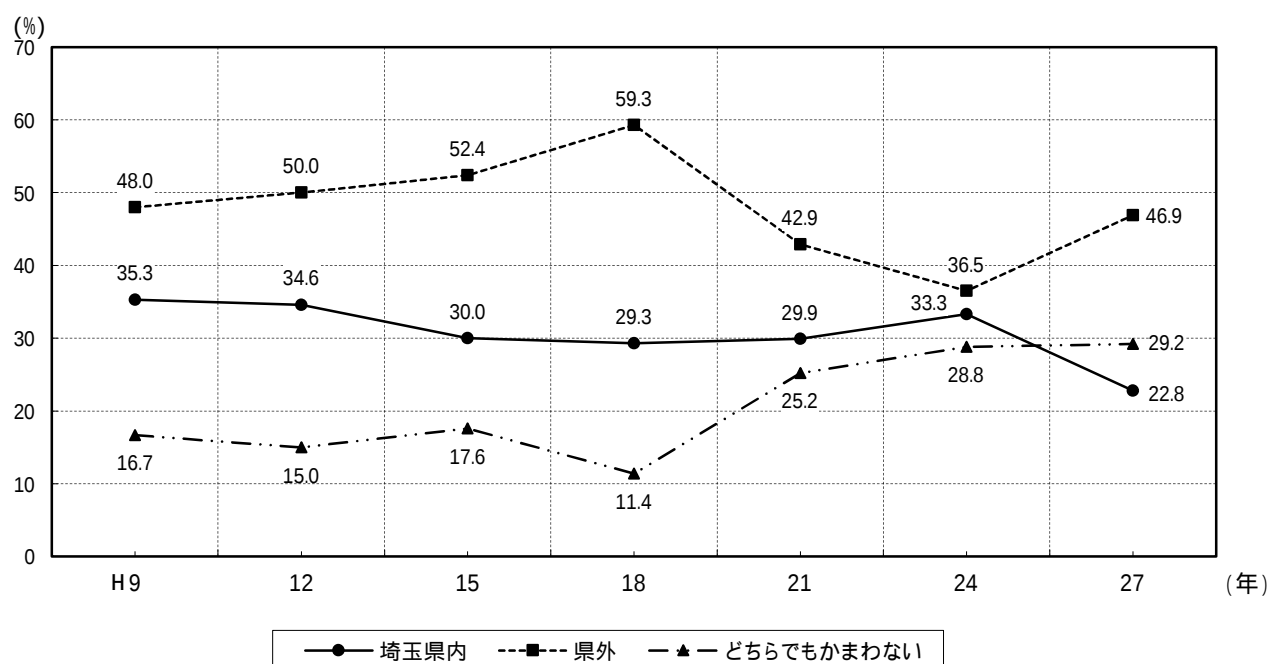


転出先は、「県外」(46.9%) が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「どちらでもかまわない」(29.2%)、「埼玉県内」(22.8%) の順となっている。

【経年比較】

平成9年以降(3年毎)に実施した調査結果の推移をみると、「県外」は平成18年以降減少傾向となり、平成24年調査では36.5%と過去最低の数値となったが、今回の調査で46.9%と増加に転じている。「埼玉県内」は横ばいから大きく減少して22.8%と過去最低の数値となり、調査以来で初めて「どちらでもかまわない」(29.2%) と順位が逆転した。

○ 転出先・平成9年以降の推移



(4 - 3 - 1) 移り住みたい都道府県

「東京都」が52.0%

(問 4 - 3 で「県外」と答えた方に)

問 4 - 3 - 1 県外へ移るとしたら、どこの都道府県へ移りたいですか。

都道府県	%
東京都	52.0
神奈川県	9.1
北海道	4.6
千葉県	2.9
京都府	2.9
宮城県	1.7
福島県	1.7
新潟県	1.7
長野県	1.7
岩手県	1.1
茨城県	1.1
栃木県	1.1
山梨県	1.1
静岡県	1.1
大阪府	1.1
兵庫県	1.1

都道府県	%
岡山県	1.1
鹿児島県	1.1
沖縄県	1.1
青森県	0.6
秋田県	0.6
群馬県	0.6
石川県	0.6
滋賀県	0.6
和歌山県	0.6
香川県	0.6
高知県	0.6
熊本県	0.6
大分県	0.6
海外	0.6
無回答	4.0

n = 175

移りたい都道府県は、「東京都」(52.0%) が 5 割強で最も高く、次いで「神奈川県」(9.1%) 「北海道」(4.6%) などとなっている。

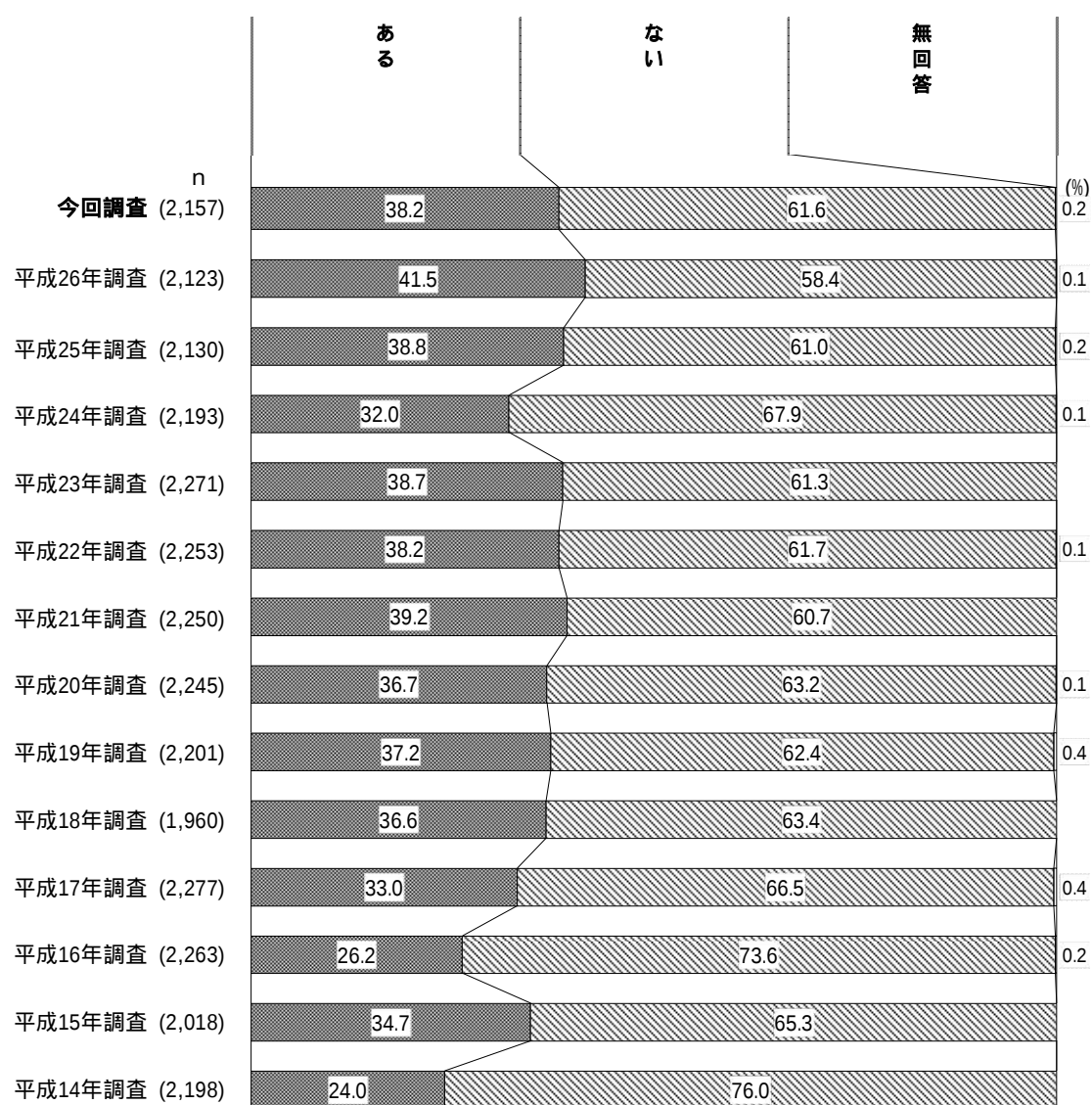
2 日常生活

(1) 地域社会活動への参加経験

参加経験が「ある」38.2%、「ない」61.6%

問5 次に、あなたの日常生活に関連することについておたずねいたします。

(1) あなたは、過去1年間に、自治会活動（清掃活動や防犯パトロール、地域運動会への参加など）やPTA活動、子供会活動、学校応援団（読み聞かせボランティアなど）、障がい者や高齢者の方々のための活動、青少年健全育成のための活動、みどりと川の再生活動など、地域活動やNPO・ボランティア活動に参加したことがありますか。



過去1年間に地域活動やNPO・ボランティア活動に参加したことが「ある」(38.2%)は4割弱となっている。

【過去調査との比較】

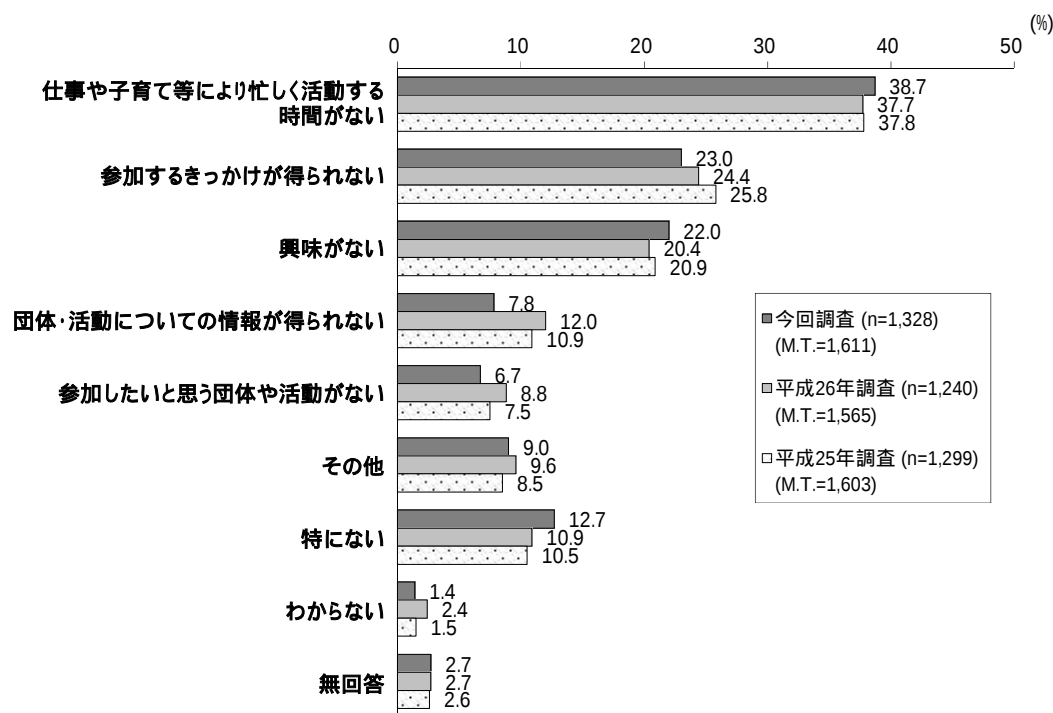
平成26年調査と比べて、「ある」は3.3ポイント減少している。

(1 - 1) 地域社会活動への不参加の理由

「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」が38.7%

(問5(1)で「ない」と答えた方に)

問5(1)-1 その理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



地域活動やNPO・ボランティア活動への不参加の理由は、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」(38.7%)が最も高く、次いで、「参加するきっかけが得られない」(23.0%)、「興味がない」(22.0%)、「団体・活動についての情報が得られない」(7.8%)、「参加したいと思う団体や活動がない」(6.7%)などとなっている。

【過去調査との比較】

平成26年調査と比較して、「団体・活動についての情報が得られない」(4.2ポイント減)、「参加したいと思う団体や活動がない」(2.1ポイント減)などが減少し、「興味がない」(1.6ポイント増)、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」(1.0ポイント増)などが増加している。

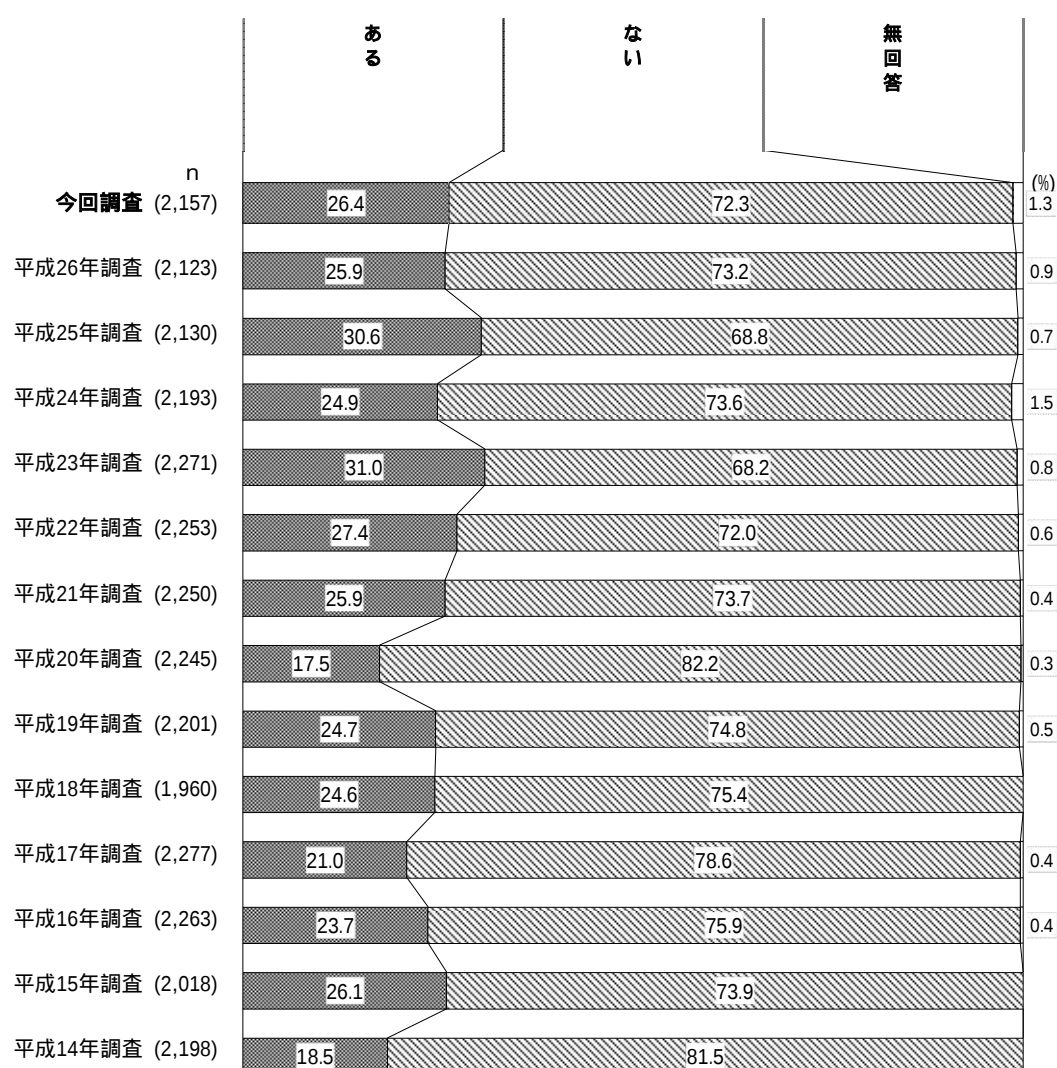
(2) 文化芸術活動の経験

文化芸術活動の経験が「ある」26.4%、「ない」72.3%

問5 (2) あなたは、この1年間に、文化芸術活動 () を行ったことがありますか。

文化芸術活動とは、以下のような分野での活動です。

- ・音楽 (クラシック、ロック、ポピュラー、コーラス、演歌など)
- ・美術 (絵画、彫刻、工芸、陶芸など)
- ・写真 (ポートレイト、風景、スナップ写真など)
- ・文芸 (小説、詩、俳句、短歌など)
- ・生活文化 (書道、華道、盆栽など)
- ・国民娯楽 (囲碁、将棋など)
- ・舞踊 (バレエ、ダンスなど)
- ・伝統芸能 (歌舞伎、能・狂言、日本舞踊、和太鼓、箏曲、神楽、獅子舞など)
- ・演劇 (現代劇、ミュージカルなど)
- ・演芸 (落語、漫談、漫才など)
- ・映画・漫画・アニメ・コンピューターグラフィックス



平成22年調査までは、設問文を「現在、自主的な文化芸術活動を行っていますか」とし、選択肢を「行っている」と「行っていない」としていた。

この1年間に文化芸術活動を行ったことが「ある」(26.4%) は2割台半ばを超えている。

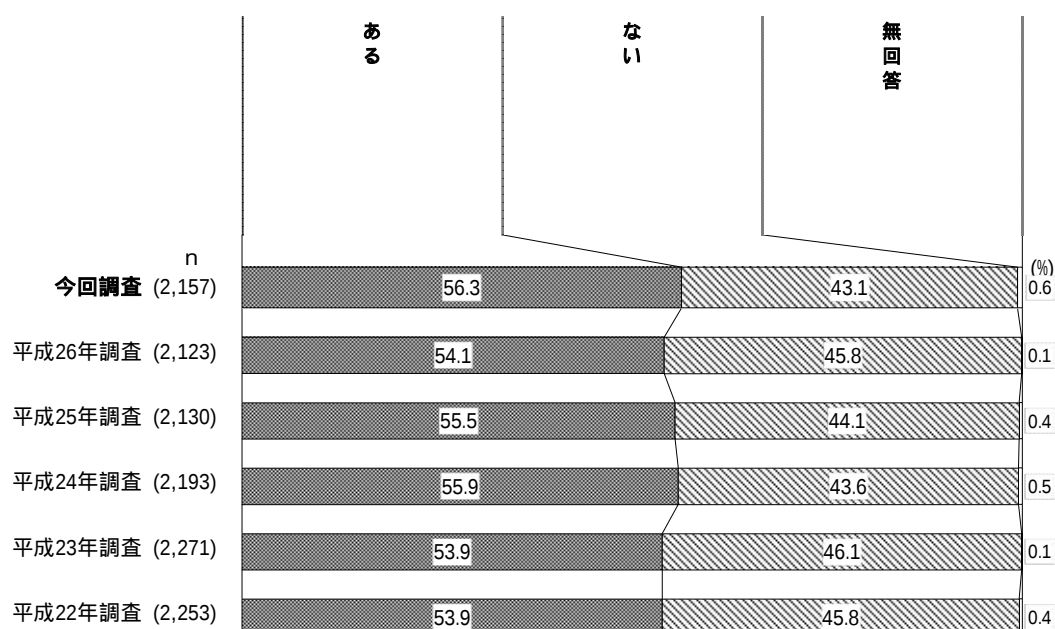
【過去調査との比較】

平成26年調査と比較して、「ある」は0.5ポイント増加した。

(3) 文化芸術活動の鑑賞

文化芸術活動の鑑賞は「ある」56.3%、「ない」43.1%

問 5 (3) あなたは、この 1 年間に、文化芸術活動を鑑賞するためにホール・劇場、映画館、美術館、博物館などに出かけたことがありますか。



この 1 年間で、文化芸術活動を鑑賞するためにホール・劇場、映画館、美術館、博物館などに出かけたことが「ある」(56.3%) は 5 割台半ばを超えており、「ない」(43.1%) を 13.2 ポイント上回っている。

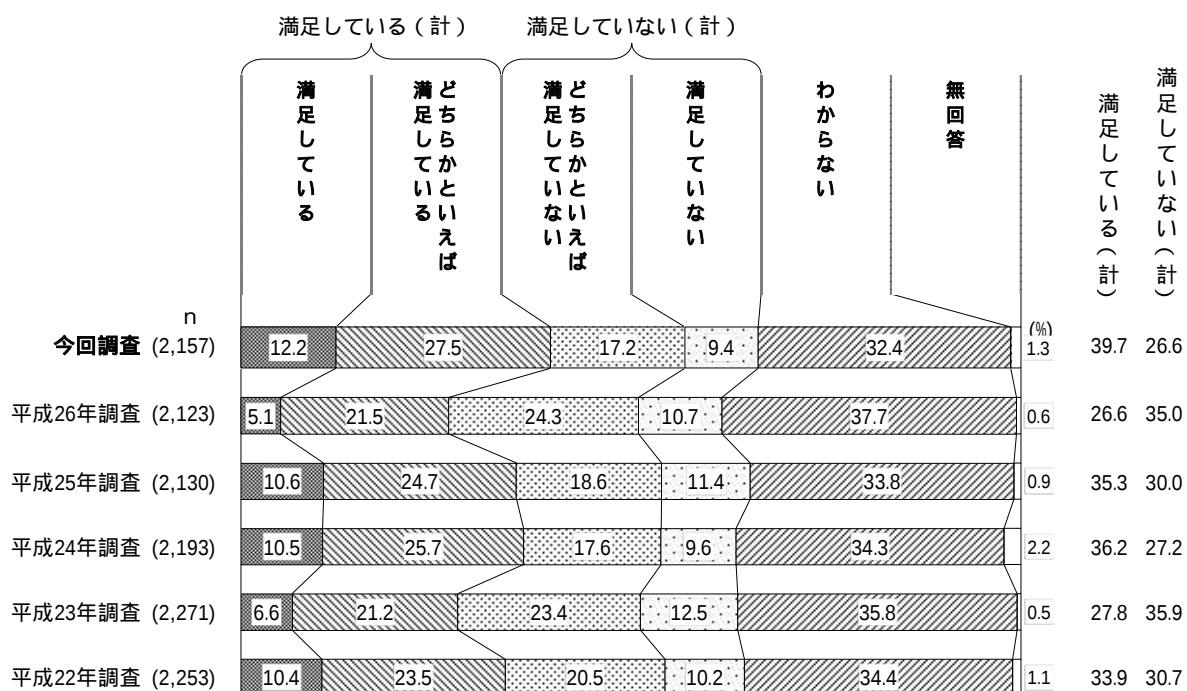
【過去調査との比較】

平成 26 年調査と比較して、「ある」は 2.2 ポイント増加した。

(4) 文化芸術活動の機会や環境の満足度

『満足している(計)』は39.7%、『満足していない(計)』は26.6%

問5(4)あなたは、日常生活の中で文化芸術を鑑賞したり、文化芸術活動を行ったりする機会や環境について、満足していますか。



日常生活の中での文化芸術活動の機会や環境の満足度は、「どちらかといえば満足している」(27.5%)が2割台半ばを超えて最も高くなっている。これに「満足している」(12.2%)を合わせた『満足している(計)』は39.7%となり、「満足していない」(9.4%)と「どちらかといえば満足していない」(17.2%)を合わせた『満足していない(計)』(26.6%)との差は13.1ポイントとなっている。また、「わからない」(32.4%)も3割強と高くなっている。

【過去調査との比較】

平成26年調査と比較して、『満足している(計)』が13.1ポイント増加し、『満足していない(計)』が8.4ポイント減少している。

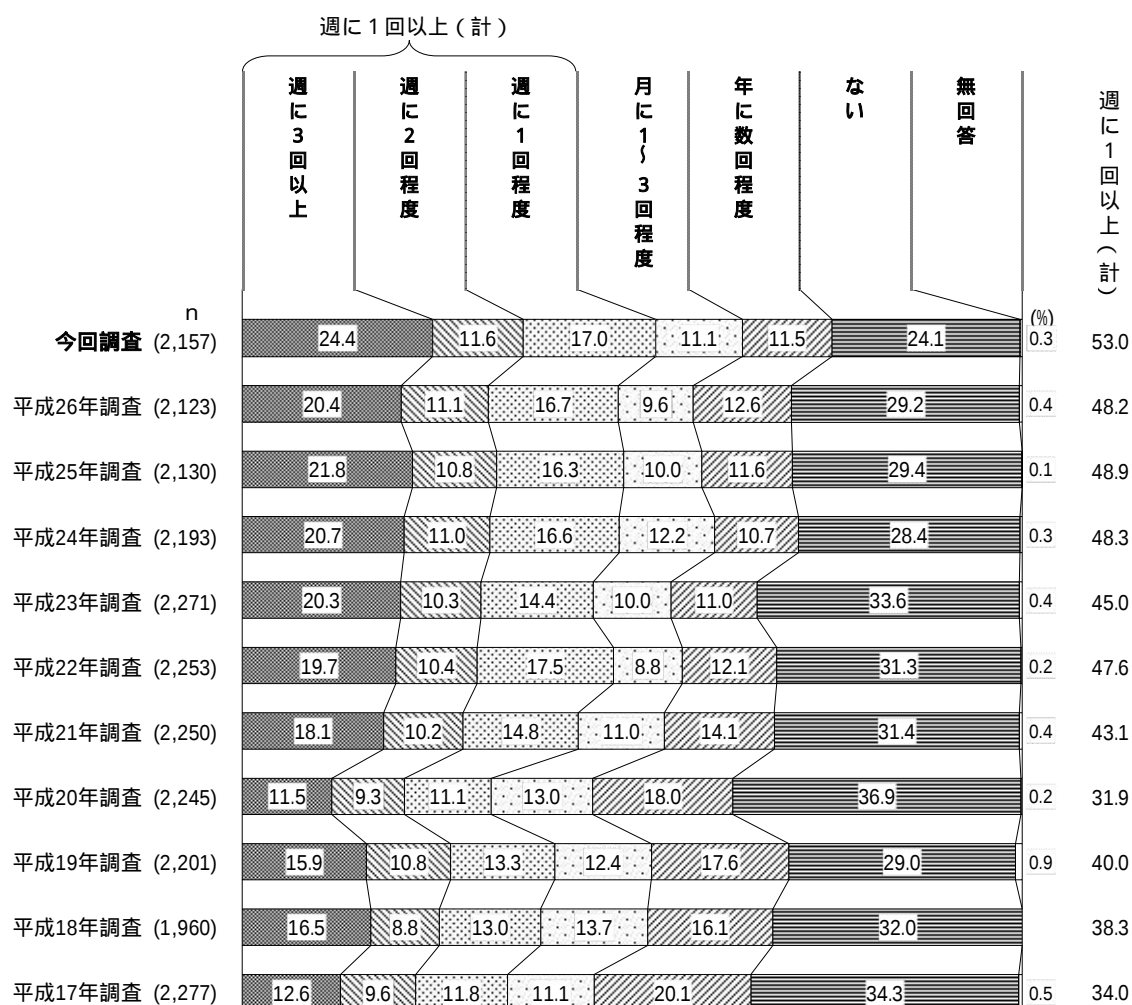
(5) スポーツをする機会

『週に 1 回以上 (計)』は53.0%

問 6 埼玉県では、週に 1 回以上スポーツをすることを推奨しています。あなたは、過去 1 年間に、スポーツ・レクリエーション活動をする機会がどのくらいありましたか。(散歩やウォーキング、軽い体操、子供との体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなど () も含めます。)

スポーツ・レクリエーション活動には、以下のような活動も含めます。

〔 散歩・ウォーキング、ジョギング・ランニング、水泳、体操 (軽い体操・ラジオ体操を含む)、登山 (トレッキングを含む)、ハイキング、ボウリング、ゴルフ、筋力トレーニング、釣り、サイクリング、ゲートボール、フォークダンス、民謡踊りなど 〕



選択肢「月に 1 ~ 3 回程度」は、平成22年から平成26年調査までは「月に 1 ~ 2 回程度」としていた。
また、平成24年調査までの選択肢「ない」は、「ない」と「わからない」の合計である。

過去 1 年間のスポーツをする機会は、「週に 3 回以上」(24.4%) が 2 割台半ばと最も高く、次いで、「ない」(24.1%)、「週に 1 回程度」(17.0%) などとなっている。また、『週に 1 回以上 (計)』(「週に 3 回以上」(24.4%)「週に 2 回程度」(11.6%)「週に 1 回程度」(17.0%) の合計 53.0%) は 5 割強となっている。

【過去調査との比較】

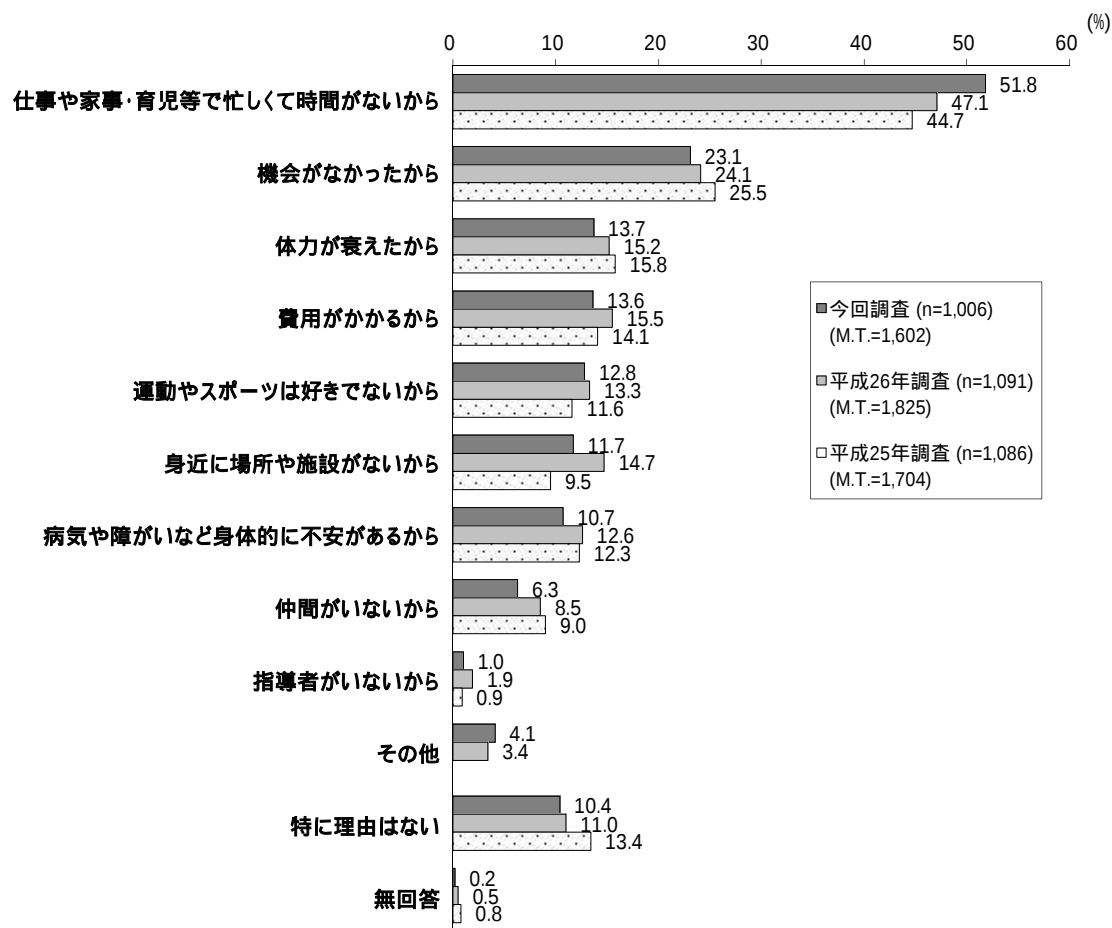
『週に 1 回以上 (計)』(53.0%) は平成 26 年調査から 4.8 ポイント増加して過去最高となった。

(5 - 1) スポーツをする機会がなかった理由

「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」が51.8%

(問 6 で「月に 1 ～ 3 回程度」「年に数回程度」「ない」のいずれかを答えた方に)

問 6 - 1 週に 1 回以上活動する機会がなかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



週に 1 回以上スポーツをする機会がなかった理由は、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」(51.8%) が 5 割強と最も高く、次いで、「機会がなかったから」(23.1%) 「体力が衰えたから」(13.7%) 「費用がかかるから」(13.6%) 「運動やスポーツは好きでないから」(12.8%) などとなっている。

【過去調査との比較】

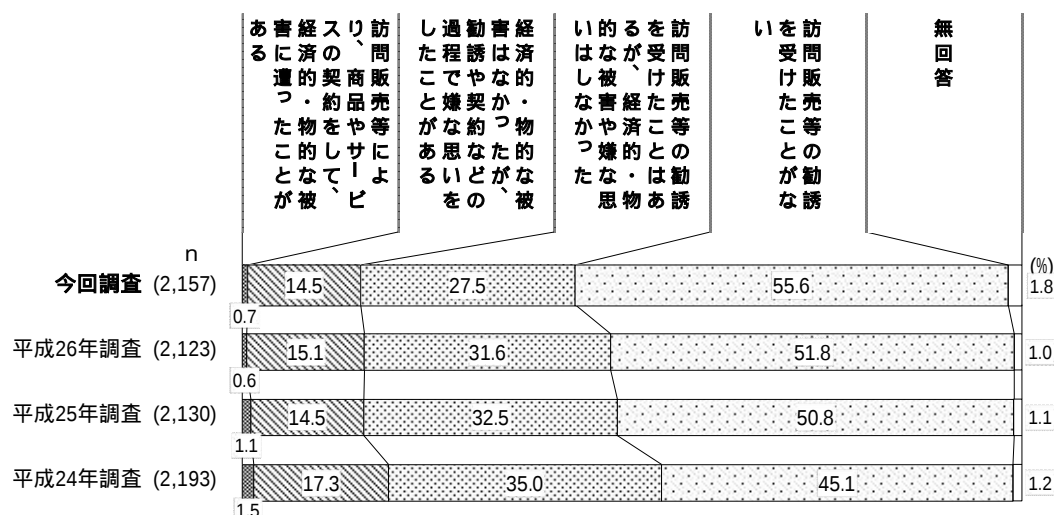
「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」の割合が平成 25 年から増加傾向にある。

(6 - 1) 訪問販売、電話勧誘販売、通信販売による経済的・物的な被害

「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」が55.6%

問7 消費生活についておたずねいたします。

(1) あなたはここ1年以内に、訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによって、経済的・物的な被害に遭ったことがありますか。



訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによる経済的・物的な被害は、「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」(55.6%) が5割台半ばで最も高くなっている。訪問販売等を受けたことがある中では、「訪問販売等の勧誘を受けたことはあるが、経済的・物的な被害や嫌な思いはしなかった」(27.5%) が2割台半ばを超えて最も高くなっている。次いで、「経済的・物的な被害はなかったが、勧誘や契約などの過程で嫌な思いをしたことがある」(14.5%) が1割台半ばとなっており、「訪問販売等により、商品やサービスの契約をして、経済的・物的な被害に遭ったことがある」(0.7%) は極めて低くなっている。

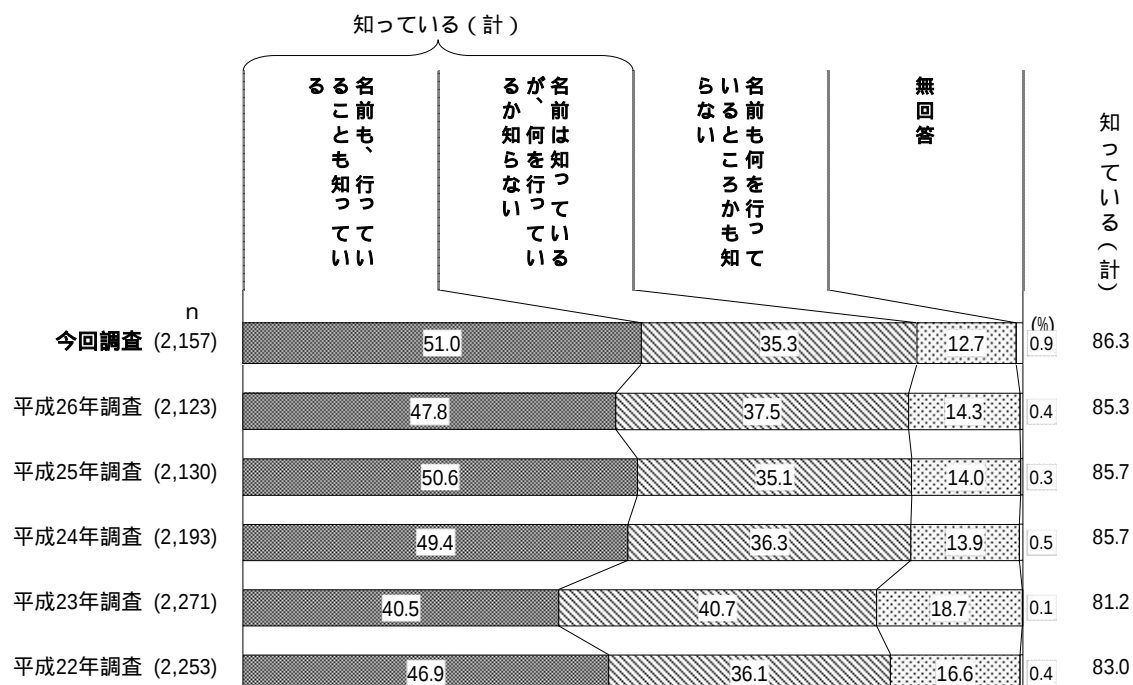
【過去調査との比較】

「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」は調査開始の平成24年から徐々に増加傾向にあり、平成26年調査と比較すると3.8ポイント増加している。

(6 - 2) 消費生活センターの認知度

『知っている（計）』が86.3%

問 7 (2) あなたは契約トラブルの相談・助言や商品テストを行っている消費生活センター（または消費生活相談窓口）を知っていますか。



消費生活センター（または消費生活相談窓口）の認知度は、「名前も、行っていることも知っている」（51.0%）が5割強、これに「名前は知っているが、何を行っているか知らない」（35.3%）を合わせた『知っている（計）』（86.3%）は8割台半ばを超えている。一方で、「名前も何を行っているところかも知らない」（12.7%）は1割強となっている。

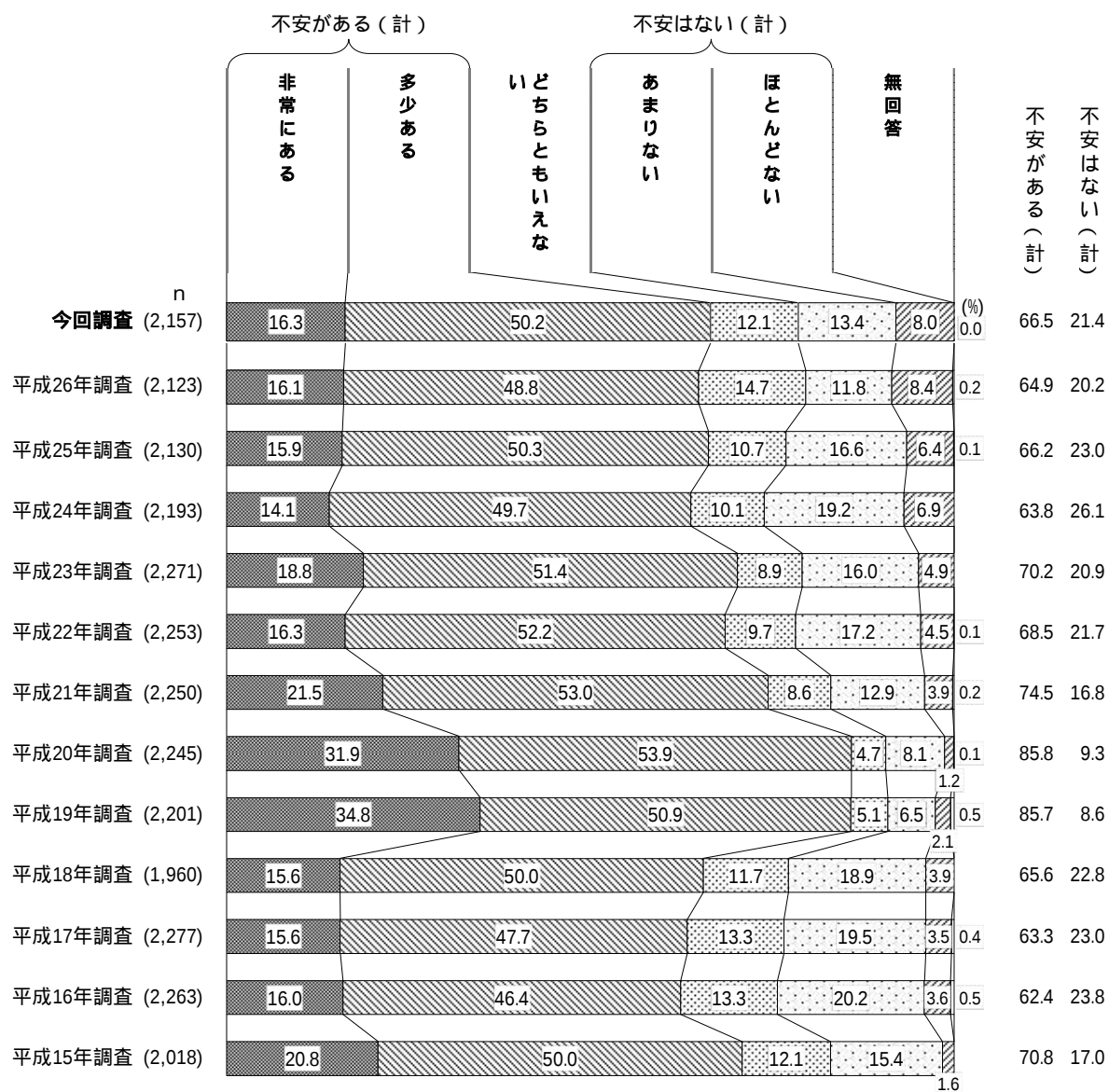
【過去調査との比較】

『知っている（計）』は平成26年調査から1.0ポイント増加した。一方で、「名前も何を行っているところかも知らない」は1.6ポイント減少している。

(7) 食品の安全性に対する意識

『不安がある (計) 』が66.5%

問 8 食品の安全性についておたずねいたします。
あなたは、食品の安全性に不安がありますか。



食品の安全性に関して、不安が「多少ある」(50.2%) が約 5 割と最も高く、「非常にある」(16.3%) と合わせた『不安がある (計) 』(66.5%) は 6 割台半ばを超えている。一方で、不安が「ほとんどない」(8.0%) と「あまりない」(13.4%) を合わせた『不安はない (計) 』(21.4%) は 2 割強となっている。

【過去調査との比較】

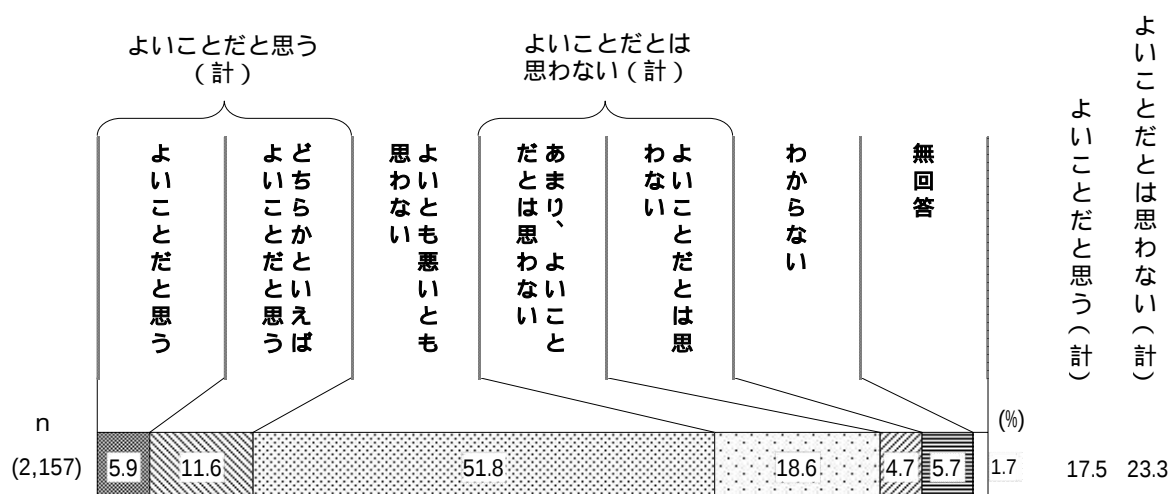
『不安がある (計) 』の割合は、平成 20 年調査で 85.8% と最も高くなり、その後は減少傾向にあったが、直近の 3 年間では 6 割台半ば程度で推移している。

(8) 外国人増加に対する感想

「よいとも悪いとも思わない」が51.8%

問9 県内の外国人住民についておたずねいたします。

県内には、約13万人の外国人が住んでおり、今後も増えていくことが予想されています。
あなたは、お住まいの地域に外国人が増えていくことをどう思いますか。



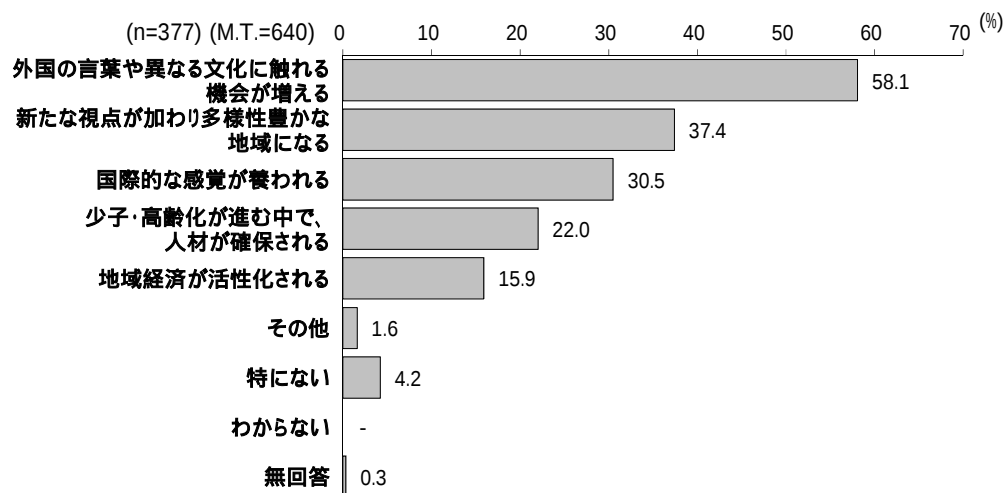
地域に外国人が増えていくことに関して、「よいとも悪いとも思わない」(51.8%) が 5 割強と最も高く、次いで「あまり、よいことだとは思わない」(18.6%) が 2 割弱で、「よいことだとは思わない」(4.7%) と合わせた『よいことだとは思わない (計) 』(23.3%) は 2 割強となっている。一方で、「よいことだと思う」(5.9%) と「どちらかといえばよいことだと思う」(11.6%) を合わせた『よいことだと思う (計) 』(17.5%) は 1 割台半ばを超えている。

(8 - 1) 外国人増加をよいことだと思う理由

「外国の言葉や異なる文化に触れる機会が増える」が58.1%

(問9で「よいことだと思う」「どちらかといえばよいことだと思う」のいずれかを答えた方に)

問9 - 1 その理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



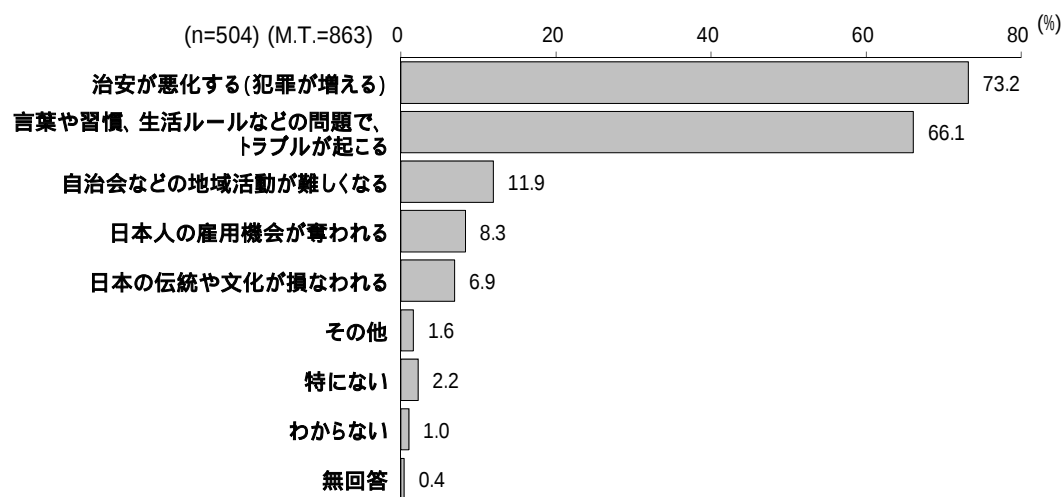
外国人増加をよいことだと思う理由は、「外国の言葉や異なる文化に触れる機会が増える」(58.1%) が6割弱と最も高く、次いで、「新たな視点が加わり多様性豊かな地域になる」(37.4%) 「国際的な感覚が養われる」(30.5%) 「少子・高齢化が進む中で、人材が確保される」(22.0%) 「地域経済が活性化される」(15.9%) などとなっている。

(8 - 2) 外国人増加をよいことだと思わない理由

「治安が悪化する(犯罪が増える)」73.2%と「言葉や習慣、生活ルールなどの問題で、トラブルが起こる」66.1%が突出

(問 9 で「あまり、よいことだとは思わない」「よいことだとは思わない」のいずれかを
答えた方に)

問 9 - 2 その理由は何ですか。次の中から 2 つまで選んでください。

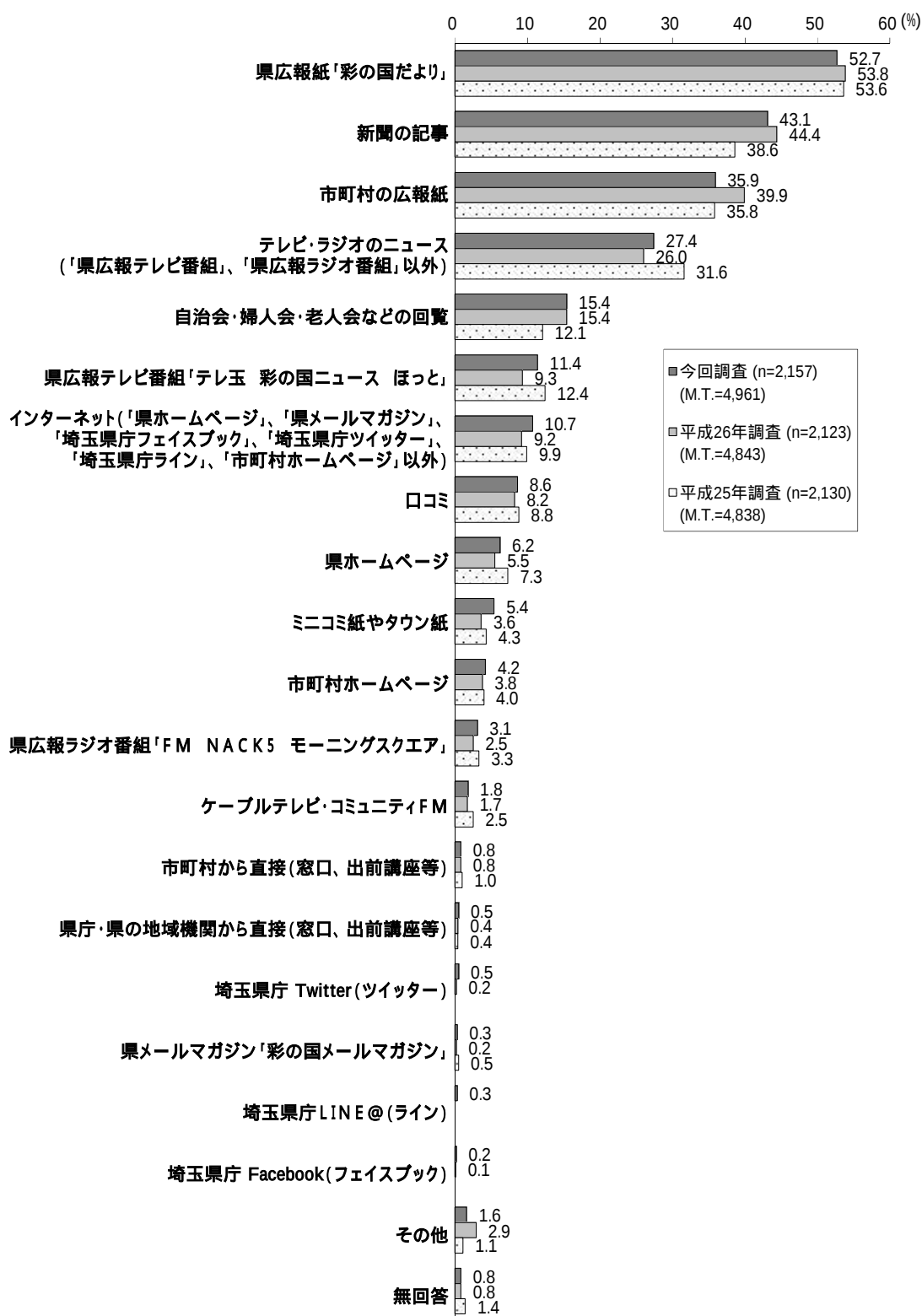


外国人増加をよいことだと思わない理由は、「治安が悪化する(犯罪が増える)」(73.2%)と「言葉や習慣、生活ルールなどの問題で、トラブルが起こる」(66.1%)が突出して高くなっている。次いで、「自治会などの地域活動が難しくなる」(11.9%)、「日本人の雇用機会が奪われる」(8.3%)、「日本の伝統や文化が損なわれる」(6.9%)などとなっている。

(9) 埼玉県に関する情報の入手先

「県広報紙「彩の国だより」」が52.7%

問10 あなたは、埼玉県に関する情報を主にどこから入手していますか。次の中から3つまで選んでください。



平成26年調査から「埼玉県庁Facebook(フェイスブック)」と「埼玉県庁Twitter(ツイッター)」を、今回調査から「埼玉県庁LINE@(ライン)」を追加した。

埼玉県に関する情報の入手先は、「県広報紙「彩の国だより」」(52.7%)が5割強と最も高く、次いで、「新聞の記事」(43.1%)が4割強、「市町村の広報紙」(35.9%)が3割台半ばとなっている。以下、「テレビ・ラジオのニュース」(27.4%)、「自治会・婦人会・老人会などの回覧」(15.4%)、「県広報テレビ番組「テレ玉 彩の国ニュース ほっと」」(11.4%)、「インターネット」(10.7%)などとなっている。

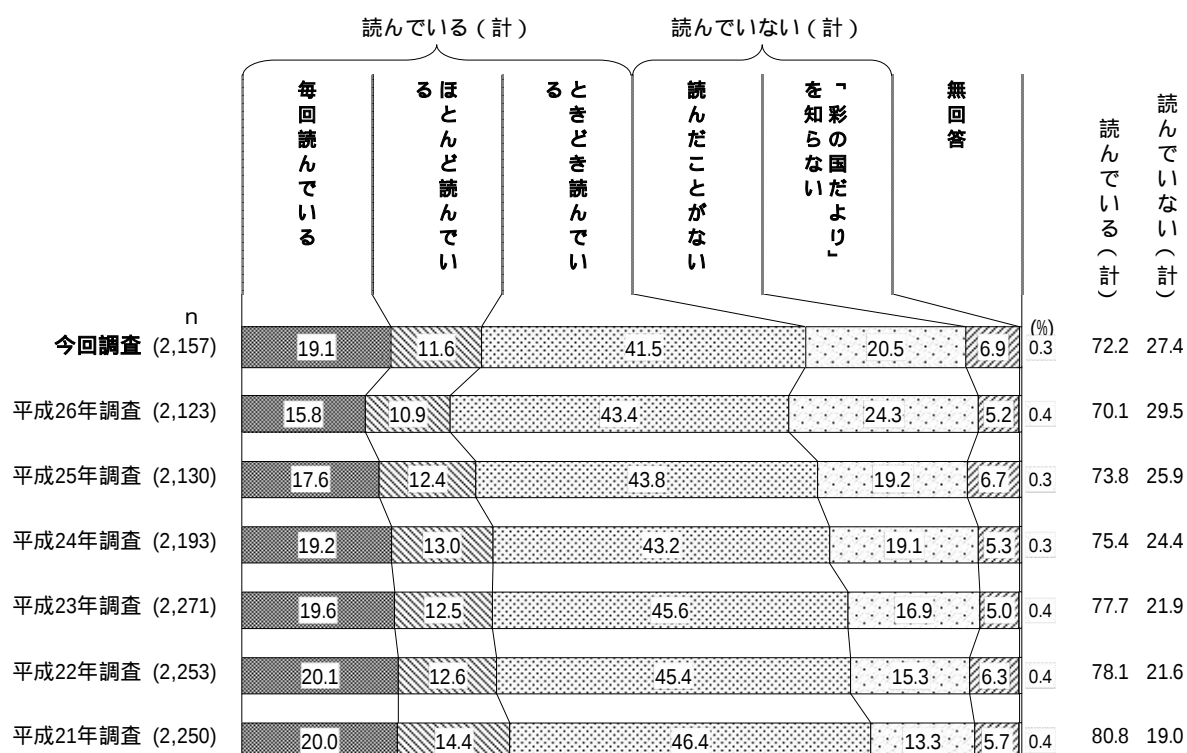
【過去調査との比較】

平成26年調査と比較してみると、上位の「県広報紙「彩の国だより」」、「新聞の記事」、「市町村の広報紙」は、順位に変わりはないものの回答割合が減少している一方で、「県広報テレビ番組「テレ玉 彩の国ニュース ほっと」」は2.1ポイント、「ミニコミ紙やタウン紙」は1.8ポイント増加している。

(10) 埼玉県広報紙「彩の国だより」の閲読状況

『読んでいる(計)』が72.2%

問11 埼玉県広報紙「彩の国だより」を読んだことがありますか。



県広報紙「彩の国だより」の閲読状況は、「ときどき読んでいる」(41.5%)が4割強と最も高く、これに「毎回読んでいる」(19.1%)と「ほとんど読んでいる」(11.6%)を合わせた『読んでいる(計)』(72.2%)は7割強となっている。一方で、「読んだことがない」(20.5%)と「「彩の国だより」を知らない」(6.9%)を合わせた『読んでいない(計)』(27.4%)は2割台半ばを超えている。

【過去調査との比較】

『読んでいる(計)』は、平成21年調査以降は減少傾向にあったが、今回調査では前回の平成26年調査から2.1ポイント増加した。

3 県政への要望

「高齢者の福祉を充実する」(28.5%)が1位

問12 埼玉県政への要望についておたずねいたします。

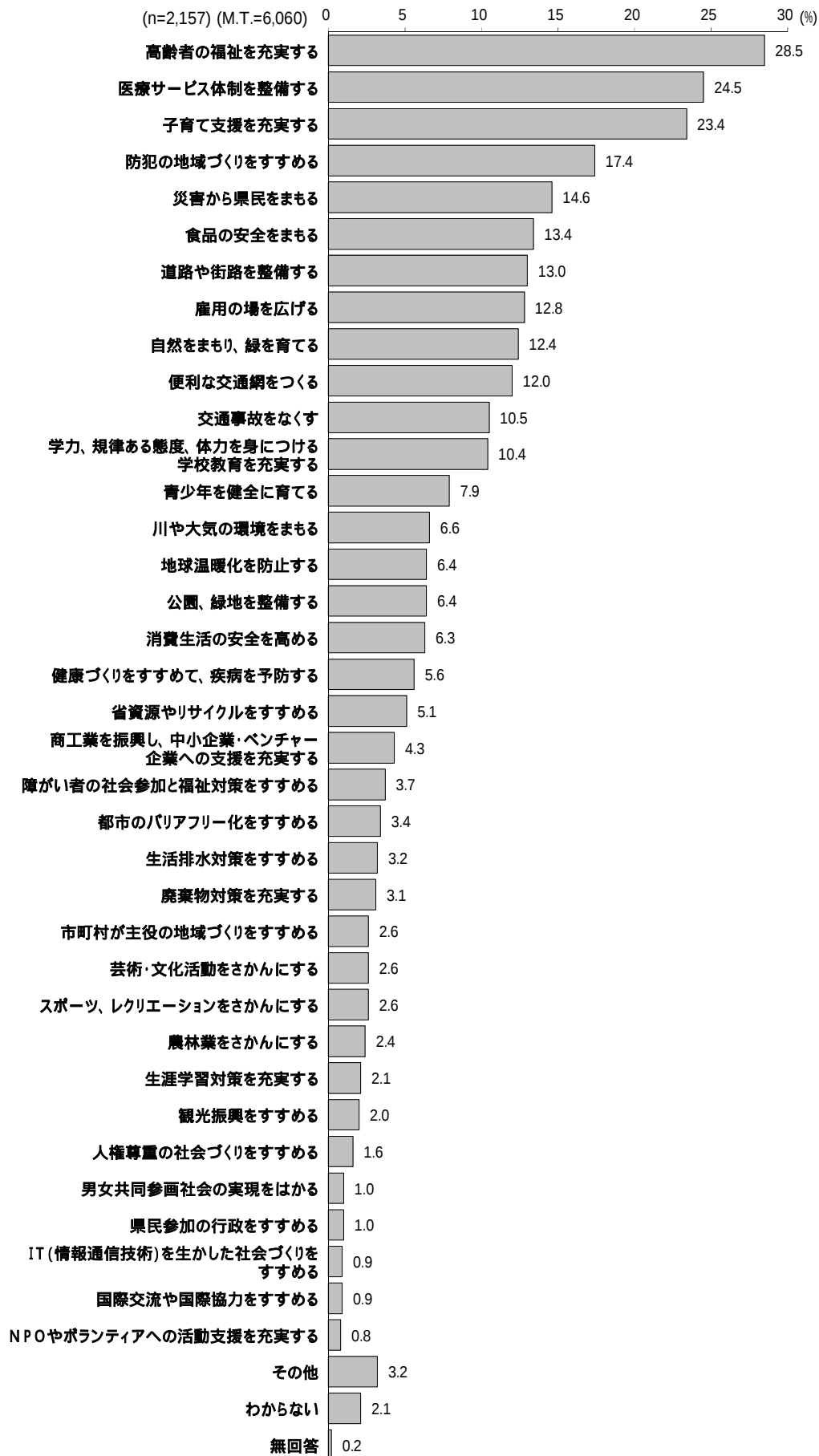
県の行政全般の中で、現在、あなたが最も重点をおいてほしいもの、特に必要だと思うものを、次の中から3つまで選んでください。

	今 回	前回（平成26年調査）		増減差
1位 高齢者の福祉を充実する	28.5%	28.5%	（1位）	0.0
2位 医療サービス体制を整備する	24.5	25.3	（2位）	0.8
3位 子育て支援を充実する	23.4	17.3	（3位）	6.1
4位 防犯の地域づくりをすすめる	17.4	16.7	（4位）	0.7
5位 災害から県民をまもる	14.6	16.5	（5位）	1.9
6位 食品の安全をまもる	13.4	13.8	（8位）	0.4
7位 道路や街路を整備する	13.0	11.1	（11位）	1.9
8位 雇用の場を広げる	12.8	15.3	（6位）	2.5
9位 自然をまもり、緑を育てる	12.4	13.0	（9位）	0.6
10位 便利な交通網をつくる	12.0	11.7	（10位）	0.3

【過去調査との比較】

今回の上位10位と前回の平成26年調査を比較すると、1位から5位の「高齢者の福祉を充実する」、「医療サービス体制を整備する」、「子育て支援を充実する」、「防犯の地域づくりをすすめる」、「災害から県民をまもる」には順位の変化がない。前回8位の「食品の安全をまもる」は順位を上げて6位、前回11位の「道路や街路を整備する」も順位を上げて7位となっている。

前回調査との増減をみると、「子育て支援を充実する」(6.1ポイント増)、「道路や街路を整備する」(1.9ポイント増)などが増加している。一方で、「雇用の場を広げる」(2.5ポイント減)、「災害から県民をまもる」(1.9ポイント減)などは減少している。



【平成23年以降の上位10位の推移】

過去5年間の上位10位の推移をみると、今回1位の「高齢者の福祉を充実する」(1位→1位→1位→1位→1位)と、2位の「医療サービス体制を整備する」(2位→2位→2位→2位→2位)は上位で固定している。3位の「子育て支援を充実する」(8位→7位→3位→3位→3位)は平成23年から平成24年は順位を下げていたが、平成25年から平成27年は3位を維持している。4位の「防犯の地域づくりをすすめる」(5位→4位→4位→4位→4位)はほぼ同じ順位を維持している。5位の「災害から県民をまもる」(6位→6位→8位→5位→5位)は平成25年に順位を下げたが、前回から5位を維持している。6位の「食品の安全をまもる」(3位→8位→6位→8位→6位)は前回順位を下げたが、前々回と同じ6位となった。7位の「道路や街路を整備する」(10位→11位→11位→11位→7位)は平成24年から平成26年まで11位であったが、今回初めて7位に順位を上げた。8位の「雇用の場を広げる」(7位→5位→5位→6位→8位)は平成26年から順位を2つ下げた。9位の「自然をまもり、緑を育てる」(4位→3位→7位→9位→9位)は平成25年に大きく順位を下げ、平成26年から引き続き9位となっている。

順位	23年	24年	25年	26年	27年
1	高齢者の福祉を充実する 26.0%	高齢者の福祉を充実する 26.4%	高齢者の福祉を充実する 26.2%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 28.5%
2	医療サービス体制を整備する 24.3%	医療サービス体制を整備する 21.2%	医療サービス体制を整備する 25.4%	医療サービス体制を整備する 25.3%	医療サービス体制を整備する 24.5%
3	食品の安全をまもる 22.3%	自然をまもり、緑を育てる 19.7%	子育て支援を充実する 20.0%	子育て支援を充実する 17.3%	子育て支援を充実する 23.4%
4	自然をまもり、緑を育てる 18.6%	防犯の地域づくりをすすめる 17.6%	防犯の地域づくりをすすめる 16.9%	防犯の地域づくりをすすめる 16.7%	防犯の地域づくりをすすめる 17.4%
5	防犯の地域づくりをすすめる 14.8%	雇用の場を広げる 17.3%	雇用の場を広げる 15.7%	災害から県民をまもる 16.5%	災害から県民をまもる 14.6%
6	災害から県民をまもる / 14.7%	災害から県民をまもる 17.2%	食品の安全をまもる 15.2%	雇用の場を広げる 15.3%	食品の安全をまもる 13.4%
7	雇用の場を広げる 14.1%	子育て支援を充実する 16.6%	自然をまもり、緑を育てる 15.0%	交通事故をなくす 14.2%	道路や街路を整備する 13.0%
8	子育て支援を充実する 10.7%	食品の安全をまもる 14.2%	災害から県民をまもる 12.1%	食品の安全をまもる 13.8%	雇用の場を広げる 12.8%
9	交通事故をなくす 10.4%	交通事故をなくす 13.2%	交通事故をなくす 11.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.4%
10	道路や街路を整備する 10.4%	地球温暖化を防止する 9.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 11.2%	便利な交通網をつくる 11.7%	便利な交通網をつくる 12.0%

【上位4位の10年間の推移】

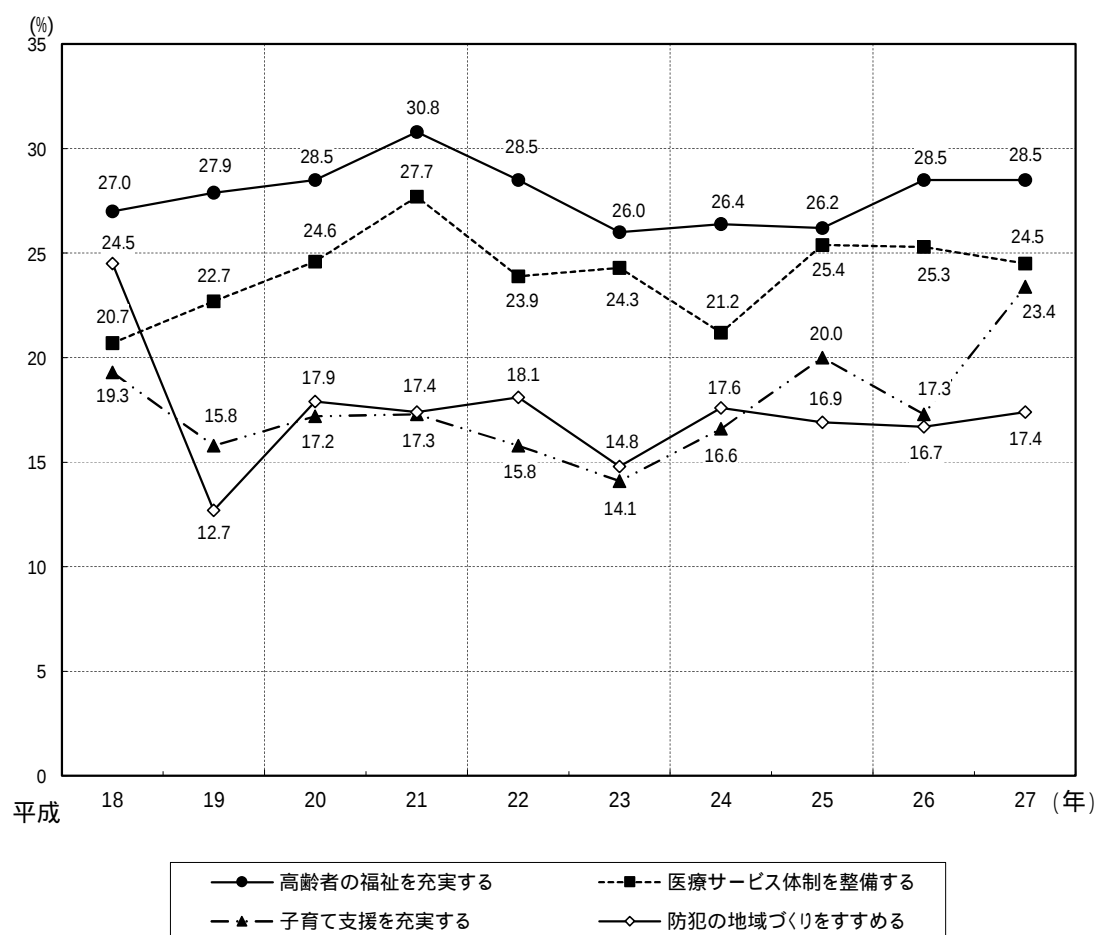
今回調査で上位となった「高齢者の福祉を充実する」、「医療サービス体制を整備する」、「子育て支援を充実する」、「防犯の地域づくりをすすめる」の4項目について、平成18年以降の直近10年間の推移をみると次のようになっている。

まず、1位の「高齢者の福祉を充実する」は平成21年に直近10年間の最高値を記録した以降は減少傾向に転じたが、平成23年から平成25年にかけて2割台半ばを超えて推移し、前回と今回は3割弱を維持して推移している。

2位の「医療サービス体制を整備する」は平成21年に直近10年間の最高値を記録してからは減少傾向に転じたが、平成25年に増加に転じ、今回も2割台半ばを維持して推移している。

3位の「子育て支援を充実する」は、平成23年に直近10年間の最低値を記録した以降は増加傾向に転じ、前回再び減少したものの、今回は最高値を記録した。

4位の「防犯の地域づくりをすすめる」は平成19年に直近10年間の最低値を記録した以降、おおむね15～18%程度の間で推移している。



県政への要望10年間の推移(平成18年～平成27年)

	H18	H19	H20	H21	H22
1	高齢者の福祉を充実する 27.0%	高齢者の福祉を充実する 27.9%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 30.8%	高齢者の福祉を充実する 28.5%
2	防犯の地域づくりをすすめる 24.5%	医療サービス体制を整備する 22.7%	医療サービス体制を整備する 24.6%	医療サービス体制を整備する 27.7%	医療サービス体制を整備する 23.9%
3	医療サービス体制を整備する 20.7%	自然をまもり、緑を育てる 21.3%	食品の安全をまもる 20.8%	自然をまもり、緑を育てる 19.7%	自然をまもり、緑を育てる 21.3%
4	自然をまもり、緑を育てる 20.4%	地球温暖化を防止する 20.5%	地球温暖化を防止する 20.0%	防犯の地域づくりをすすめる 17.4%	防犯の地域づくりをすすめる 18.1%
5	子育て支援を充実する 19.3%	食品の安全をまもる 17.7%	自然をまもり、緑を育てる 18.6%	子育て支援を充実する 17.3%	子育て支援を充実する/ 雇用の場を広げる
6	災害から県民をまもる 13.1%	子育て支援を充実する 15.8%	防犯の地域づくりをすすめる 17.9%	食品の安全をまもる 16.8%	雇用の場を広げる 15.8%
7	交通事故をなくす 11.1%	防犯の地域づくりをすすめる 12.7%	子育て支援を充実する 17.2%	地球温暖化を防止する 16.0%	地球温暖化を防止する 14.1%
8	地球温暖化を防止する 10.8%	災害から県民をまもる 10.4%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 11.8%	雇用の場を広げる 12.7%	食品の安全をまもる 12.9%
9	雇用の場を広げる 9.7%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 10.3%	消費生活の安全を高める 10.3%	川や大気環境をまもる 9.6%	交通事故をなくす 10.9%
10	道路や街路を整備する 9.2%	交通事故をなくす 9.9%	災害から県民をまもる 10.0%	災害から県民をまもる 9.4%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 10.1%
11	川や大気環境をまもる 9.1%	省資源やリサイクルをすすめる 9.5%	省資源やリサイクルをすすめる 9.9%	省資源やリサイクルをすすめる 8.7%	道路や街路を整備する 9.5%
12	省資源やリサイクルをすすめる 8.9%	川や大気環境をまもる 9.3%	雇用の場を広げる 9.5%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 8.5%	省資源やリサイクルをすすめる 9.2%
13	食品の安全をまもる/ 青少年を健全に育てる 8.6%	雇用の場を広げる 8.4%	青少年を健全に育てる 7.5%	消費生活の安全を高める 8.2%	災害から県民をまもる 9.1%
14	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 8.5%	道路や街路を整備する/ 便利な交通網をつくる 8.0%	便利な交通網をつくる 8.5%	便利な交通網をつくる 7.9%	公園、緑地を整備する 8.4%
15	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 8.5%	便利な交通網をつくる 8.0%	交通事故をなくす 8.3%	交通事故をなくす 7.7%	青少年を健全に育てる 8.3%
16	便利な交通網をつくる 8.4%	消費生活の安全を高める 7.2%	川や大気環境をまもる 7.5%	道路や街路を整備する 6.8%	廃棄物対策を充実する 8.2%
17	廃棄物対策を充実する 7.8%	青少年を健全に育てる 7.1%	道路や街路を整備する 7.2%	青少年を健全に育てる 6.2%	川や大気環境をまもる 7.4%
18	公園、緑地を整備する/ 障害者の社会参加と 福祉対策をすすめる 6.5%	公園、緑地を整備する 6.8%	公園、緑地を整備する 5.4%	公園、緑地を整備する 5.9%	便利な交通網をつくる 6.4%
19	障害者の社会参加と 福祉対策をすすめる 6.5%	廃棄物対策を充実する 5.5%	障害者の社会参加と 福祉対策をすすめる 4.8%	廃棄物対策を充実する 5.0%	消費生活の安全を高める 6.0%
20	都市のバリアフリー化をすすめる 5.9%	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 4.6%	廃棄物対策を充実する 4.5%	農林業をさかんにする 3.9%	商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する 4.2%
21	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 5.6%	障害者の社会参加と 福祉対策をすすめる 4.5%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.7%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.8%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 障害者の社会参加と 福祉対策をすすめる/ 健康づくりをすすめて 疾病を予防する 3.6%
22	消費生活の安全をたかめる 5.5%	都市のバリアフリー化をすすめる 4.4%	農林業をさかんにする 3.0%	障害者の社会参加と 福祉対策をすすめる 3.6%	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 3.6%
23	市町村が主役の 地域づくりをすすめる 4.2%	芸術・文化活動をさかんにする/ 生活排水対策をすすめる 2.4%	健康づくりをすすめて 疾病を予防する/ 商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する 2.8%	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 3.3%	生活排水対策をすすめる 3.3%
24	生活排水対策をすすめる 3.8%	生活排水対策をすすめる 2.4%	商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する 2.8%	商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する 2.9%	生活排水対策をすすめる 3.3%
25	商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する/ 芸術・文化活動をさかんにする 3.0%	生涯学習対策を充実する/ 商工業を振興し、中小企業・ベン チャー企業への支援を充実する/ スポーツ・レクリエーションを さかんにする 2.3%	生活排水対策をすすめる 2.4%	市町村が主役の 地域づくりをすすめる 2.7%	農林業をさかんにする 3.1%
26	スポーツ・レクリエーションを さかんにする 2.9%	スポーツ・レクリエーションを さかんにする 2.3%	県民参加の行政をすすめる/ スポーツ・レクリエーションを さかんにする 2.3%	生活排水対策をすすめる 2.5%	スポーツ・レクリエーションを さかんにする 2.4%
27	県民参加の行政をすすめる 2.6%	人権尊重の社会づくりをすすめる/ 市町村が主役の 地域づくりをすすめる 2.0%	人権尊重の社会づくりをすすめる/ 市町村が主役の 地域づくりをすすめる 1.9%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.8%	市町村が主役の 地域づくりをすすめる 1.6%
28	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.4%	生涯学習対策を充実する 2.3%	生涯学習対策を充実する 1.6%	生涯学習対策を充実する/ 人権尊重の社会づくりをすすめる 1.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.4%
29	生涯学習対策を充実する 2.3%	農林業をさかんにする 1.4%	生涯学習対策を充実する 1.6%	生涯学習対策を充実する/ 人権尊重の社会づくりをすすめる 1.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.4%
30	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 1.9%	農林業をさかんにする 1.4%	生涯学習対策を充実する 1.6%	生涯学習対策を充実する/ 人権尊重の社会づくりをすすめる 1.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.4%
31	男女共同参画社会の実現をはかる/ 農林業をさかんにする/ 国際交流や国際協力をすすめる 1.3%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.2%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.5%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.3%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.3%
32	農林業をさかんにする/ 国際交流や国際協力をすすめる 1.1%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 1.1%	国際交流や国際協力をすすめる 1.2%	観光振興をすすめる 1.0%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 1.2%
33	国際交流や国際協力をすすめる 1.3%	国際交流や国際協力をすすめる 0.8%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 0.9%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する/ 国際交流や国際協力をすすめる 0.8%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める/ 男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%
34	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 1.1%	観光振興をすすめる 0.7%	観光振興をすすめる 0.8%	国際交流や国際協力をすすめる 0.7%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%
35	観光振興をすすめる 1.0%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 0.6%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 0.4%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 0.7%	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%
36	観光振興をすすめる 1.0%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 0.6%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 0.4%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりを進める 0.7%	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%

	H23	H24	H25	H26	H27
1	高齢者の福祉を充実する 26.0%	高齢者の福祉を充実する 26.4%	高齢者の福祉を充実する 26.2%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 28.5%
2	医療サービス体制を整備する 24.3%	医療サービス体制を整備する 21.2%	医療サービス体制を整備する 25.4%	医療サービス体制を整備する 25.3%	医療サービス体制を整備する 24.5%
3	食品の安全をまもる 22.3%	自然をまもり、緑を育てる 19.7%	子育て支援を充実する 20.0%	子育て支援を充実する 17.3%	子育て支援を充実する 23.4%
4	自然をまもり、緑を育てる 18.6%	防犯の地域づくりをすすめる 17.6%	防犯の地域づくりをすすめる 16.9%	防犯の地域づくりをすすめる 16.7%	防犯の地域づくりをすすめる 17.4%
5	防犯の地域づくりをすすめる 14.8%	雇用の場を広げる 17.3%	雇用の場を広げる 15.7%	災害から県民をまもる 16.5%	災害から県民をまもる 14.6%
6	災害から県民をまもる / 雇用場の広げる 14.7%	災害から県民をまもる 17.2%	食品の安全をまもる 15.2%	雇用の場を広げる 15.3%	食品の安全をまもる 13.4%
7	子育て支援を充実する 14.1%	子育て支援を充実する 16.6%	自然をまもり、緑を育てる 15.0%	交通事故をなくす 14.2%	道路や街路を整備する 13.0%
8	交通事故をなくす 10.7%	交通事故をなくす 13.2%	交通事故をなくす 11.6%	食品の安全をまもる 13.8%	雇用の場を広げる 12.8%
9	道路や街路を整備する 10.4%	地球温暖化を防止する 9.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 11.2%	自然をまもり、緑を育てる 13.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.4%
10	道路や街路を整備する 10.0%	地球温暖化を防止する 8.4%	道路や街路を整備する / 便利な交通網をつくる 9.2%	便利な交通網をつくる 11.1%	便利な交通網をつくる 10.5%
11	地球温暖化を防止する 9.0%	道路や街路を整備する 8.2%	便利な交通網をつくる 9.2%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 9.5%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 10.4%
12	省資源やリサイクルをすすめる / 川や大気の状態をまもる 8.6%	学術、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 8.0%	川や大気の状態をまもる 8.6%	川や大気の状態をまもる 8.7%	青少年を健全に育てる 7.9%
13	川や大気の状態をまもる 8.6%	省資源やリサイクルをすすめる / 青少年を健全に育てる 7.8%	地球温暖化を防止する 7.9%	地球温暖化を防止する 8.4%	川や大気の状態をまもる 6.6%
14	消費生活の安全を高める 7.6%	青少年を健全に育てる 7.8%	青少年を健全に育てる 6.9%	青少年を健全に育てる 7.3%	地球温暖化を防止する 6.4%
15	学術、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 7.4%	川や大気の状態をまもる 6.5%	省資源やリサイクルをすすめる 5.9%	省資源やリサイクルをすすめる 6.6%	公園、緑地を整備する 6.4%
16	公園、緑地を整備する 7.3%	消費生活の安全を高める 6.0%	公園、緑地を整備する 5.8%	消費生活の安全を高める 6.5%	消費生活の安全を高める 6.3%
17	青少年を健全に育てる 5.7%	公園、緑地を整備する 5.3%	消費生活の安全を高める 5.1%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 5.9%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 5.6%
18	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.9%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.7%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.8%	公園、緑地を整備する 5.2%	省資源やリサイクルをすすめる 5.1%
19	廃棄物対策を充実する 3.7%	廃棄物対策を充実する 4.2%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー 企業への支援を充実する 3.8%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.2%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー 企業への支援を充実する 4.3%
20	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 3.5%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー 企業への支援を充実する 4.1%	廃棄物対策を充実する / 障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.7%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー 企業への支援を充実する 3.5%	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.7%
21	生活排水対策をすすめる 3.2%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.8%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.7%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 3.1%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.4%
22	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー 企業への支援を充実する 3.1%	都市のバリアフリー化をすすめる / 人権尊重の社会づくりをすすめる / 農林業をさかんにする 2.7%	都市のバリアフリー化をすすめる / スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.4%	廃棄物対策を充実する 3.0%	生活排水対策をすすめる 3.2%
23	都市のバリアフリー化をすすめる / スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる / 農林業をさかんにする 2.7%	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.3%	都市のバリアフリー化をすすめる 2.9%	廃棄物対策を充実する 3.1%
24	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.3%	生活排水対策をすすめる / 市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.5%	農林業をさかんにする 2.2%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.9%	市町村が主役の地域づくりをすすめる / 芸術・文化活動をさかんにする 2.6%
25	芸術・文化活動をさかんにする 2.2%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.5%	芸術・文化活動をさかんにする 2.1%	生活排水対策をすすめる 2.8%	芸術・文化活動をさかんにする 2.6%
26	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする / スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.2%	観光振興をすすめる 1.9%	人権尊重の社会づくりをすすめる / 芸術・文化活動をさかんにする 2.4%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.6%
27	農林業をさかんにする 1.8%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.2%	生活排水対策をすすめる / 生涯学習対策を充実する / 生涯学習対策を充実する / 2.1%	農林業をさかんにする 2.1%	農林業をさかんにする 2.4%
28	観光振興をすすめる 1.5%	観光振興をすすめる 2.1%	生涯学習対策を充実する / 生涯学習対策を充実する / 2.1%	県民参加の行政をすすめる 1.7%	生涯学習対策を充実する 2.1%
29	県民参加の行政をすすめる 1.2%	県民参加の行政をすすめる 2.0%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.8%	観光振興をすすめる 1.6%	観光振興をすすめる 2.0%
30	NPOやボランティアへの活動支援を 充実する 1.1%	生涯学習対策を充実する 1.8%	県民参加の行政をすすめる 1.4%	生涯学習対策を充実する 1.6%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.6%
31	IT(情報通信技術)を生かした社会づ くりをすすめる / 生涯学習対策を充実する / 国際交流や国際協力をすすめる 1.0%	IT(情報通信技術)を生かした社会づ くりをすすめる / NPOやボランティアへの活動支援を充 実する / 国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	IT(情報通信技術)を生かした社会づ くりをすすめる / 国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	男女共同参画社会の実現をはかる / IT(情報通信技術)を生かした社会づ くりをすすめる 0.8%	男女共同参画社会の実現をはかる / IT(情報通信技術)を生かした社会づ くりをすすめる 0.9%
32	男女共同参画社会の実現をはかる 0.5%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.7%	NPOやボランティアへの活動支援を充 実する 0.8%	国際交流や国際協力をすすめる 0.8%	NPOやボランティアへの活動支援を充 実する 0.8%

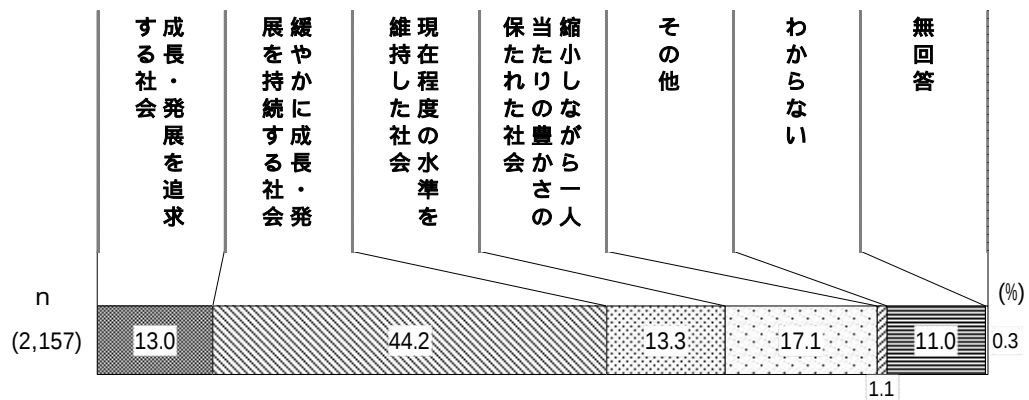
4 人口減少問題

人口減少社会の到来に県民の方々の関心が高まりつつある中、「人口減少問題」をテーマに、関連することについておたずねしました。

(1) 埼玉県が目指すべき社会

「緩やかに成長・発展を持続する社会」が44.2%

問13 あなたは、埼玉県の将来について、どのような社会を目指していくことが望ましいと思いますか。この中から1つだけ選んでください。

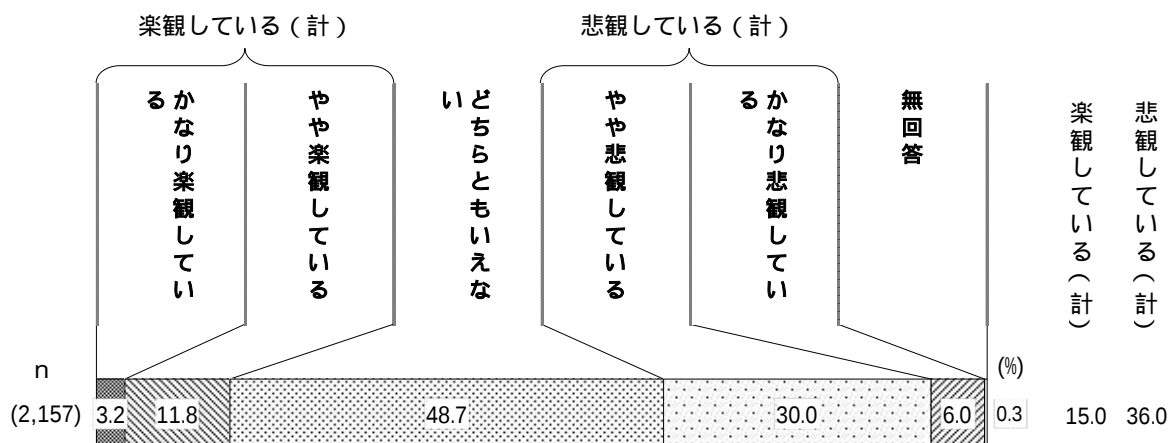


埼玉県が目指すべき社会は、「緩やかに成長・発展を持続する社会」(44.2%)が4割台半ばで最も高くなっている。次いで、「縮小しながら一人当たりの豊かさの保たれた社会」(17.1%)が1割台半ばを超え、「現在程度の水準を維持した社会」(13.3%)「成長・発展を追求する社会」(13.0%)がともに1割強となっている。

(2) 埼玉県の人口減少への楽観・悲観

「どちらともいえない」が48.7%、『悲観している（計）』が36.0%

問14 将来、埼玉県の人口が減少に転じると推計されていることについて、あなたは楽観していますか、それとも悲観していますか。

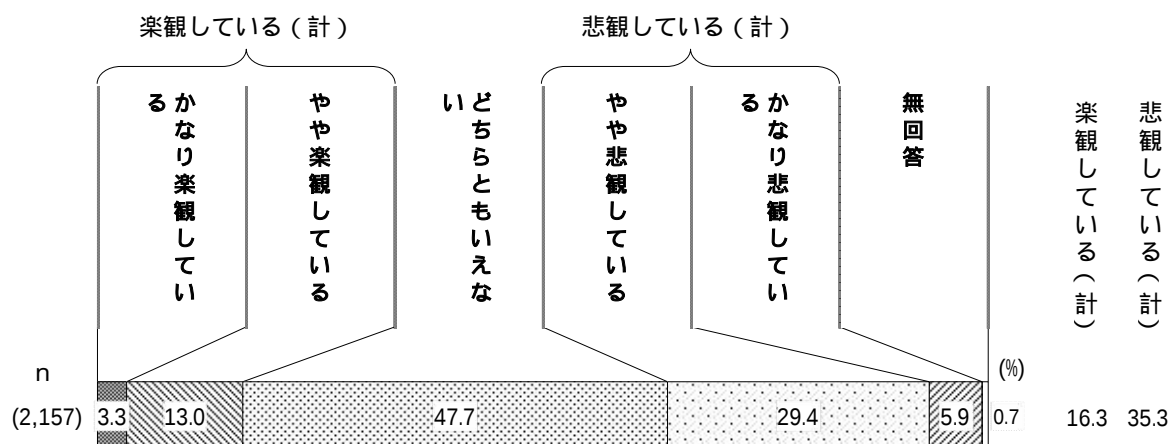


埼玉県の人人口減少への楽観・悲観は、「どちらともいえない」(48.7%)が5割弱と最も高くなっている。次いで「やや悲観している」(30.0%)が3割で、これに「かなり悲観している」(6.0%)を合わせた『悲観している（計）』(36.0%)は3割台半ばを超えている。一方で、「かなり楽観している」(3.2%)と「やや楽観している」(11.8%)を合わせた『楽観している（計）』(15.0%)は1割台半ばとなっている。

(3) 地域の人口減少への楽観・悲観

「どちらともいえない」が47.7%、『悲観している（計）』が35.3%

問15 では、あなたがいま住んでいる地域の人口減少については、あなたは楽観していますか、それとも悲観していますか。



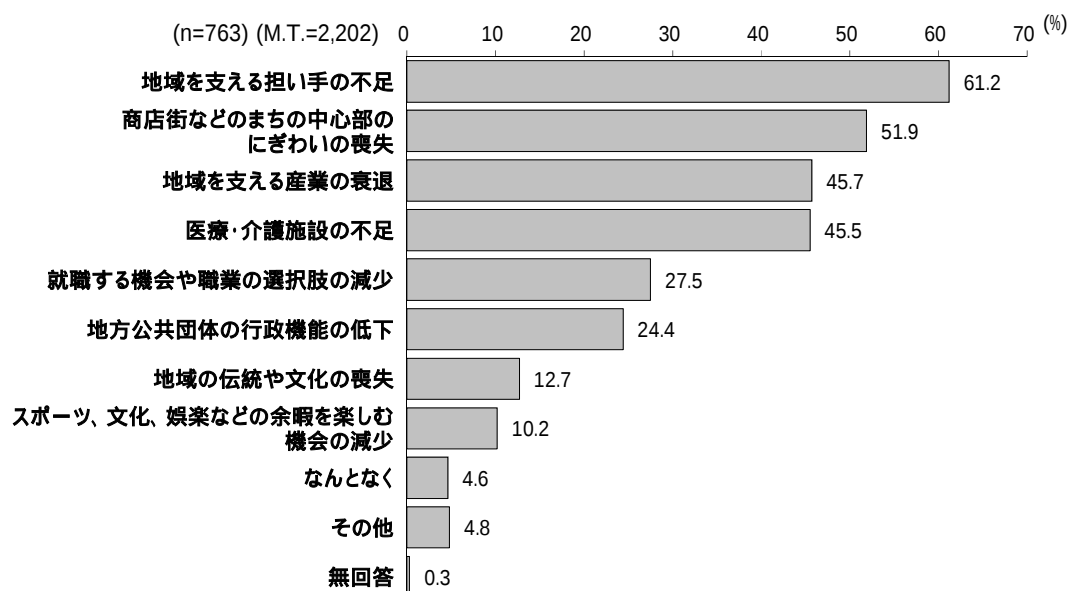
地域の人口減少への楽観・悲観は、「どちらともいえない」(47.7%)が4割台半ばを超えて最も高くなっている。次いで「やや悲観している」(29.4%)が3割弱で、これに「かなり悲観している」(5.9%)を合わせた『悲観している（計）』(35.3%)は3割台半ばとなっている。一方で、「かなり楽観している」(3.3%)と「やや楽観している」(13.0%)を合わせた『楽観している（計）』(16.3%)は1割台半ばを超えている。

(4) 地域の人口減少で悲観していること

「地域を支える担い手の不足」61.2%

(問15で「やや悲観している」「かなり悲観している」のいずれかを答えた方に)

問15-1 お住まいの地域の人口減少について、あなたはどのようなことを悲観されていますか。
あてはまるものをすべて選んでください。

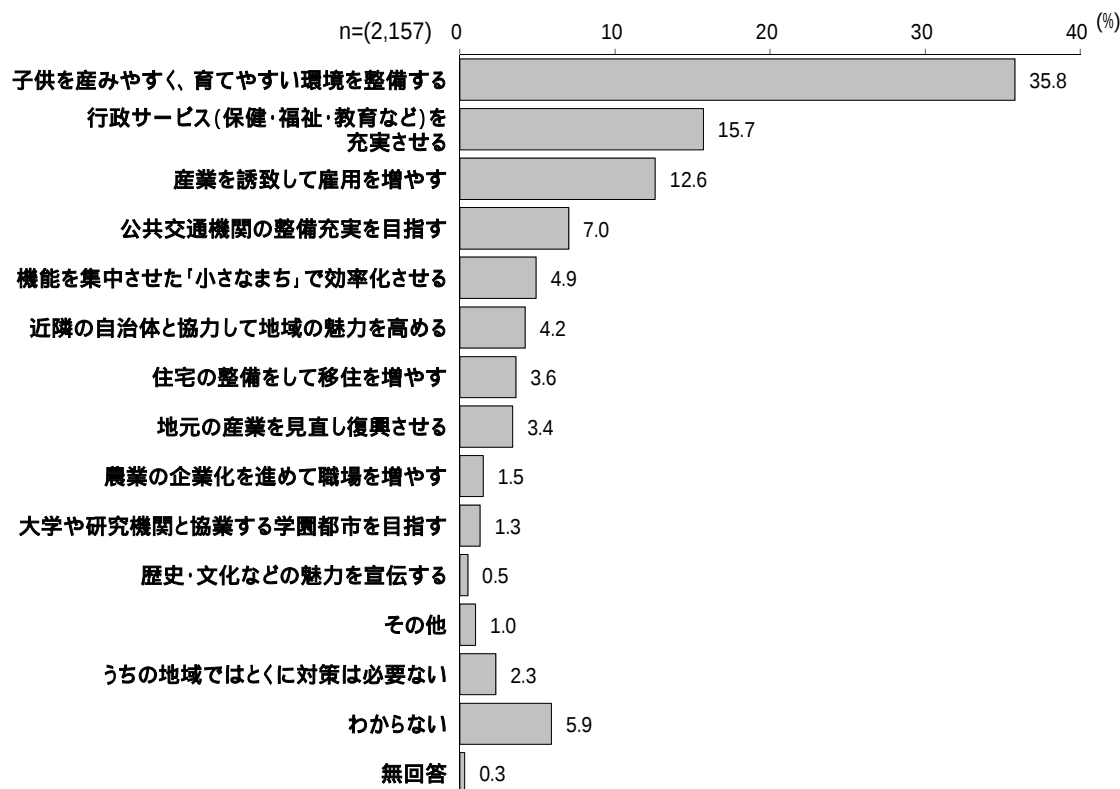


地域の人口減少で悲観していることは、「地域を支える担い手の不足」(61.2%) が6割強と最も高く、次いで「商店街などのまちの中心部にぎわいの喪失」(51.9%)、「地域を支える産業の衰退」(45.7%)、「医療・介護施設の不足」(45.5%) などとなっている。

(5) 地域の人口減少への対策

「子供を産みやすく、育てやすい環境を整備する」35.8%

問16 お住まいの地域の人口減少を考えた場合、どのような対策が一番重要だとあなたは思いますか。次の中から1つだけ選んでください。



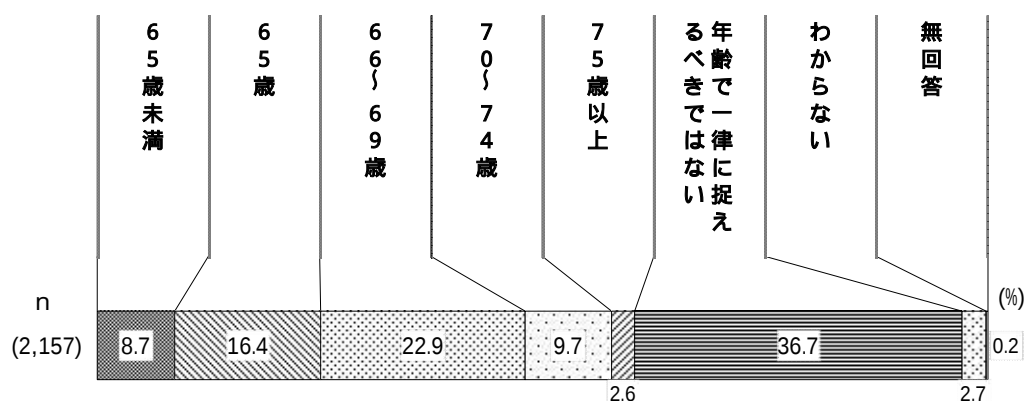
地域の人口減少への対策は、「子供を産みやすく、育てやすい環境を整備する」(35.8%)が3割台半ばと最も高く、次いで「行政サービス(保健・福祉・教育など)を充実させる」(15.7%)、「産業を誘致して雇用を増やす」(12.6%)などとなっている。

(6) 働くのが望ましい年齢

「年齢で一律に捉えるべきではない」36.7%、「66～69歳」22.9%

問17 働くことが想定される年齢である「生産年齢」は、通常15歳以上65歳未満に設定されています。

今後は、一般的に何歳まで働くのが望ましいとあなたは思いますか。

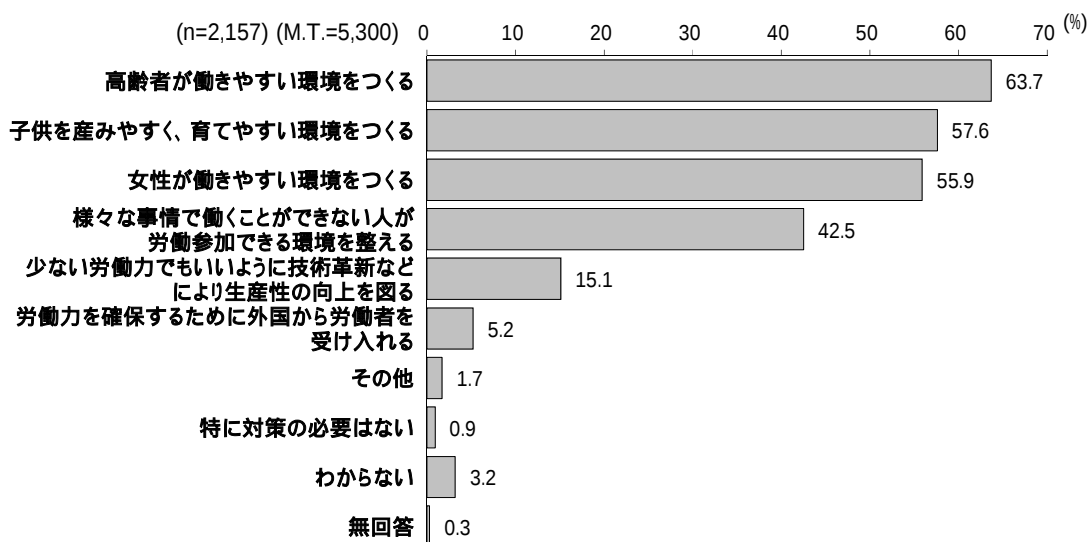


働くのが望ましい年齢は、「年齢で一律に捉えるべきではない」(36.7%)が3割台半ばを超えて最も高くなっている。また、望ましい年齢としては、「66～69歳」(22.9%)、「65歳」(16.4%)、「70～74歳」(9.7%)などとなっており、65歳以上と回答した人の合計(51.6%)は5割強となっている。

(7) 経済の活力を維持するために必要なこと

「高齢者が働きやすい環境をつくる」63.7%

問18 働くことのできる人口が将来的に減少していく中で、経済の活力を維持するためにどのような対策が必要だとあなたは思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



経済の活力を維持するために必要なことは、「高齢者が働きやすい環境をつくる」(63.7%)が6割強と最も高く、次いで「子供を産みやすく、育てやすい環境をつくる」(57.6%)、「女性が働きやすい環境をつくる」(55.9%)、「様々な事情で働くことができない人が労働参加できる環境を整える」(42.5%)などとなっている。

5 大地震への備え

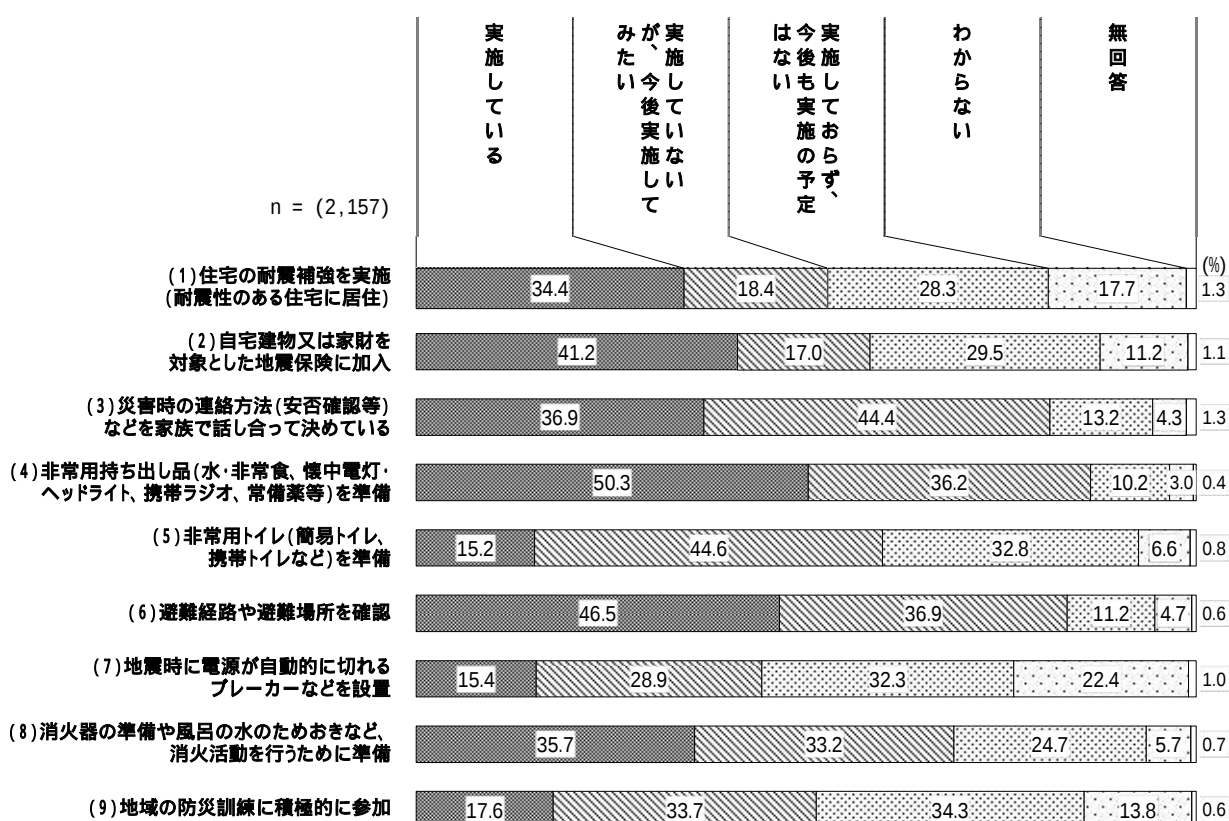
「大地震への備え」をテーマに、関連することについておたずねしました。

首都直下地震の発生が懸念される中、自助・共助・公助それぞれの主体ができる限りの対策を講じることで、社会全体の被害の軽減を図らなければなりません。県民一人一人が「日ごろから備える」ことを促進するため、県では「命を守る3つの自助の取組」として「家具の固定」「災害用伝言サービスの体験」「3日分以上の水・食料の備蓄」を呼びかけています。

(1) 大地震に備えた取組の実施状況

「実施している」は非常用持ち出し品（水・非常食、懐中電灯・ヘッドライト、携帯ラジオ、常備薬等）を準備が50.3%

問19 あなたの家では、大地震に備えるために、どのような取組を実施していますか。次の(1)から(10)までのそれぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。



「(10) その他」については、具体的な取組状況の回答を一部抜粋して記載した(54ページ参照)。

大地震に備えた取組の実施状況は、「実施している」は非常用持ち出し品（水・非常食、懐中電灯・ヘッドライト、携帯ラジオ、常備薬等）を準備（50.3%）が約5割と最も高く、「実施していないが、今後実施してみたい」は、非常用トイレ（簡易トイレ、携帯トイレなど）を準備（44.6%）と災害時の連絡方法（安否確認等）などを家族で話し合っている（44.4%）が4割台半ばと高くなっている。「実施しておらず、今後も実施の予定はない」は、地域の防災訓練に積極的に参加（34.3%）が3割台半ばと最も高くなっている。

(1) 住宅の耐震補強を実施 (耐震性のある住宅に居住)

「実施している」(34.4%) は3割台半ば、「実施していないが、今後実施してみたい」(18.4%) は2割弱となっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(28.3%) は3割弱となっている。

(2) 自宅建物又は家財を対象とした地震保険に加入

「実施している」(41.2%) は4割強、「実施していないが、今後実施してみたい」(17.0%) は1割台半ばを超えている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(29.5%) は約3割となっている。

(3) 災害時の連絡方法 (安否確認等) などを家族で話し合っている

「実施している」(36.9%) は3割台半ばを超え、「実施していないが、今後実施してみたい」(44.4%) は4割台半ばとなっている。

(4) 非常用持ち出し品 (水・非常食、懐中電灯・ヘッドライト、携帯ラジオ、常備薬等) を準備

「実施している」(50.3%) は約5割、「実施していないが、今後実施してみたい」(36.2%) は3割台半ばを超えている。

(5) 非常用トイレ (簡易トイレ、携帯トイレなど) を準備

「実施している」(15.2%) は1割台半ば、「実施していないが、今後実施してみたい」(44.6%) は4割台半ばとなっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(32.8%) は3割強となっている。

(6) 避難経路や避難場所を確認

「実施している」(46.5%) は4割台半ばを超え、「実施していないが、今後実施してみたい」(36.9%) は3割台半ばを超えている。

(7) 地震時に電源が自動的に切れるブレーカーなどを設置

「実施している」(15.4%) は1割台半ば、「実施していないが、今後実施してみたい」(28.9%) は3割弱となっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(32.3%) は3割強となっている。

(8) 消火器の準備や風呂の水のためおきなど、消火活動を行うために準備

「実施している」(35.7%) は3割台半ば、「実施していないが、今後実施してみたい」(33.2%) は3割強となっている。

(9) 地域の防災訓練に積極的に参加

「実施している」(17.6%) は1割台半ばを超え、「実施していないが、今後実施してみたい」(33.7%) は3割強となっている。

(10) その他

○大地震に備えた取組の実施状況 (19件)

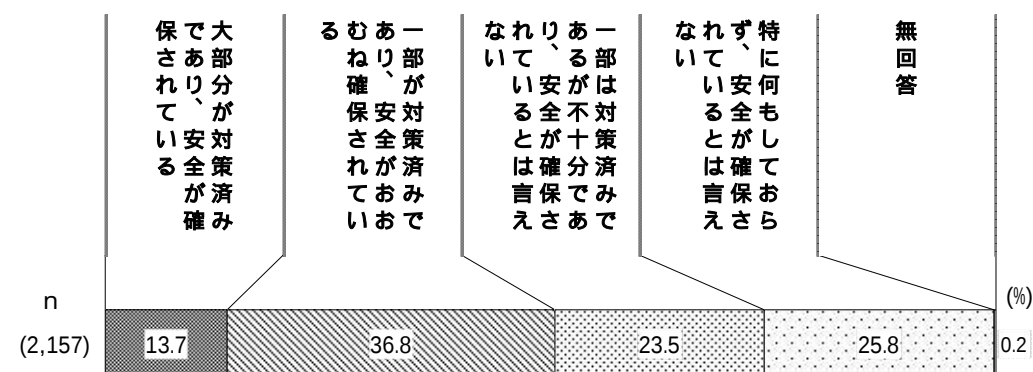
【主な回答 (一部抜粋)】

- ・自家発電装置有り。(「実施している」)
- ・Twitter等の掲示板等の参加。(「実施している」)
- ・貴重品をまとめている。(「実施している」)
- ・市の災害時メール着信の設定。(「実施している」)

(2) 家具類の転倒・落下・移動への対策による安全確保状況

「一部が対策済みであり、安全がおおむね確保されている」36.8%

問20 あなたの家では、寝ている場所やよくいる場所（ダイニング、子供部屋等）避難経路（特に出入口）において、家具類（タンス、食器棚、本棚、冷蔵庫、電子レンジ、テレビ等）が転倒・落下・移動しないよう、固定や配置の工夫、集中収納、据え付け収納家具の活用、家具類がない部屋で就寝するなどの対策により、安全が確保されていますか。



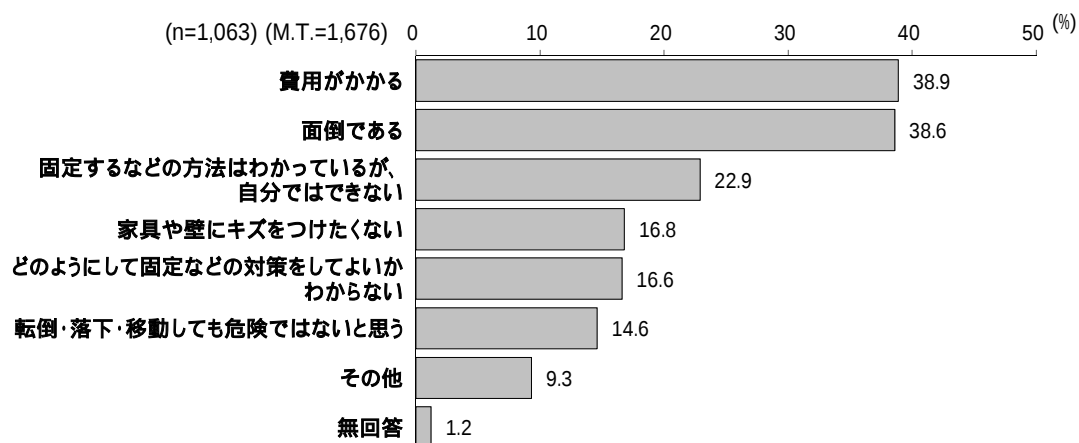
家具類の転倒・落下・移動への対策による安全確保状況は、「一部が対策済みであり、安全がおおむね確保されている」(36.8%)が3割台半ばを超えて最も高く、「一部は対策済みであるが不十分であり、安全が確保されているとは言えない」(23.5%)が2割強、「大部分が対策済みであり、安全が確保されている」(13.7%)が1割強となっている。一方で、「特に何もしておらず、安全が確保されているとは言えない」(25.8%)は2割台半ばとなっている。なお、「大部分が対策済みであり、安全が確保されている」(13.7%)と「一部が対策済みであり、安全がおおむね確保されている」(36.8%)を合わせると5割強(50.5%)となっている。

(3) 対策が不十分で安全が確保されていない理由

「費用がかかる」38.9%、「面倒である」38.6%

(問20で「一部は対策済みであるが不十分であり、安全が確保されているとは言えない」
「特に何もしておらず、安全が確保されているとは言えない」のいずれかを答えた方に)

問20 - 1 あなたの家において、家具類が転倒・落下・移動しないための対策が不十分であり、
寝ている場所やよくいる場所、避難経路の安全が確保されていない理由は何ですか。あ
てはまるものをすべて選んでください。

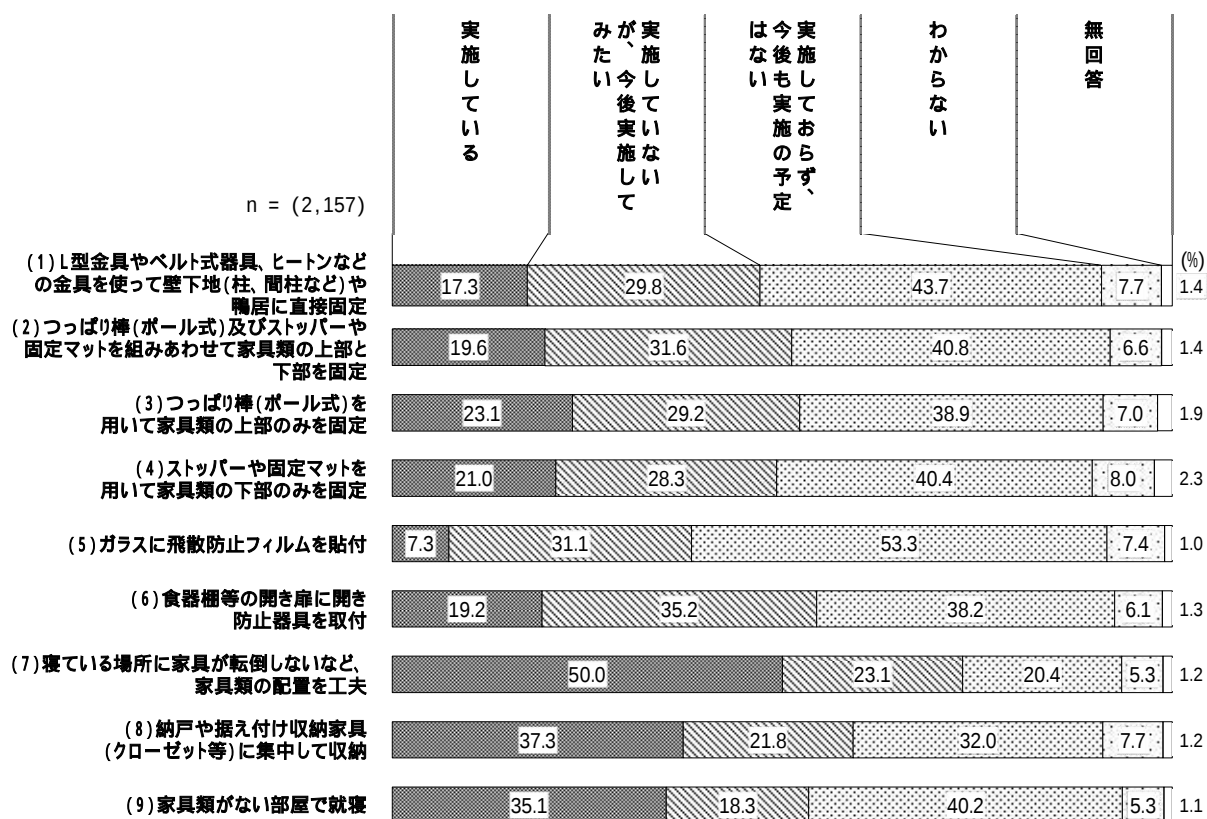


対策が不十分で安全が確保されていない理由は、「費用がかかる」(38.9%)と「面倒である」(38.6%)
がともに 4 割弱と高く、次いで「固定する方法はわかっているが、自分ではできない」(22.9%)
「家具や壁にキズをつけたくない」(16.8%)、「どのようにして固定などの対策をしてよいかわから
ない」(16.6%) などとなっている。

(4) 家具類の転倒・落下・移動による危険防止の対策

「実施している」は寝ている場所に家具が転倒しないなど、家具類の配置を工夫が50.0%

問21 あなたの家では、家具類の転倒・落下・移動による危険防止のため、どのような対策を実施していますか。次の(1)から(10)までのそれぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。



「(10) その他」については、具体的な取組状況の回答を一部抜粋して記載した(58ページ参照)

家具類の転倒・落下・移動による危険防止の対策について、「実施している」は寝ている場所に家具が転倒しないなど、家具類の配置を工夫(50.0%)が5割と最も高く、次いで「納戸や据え付け収納家具(クローゼット等)に集中して収納」(37.3%)、「家具類がない部屋で就寝」(35.1%)が3割台後半と比較的高くなっている。「実施していないが、今後実施してみたい」は食器棚等の開き扉に開き防止器具を取付(35.2%)が3割台半ばと最も高くなっている。

(1) L型金具やベルト式器具、ヒートン(壁などにねじこんで物を吊り上げるために用いる金具)などの金具を使って壁下地(柱、間柱など)や鴨居に直接固定

「実施している」(17.3%)は1割台半ばを超え、「実施していないが、今後実施してみたい」(29.8%)は約3割となっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(43.7%)は4割強となっている。

(2) つっぱり棒 (ポール式) 及びストッパーや固定マットを組みあわせて家具類の上部と下部を固定

「実施している」(19.6%) は約 2 割、「実施していないが、今後実施してみたい」(31.6%) は 3 割強となっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(40.8%) は約 4 割となっている。

(3) つっぱり棒 (ポール式) を用いて家具類の上部のみを固定

「実施している」(23.1%) は 2 割強、「実施していないが、今後実施してみたい」(29.2%) は 3 割弱となっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(38.9%) は 4 割弱となっている。

(4) ストッパーや固定マットを用いて家具類の下部のみを固定

「実施している」(21.0%) は 2 割強、「実施していないが、今後実施してみたい」(28.3%) は 3 割弱となっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(40.4%) は約 4 割となっている。

(5) ガラスに飛散防止フィルムを貼付

「実施している」(7.3%) は 1 割未満、「実施していないが、今後実施してみたい」(31.1%) は 3 割強となっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(53.3%) は半数を超えている。

(6) 食器棚等の開き扉に開き防止器具を取付

「実施している」(19.2%) は約 2 割、「実施していないが、今後実施してみたい」(35.2%) は 3 割台半ばとなっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(38.2%) は 4 割弱となっている。

(7) 寝ている場所に家具が転倒しないなど、家具類の配置を工夫

「実施している」(50.0%) は 5 割、「実施していないが、今後実施してみたい」(23.1%) は 2 割強となっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(20.4%) は約 2 割となっている。

(8) 納戸や据え付け収納家具 (クローゼット等) に集中して収納

「実施している」(37.3%) は 3 割台半ばを超え、「実施していないが、今後実施してみたい」(21.8%) は 2 割強となっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(32.0%) は 3 割強となっている。

(9) 家具類がない部屋で就寝

「実施している」(35.1%) は 3 割台半ば、「実施していないが、今後実施してみたい」(18.3%) は 2 割弱となっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」(40.2%) は約 4 割となっている。

(10) その他

○家具類の転倒・落下・移動による危険防止の対策 (25件)

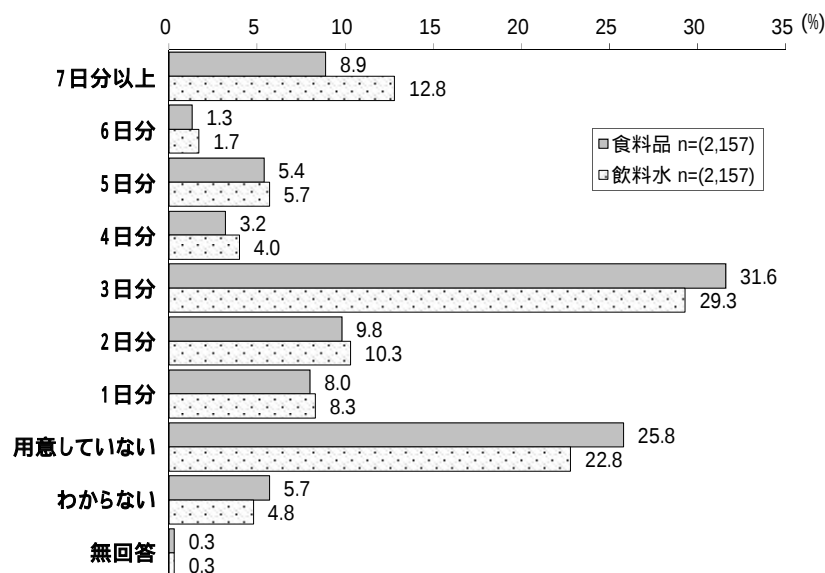
【主な回答 (一部抜粋)】

- ・タンスの上に物を置かない。(「実施している」)
- ・転倒の可能性がある家具は所有せず。(「実施している」)
- ・開き戸は使用せず、スライド式のみ。(「実施している」)
- ・背の高い家具を置かない。(「実施している」)

(5) 災害時に備えた備蓄量

食料品、飲料水ともに「 3 日分」が 3 割程度と最多

問22 あなたの家では、災害時に利用できる食料品及び飲料水を何日分用意していますか。



災害時に備えた食料品及び飲料水の備蓄量について、食料品、飲料水ともに「 3 日分」が最も多く、食料品 (31.6 %) で 3 割強、飲料水 (29.3 %) で 3 割弱となっている。なお、備蓄量を「 3 日分」以上と回答した人の割合を合わせると、食料品 (50.4 %)、飲料水 (53.5 %) とともに 5 割強となっている。また、備蓄量の日数を平均すると、食料品が 2.5 日分、飲料水が 2.8 日分となっている。

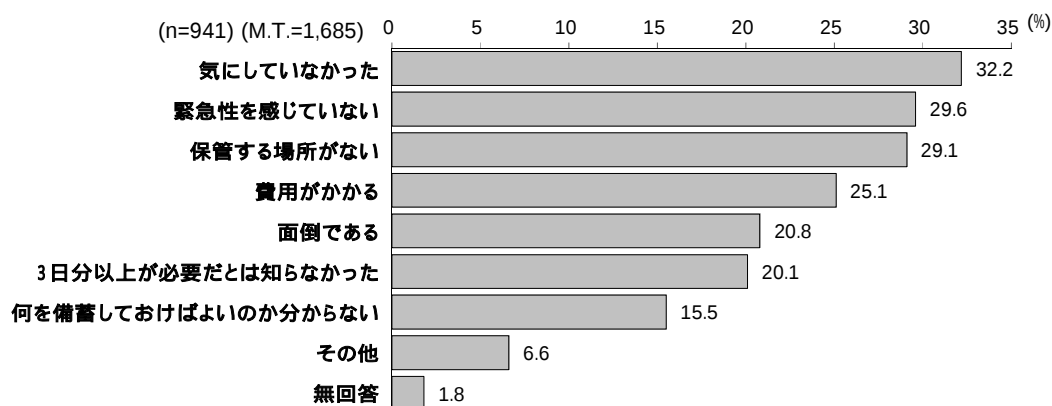
なお、以下の「属性別比較」において、食料品と飲料水では、ほぼ同じ傾向がみられた。

(6) 3 日分以上の食料品の備蓄をしていない理由

「気にしていなかった」32.2%

(問22 (1) で「 2 日分 」、「 1 日分 」、「用意していない」のいずれかを答えた方に)

問22 (1) - 1 あなたの家で、3 日分以上の食料品の備蓄をしていない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



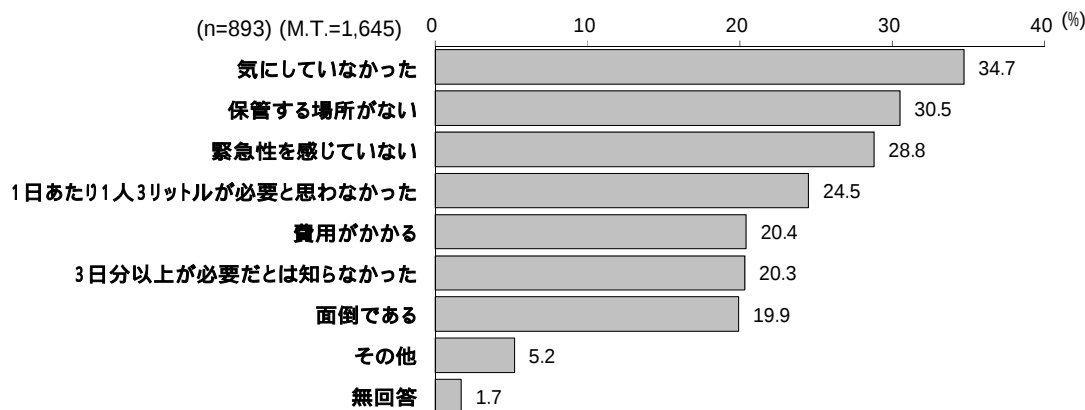
3 日分以上の食料品の備蓄をしていない理由は、「気にしていなかった」(32.2%) が 3 割強と最も高く、次いで、「緊急性を感じていない」(29.6%) 「保管する場所がない」(29.1%) 「費用がかかる」(25.1%) 「面倒である」(20.8%) 「3 日分以上が必要だとは知らなかった」(20.1%) などとなっている。

(7) 3 日分以上の飲料水の備蓄をしていない理由

「気にしていなかった」34.7%

(問22 (2) で「 2 日分 」、「 1 日分 」、「用意していない」のいずれかを答えた方に)

問22 (2) - 1 あなたの家で、3 日分以上の飲料水 (1 日あたり 1 人 3 リットル) の備蓄をしていない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

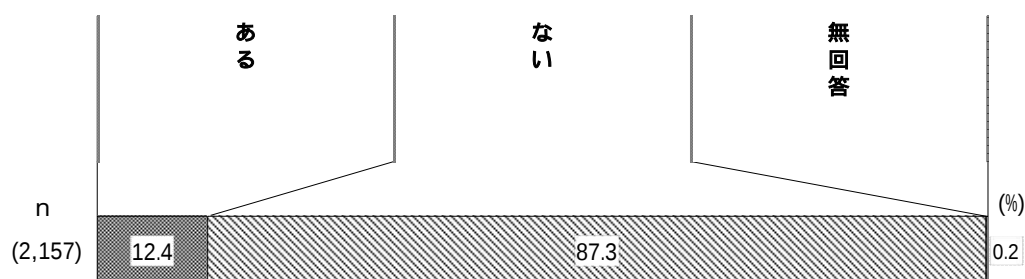


3 日分以上の飲料水の備蓄をしていない理由は、「気にしていなかった」(34.7%) が 3 割台半ばと最も高く、次いで、「保管する場所がない」(30.5%) 「緊急性を感じていない」(28.8%) 「1 日あたり 1 人 3 リットルが必要と思わなかった」(24.5%) 「費用がかかる」(20.4%) 「3 日分以上が必要だとは知らなかった」(20.3%) 「面倒である」(19.9%) などとなっている。

(8) 災害用伝言サービスの体験利用経験

「ない」 87.3%

問23 あなたは「災害用伝言サービス」を体験利用 () したことがありますか。
 体験利用日：毎月1日・15日、防災週間(8/30～9/5) 正月三が日(1/1～3)
 防災とボランティア週間(1/15～21)



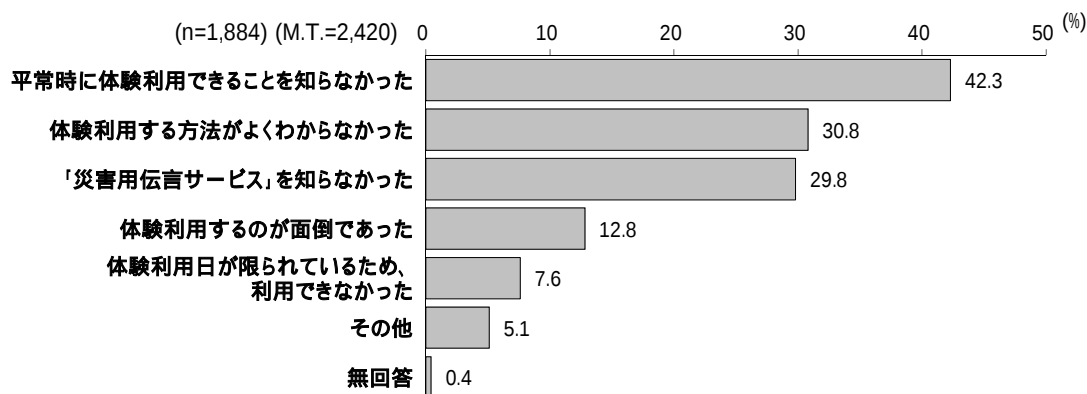
災害用伝言サービスの体験利用経験は「ある」(12.4%)が1割強と低く、「ない」(87.3%)が8割台半ばを超えて高くなっている。

(9) 災害用伝言サービスの体験利用をしたことがない理由

「平常時に体験利用できることを知らなかった」 42.3%

(問23で「ない」と答えた方に)

問23 - 1 あなたが「災害用伝言サービス」を体験利用したことがない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

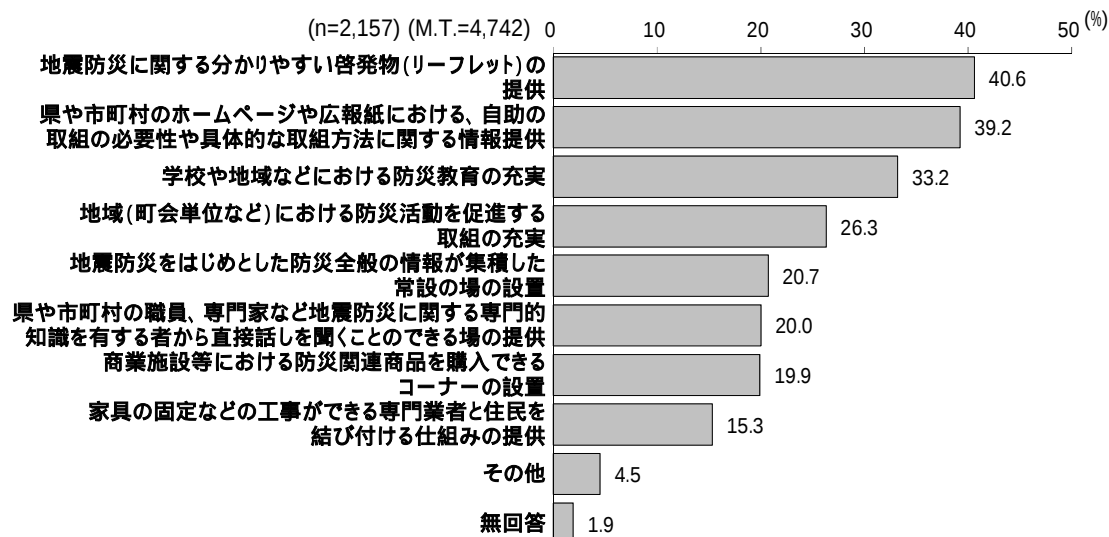


災害用伝言サービスの体験利用をしたことがない理由は、「平常時に体験利用できることを知らなかった」(42.3%)が4割強と最も高く、次いで「体験利用する方法がよくわからなかった」(30.8%)、「災害用伝言サービス」を知らなかった」(29.8%)などとなっている。

(10) 大地震に備えた自助の取組に必要な支援

「地震防災に関する分かりやすい啓発物（リーフレット）の提供」40.6%

問24 あなたは、今後どのような支援があれば、大地震に備えた自助（自分の命は自分で守る）の取組を進めやすいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



大地震に備えた自助の取組に必要な支援は、「地震防災に関する分かりやすい啓発物（リーフレット）の提供」(40.6%)が4割強と最も高く、次いで、「県や市町村のホームページや広報紙における、自助の取組の必要性や具体的な取組方法に関する情報提供」(39.2%)、「学校や地域などにおける防災教育の充実」(33.2%)、「地域（町会単位など）における防災活動を促進する取組の充実」(26.3%)などとなっている。

6 川の再生

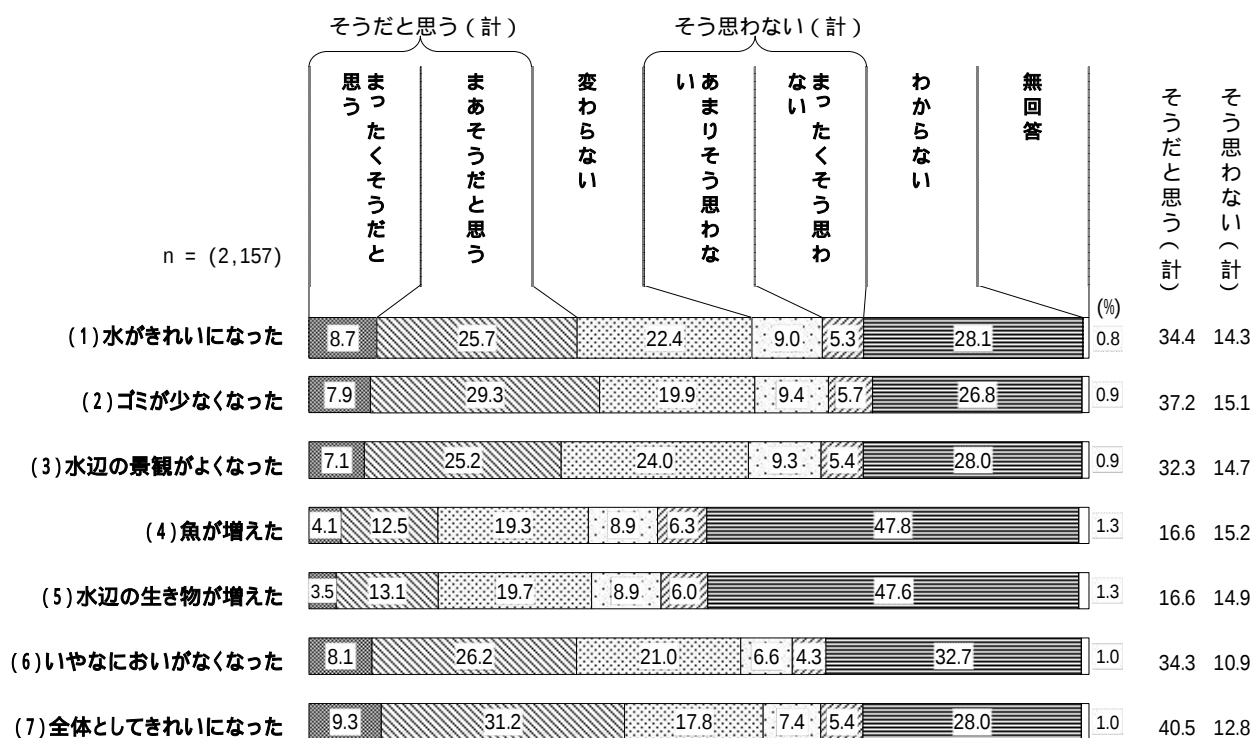
「川の再生」をテーマに、関連することについておたずねしました。

県では、河川の面積割合と川幅が日本一という特徴を生かし、「川の国埼玉」を実現するため、「清流の復活」と「安らぎとにぎわいの空間創出」の2本柱で、平成20年度から「川の再生」に取り組んできました。

(1) 近くの川の評価

「全体としてきれいになった」を『そうだと思う(計)』が4割強

問25 あなたは、お住まいの近くの川について、10年くらい前と比べて現在どのように感じていますか。次の(1)から(7)までのそれぞれの項目について、あなたの考えに近いものを選んでください。



近くの川の評価について、「まったくそうだと思う」と「まあそうだと思う」を合わせた『そうだと思う(計)』は、「ゴミが少なくなった」(37.2%)、「水がきれいになった」(34.4%)、「いやなにおいがなくなった」(34.3%)、「水辺の景観がよかった」(32.3%)が3割を超え、「全体としてきれいになった」(40.5%)が4割強と高い評価となっている。一方で、「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、すべての項目で1割台となっている。

(1) 水がきれいになった

『そうだと思う(計)』(34.4%)は3割台半ばとなっている。一方で、『そう思わない(計)』(14.3%)は1割台半ばとなっている。また、「変わらない」(22.4%)は2割強となっている。

(2) ゴミが少なくなった

『そうだと思う(計)』(37.2%)は3割台半ばを超えている。一方で、『そう思わない(計)』(15.1%)は1割台半ばとなっている。また、「変わらない」(19.9%)は約2割となっている。

(3) 水辺の景観がよくなった

『そうだと思う(計)』(32.3%)は3割強となっている。一方で、『そう思わない(計)』(14.7%)は1割台半ばとなっている。また、「変わらない」(24.0%)は2割台半ばとなっている。

(4) 魚が増えた

『そうだと思う(計)』(16.6%)の方が『そう思わない(計)』(15.2%)よりも1.4ポイント高くなっているが、ともに1割台となっている。また、「変わらない」(19.3%)は約2割となっている。

(5) 水辺の生き物が増えた

『そうだと思う(計)』(16.6%)の方が『そう思わない(計)』(14.9%)よりも1.7ポイント高くなっているが、ともに1割台となっている。また、「変わらない」(19.7%)は約2割となっている。

(6) いやなにおいがなくなった

『そうだと思う(計)』(34.3%)は3割台半ばとなっている。一方で、『そう思わない(計)』(10.9%)は約1割となっている。また、「変わらない」(21.0%)は2割強となっている。

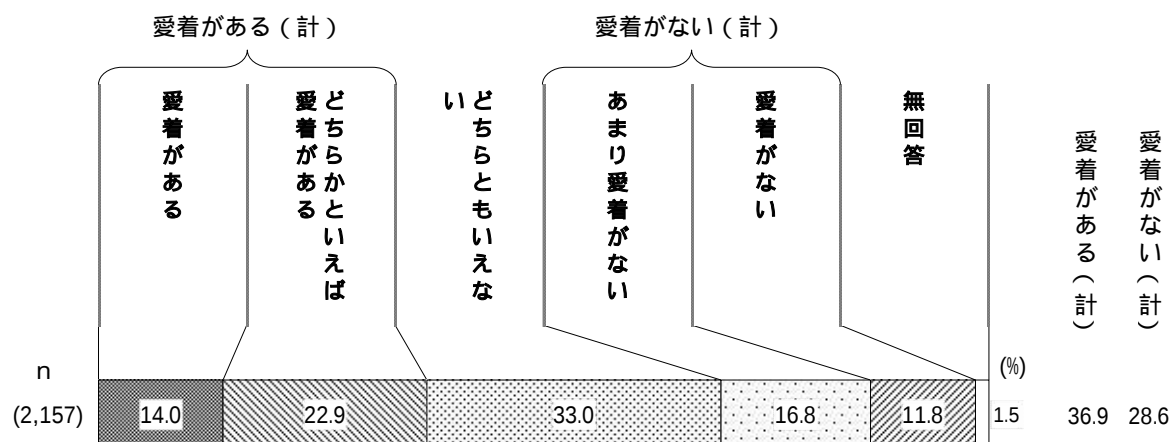
(7) 全体としてきれいになった

『そうだと思う(計)』(40.5%)は約4割となっている。一方で、『そう思わない(計)』(12.8%)は1割強となっている。また、「変わらない」(17.8%)は1割台半ばを超えている。

(2) 近くの川への愛着

『愛着がある(計)』36.9%、『愛着がない(計)』28.6%

問26 あなたは、お住まいの近くの川への愛着について、どのように感じていますか。

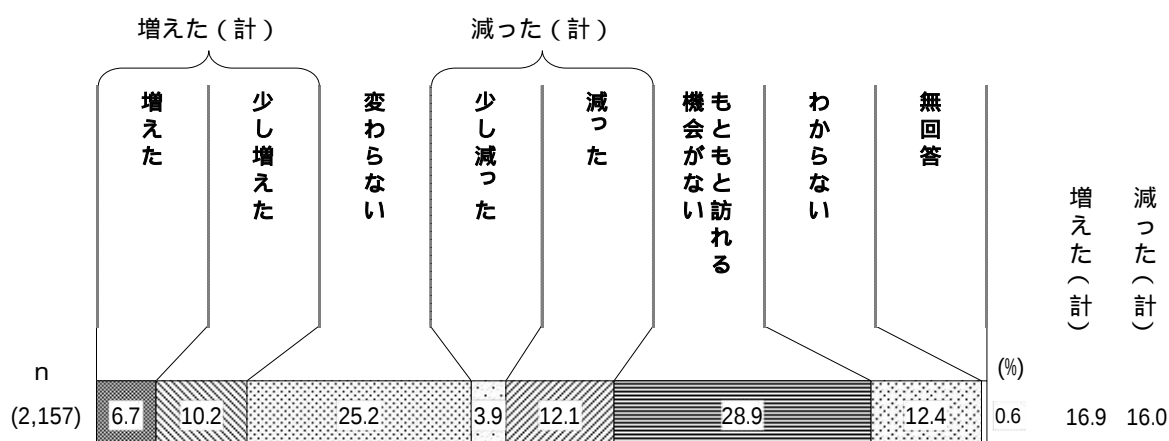


近くの川への愛着は、「愛着がある」(14.0%)と「どちらかといえば愛着がある」(22.9%)を合わせた『愛着がある(計)』(36.9%)は3割台半ばを超えている。一方で、「愛着がない」(11.8%)と「あまり愛着がない」(16.8%)を合わせた『愛着がない(計)』(28.6%)は3割弱となっている。

(3) 近くの川を訪れる機会の増減

「もともと訪れる機会がない」28.9%

問27 あなたは、お住まいの近くの川を散歩やサイクリング、釣り、川遊びなどで訪れる機会について、10年くらい前と比べてどのようになりましたか。

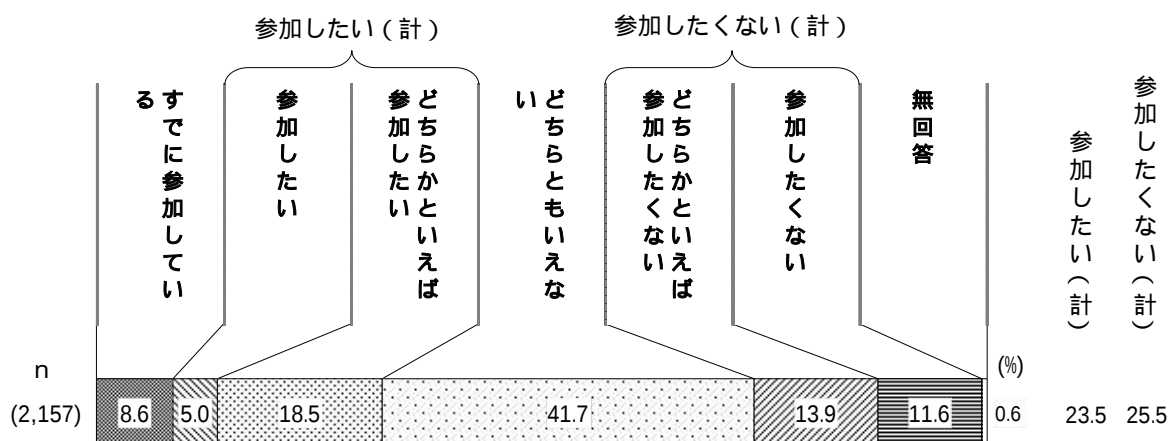


近くの川を訪れる機会については、「もともと訪れる機会がない」(28.9%)が3割弱で最も高くなっている。「増えた」(6.7%)と「少し増えた」(10.2%)を合わせた『増えた(計)』(16.9%)、「減った」(12.1%)と「少し減った」(3.9%)を合わせた『減った(計)』(16.0%)はともに1割台半ばを超えて同じ程度となっている。また、「変わらない」(25.2%)は2割台半ばとなっている。

(4) 川の美化活動への参加意向

「どちらともいえない」41.7%

問28 あなたは、川の美化活動（ゴミ拾い、草刈りなど）への参加について、どのように思いますか。

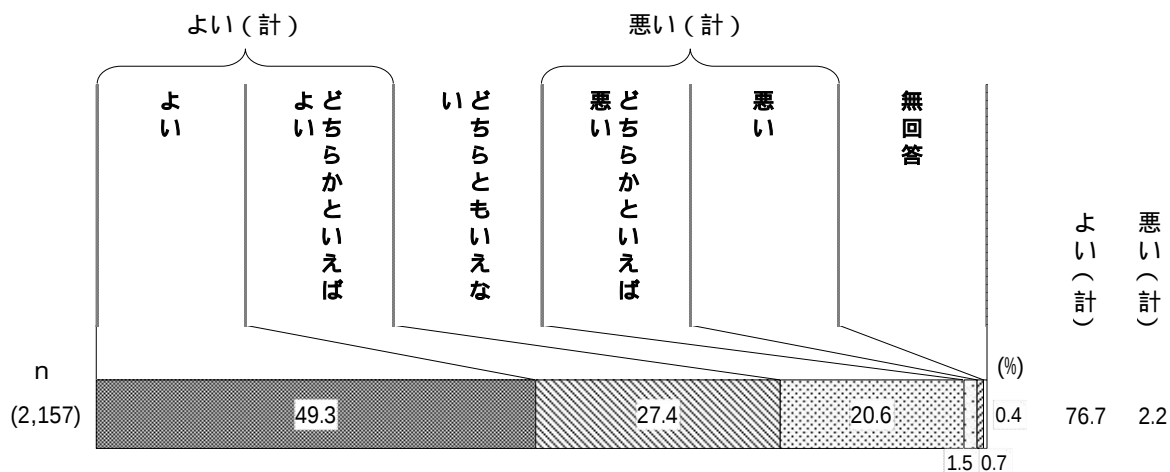


川の美化活動への参加については、「どちらともいえない」(41.7%)が4割強で最も高くなっている。「参加したい」(5.0%)と「どちらかといえば参加したい」(18.5%)を合わせた『参加したい(計)』(23.5%)は2割強、「参加したくない」(11.6%)と「どちらかといえば参加したくない」(13.9%)を合わせた『参加したくない(計)』(25.5%)は2割台半ばとなっている。また、「すでに参加している」(8.6%)は1割未満であった。

(5) 河川空間を有効活用する取組への評価

『よい(計)』76.7%

問29 あなたは、地域の資源として河川空間を有効活用する取組について、どのように思いますか。

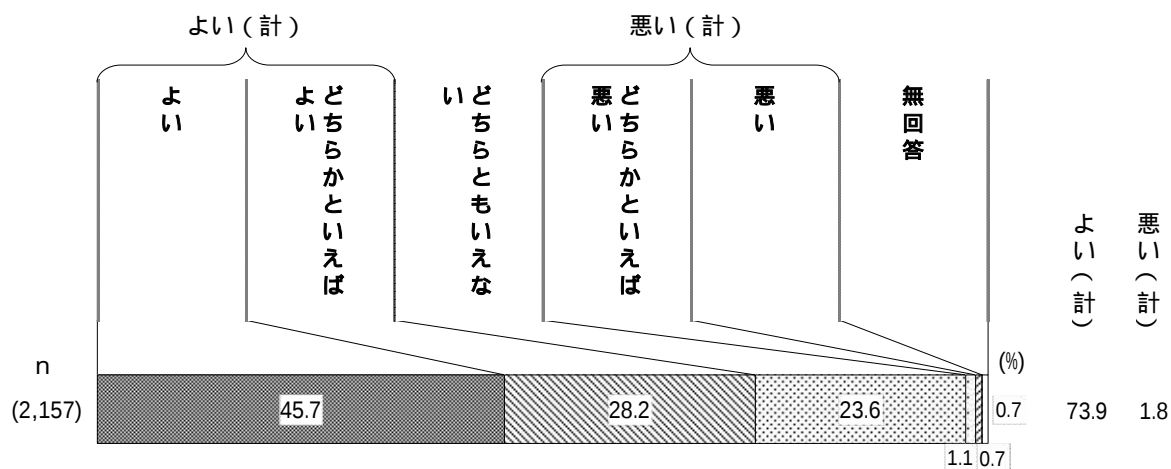


河川空間を有効活用する取組については、「よい」(49.3%)と「どちらかといえばよい」(27.4%)を合わせた『よい(計)』(76.7%)は7割台半ばを超え、「悪い」(0.7%)と「どちらかといえば悪い」(1.5%)を合わせた『悪い(計)』(2.2%)は1割未満となっている。

(6) 「川の再生」の取組への評価

『よい(計)』73.9%

問30 あなたは、県が進める「川の再生」の取組全般について、どのように思いますか。



県が進める「川の再生」の取組全般については、「よい」(45.7%)と「どちらかといえばよい」(28.2%)を合わせた『よい(計)』(73.9%)は7割強、「悪い」(0.7%)と「どちらかといえば悪い」(1.1%)を合わせた『悪い(計)』(1.8%)は1割未満となっている。

世論調査実施状況

(参考資料)

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
1	昭和43年度	8月16日～9月2日	県政全般(県政への関心、暮らし向き、青少年、教育、保健、スポーツ、社会福祉、住宅、環境等)	1,500	個別面接聴取法	84.0%
2	昭和44年度	7月15日～31日	県政全般(自治意識、暮らし向き、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、環境、消費生活等)	1,500	個別面接聴取法	81.3%
3	昭和45年度	9月20日～10月10日	県政全般(自治意識、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、公害、消費生活、農業等)	1,500	個別面接聴取法	86.5%
4		11月9日～24日	広報、具体的な広報の媒体、広聴	1,500	個別面接聴取法	89.1%
5	昭和46年度	9月20日～10月3日	近隣社会、居住環境	1,500	個別面接聴取法	90.7%
6		11月26日～12月9日	大災害に関すること(一般的関心、地震、防火、避難、近隣組織、職場・外出先での対策、地震に対する備えについて)	1,500	個別面接聴取法	86.6%
7	昭和47年度	10月26日～11月4日	県政全般(公害・交通問題、県民の健康とくらし、教育・文化・スポーツを伸ばす等)	1,500	個別面接聴取法	82.5%
8	昭和48年度	11月14日～26日	県政全般(広報、自然環境と開発、福祉、消費生活、ごみ処理、保健、商工、農林、労働、都市環境、教育等)	1,500	個別面接聴取法	84.7%
9	昭和49年度	8月15日～27日	県政全般(現在の住まい、広報、公害、交通、健康、県民のくらし、学校教育、自然保護等)	1,500	個別面接聴取法	80.9%
10	昭和50年度	8月上旬～中旬	県政全般(公害、交通安全、災害、警察、医療、福祉、教育、自然保護と開発、水、住宅、ごみ、商工、農林等)	1,500	個別面接聴取法	77.1%
11		3月9日～18日	学校教育、生活環境、自然環境	1,500	個別面接聴取法	83.0%
12	昭和51年度	7月20日～31日	水問題、福祉問題、コミュニティ問題	1,500	個別面接聴取法	83.9%
13	昭和52年度	6月15日～30日	地域社会、地域福祉、文化活動、医療、献血、暴走族、県政への満足度、県民討論会、県政全般	1,500	個別面接聴取法	83.6%
14	昭和53年度	7月14日～26日	文化の問題、婦人の問題、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.1%
15	昭和54年度	7月10日～26日	みどりの環境、地震災害、県政全般	1,500	個別面接聴取法	81.9%
16	昭和55年度	7月25日～8月11日	老人福祉、21世紀のまちづくり、地価及び宅地問題、県政全般	1,500	留置記入依頼法	87.5%
17	昭和56年度	7月25日～8月14日	水問題、障害者福祉、県政全般	1,500	個別面接聴取法	84.1%
18	昭和57年度	7月23日～8月12日	交通安全、行政改革、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	82.5%
19	昭和58年度	7月20日～8月14日	21世紀の県民生活、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.7%
20	昭和59年度	7月20日～8月12日	みどり、快適な環境、文化活動、サービス業、県税、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	80.4%
21	昭和60年度	7月18日～8月11日	高齢化社会、コミュニティ、学校教育、平和、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	78.4%
22	昭和61年度	7月9日～8月14日	国際交流、健康、快適な環境、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.1%
23	昭和62年度	6月1日～30日	住環境、景観、交通網、生涯学習、ボランティア活動、社会意識、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	80.2%
24	昭和63年度	7月1日～31日	県民生活、土地問題、ごみ処理、文化活動、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.7%
25	平成元年度	6月23日～7月23日	高度情報化施策、男女平等意識、青少年健全育成、埼玉コロシウム・埼玉メッセ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
26	平成2年度	7月4日～29日	環境保全、交通安全、県税、お墓、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	78.1%

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
27	平成3年度	7月5日～8月4日	スポーツ・レクリエーション活動、道路整備、ペット問題、商品包装、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.5%
28	平成4年度	6月26日～7月26日	住宅問題、防災、高度情報化施策、個人情報の保護、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.0%
29	平成5年度	7月9日～8月4日	新しいくにつくり、人と環境にやさしいリサイクル県づくり、国際化とまちづくり、住みよさ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.2%
30	平成6年度	7月8日～8月10日	消費生活、ボランティア活動・福祉活動への参加について、子どもと家族、県の広報について、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
31	平成7年度	7月1日～31日	21世紀の彩の国さいたまの将来像、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	78.3%
32	平成8年度	7月10日～8月11日	ごみ減量化について、身近な自然について、健康と医療サービスについて、高度情報化施策について、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.3%
33	平成9年度	8月16日～9月15日	県政情報、安全な暮らし(防災、高齢者の交通安全、犯罪)、墓地、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.8%
34	平成10年度	7月10日～8月9日	国民体育大会、青少年問題、公園、高齢者福祉、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.9%
35	平成11年度	7月9日～8月8日	埼玉県の緑、子育て支援、ボランティア活動、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
36	平成12年度	7月8日～8月7日	環境全般・環境学習について、公害問題について、廃棄物問題・リサイクルについて、有害な化学物質について、地球温暖化について、環境保全活動について、今後の県の取り組み、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.7%
37	平成13年度	6月30日～7月30日	保健・医療、文化・芸術、国際交流・国際協力、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.2%
38	平成14年度	7月6日～8月5日	農林業の役割、屋外照明による生活環境への影響、日常生活、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
39	平成15年度	7月15日～8月5日	防犯、水環境、食の安全、日常生活、生活意識、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	67.3%
40	平成16年度	7月13日～8月10日	生活意識、日常生活、森林環境、地球温暖化、子どもの虐待、スポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.4%
41	平成17年度	7月2日～8月1日	生活意識、日常生活、子育て支援、みどりの環境税制、消費生活、まちづくり・住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.9%
42	平成18年度	7月8日～8月14日	生活意識、日常生活、生活規範とまちづくり、外国人との共生、団塊世代等の人材活用、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	65.3%
43	平成19年度	7月13日～8月6日	生活意識、日常生活、消費生活、子どもの安全対策、県民のスポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.4%
44	平成20年度	7月11日～8月8日	生活意識、日常生活、住みよさ、みどりと川の再生、大学と地域の連携、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.8%
45	平成21年度	7月10日～8月3日	生活意識、日常生活、定住意向、スポーツ振興、水道の未来づくり、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.0%
46	平成22年度	7月9日～8月2日	生活意識、日常生活、消費生活、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.1%
47	平成23年度	7月8日～8月1日	生活意識、日常生活、住みよさ、自転車利用、生涯学習、買い物弱者、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.7%
48	平成24年度	7月6日～29日	生活意識、日常生活、定住意向、健康長寿埼玉、震災前後における省エネ・創エネに関する意識と行動の変化、県教育行政、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.1%
49	平成25年度	7月5日～28日	生活意識、日常生活、個人情報の保護と活用、埼玉県ホームページの利用状況、生涯学習、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.0%
50	平成26年度	7月4日～27日	生活意識、日常生活、住みよさ、埼玉版ウーマノミクスプロジェクト、治水対策、食品ロスの削減、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	70.8%
51	平成27年度	7月3日～26日	生活意識、日常生活、定住意向、人口減少問題、大地震への備え、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.9%



埼玉県マスコット「コバトン&さいたまっち」